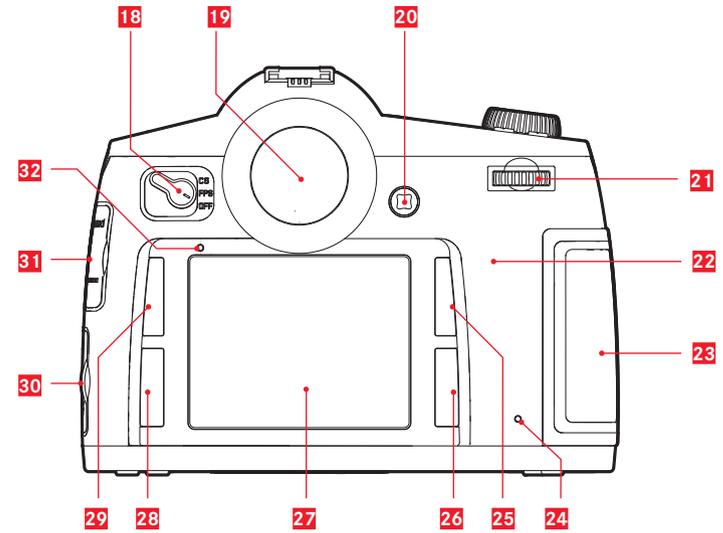
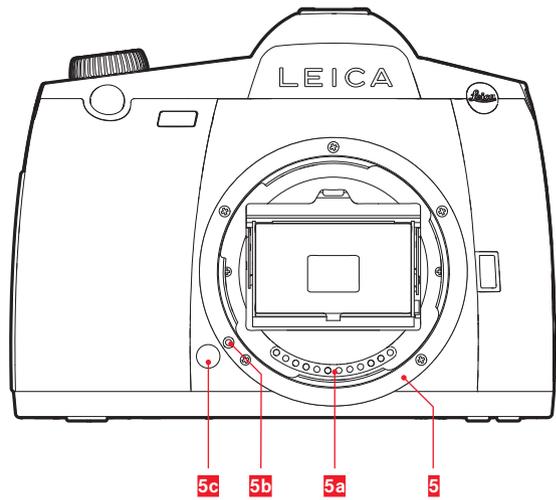
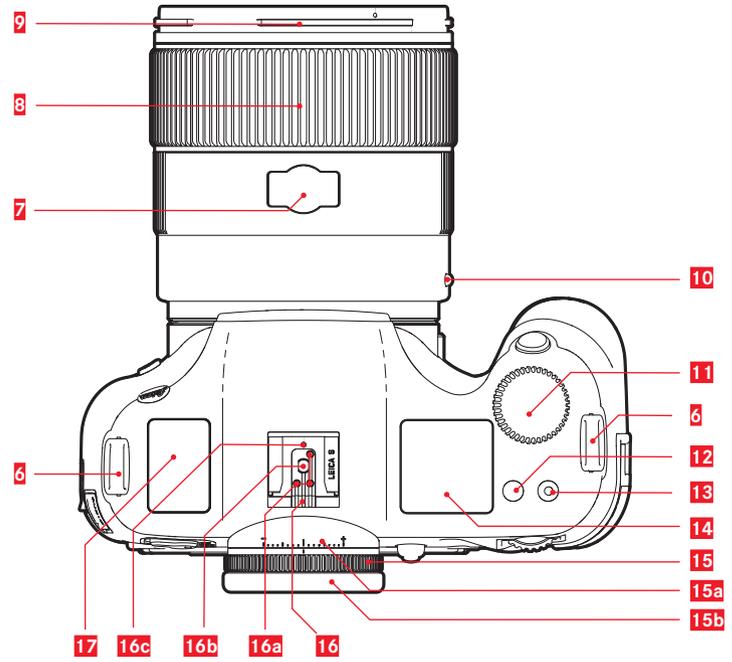
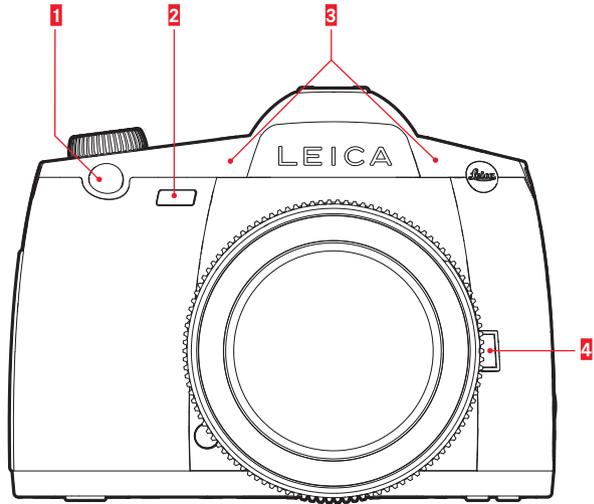
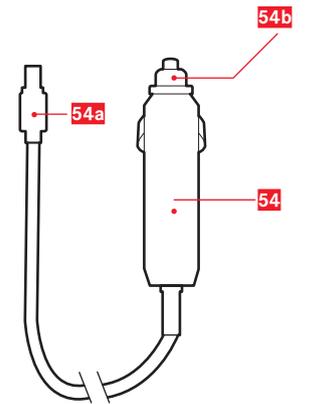
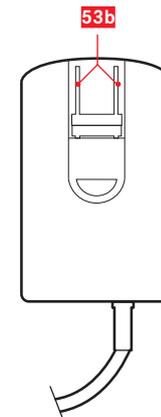
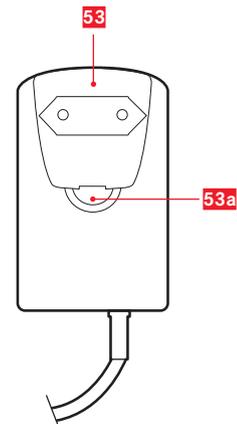
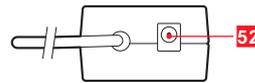
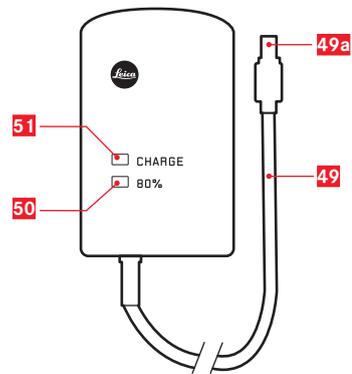
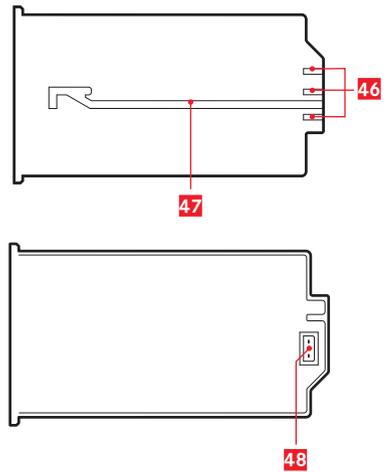
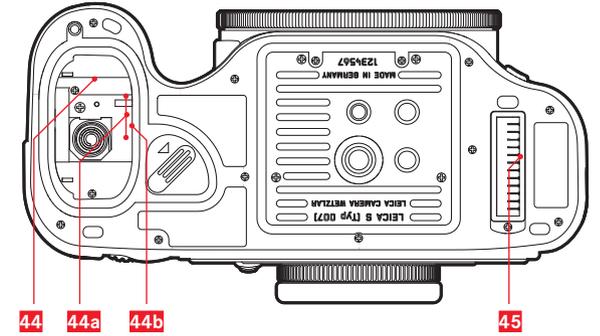
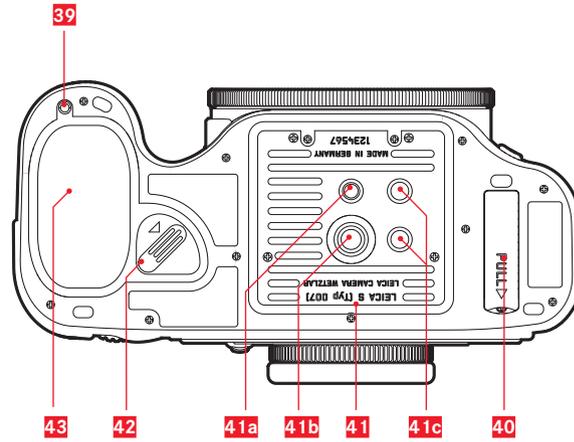
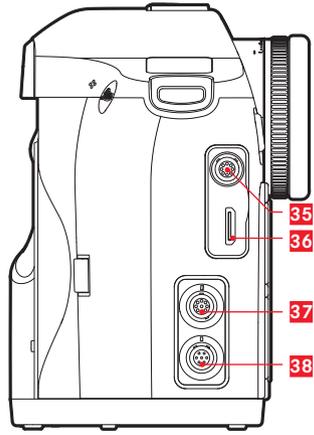
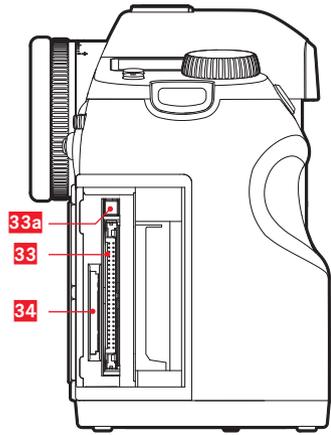




LEICA S

取扱説明書







LEICA S
取扱説明書

はじめに

お客様へ

この度はライカSをお買い上げいただき誠にありがとうございます。ライカSは、独特の機能性能を備えたミドルフォーマットデジタル一眼レフカメラです。

ライカSの機能と性能をご活用の上、末永くご愛用ください。ライカSを正しく十分にご活用いただくため、ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みください。

ライカカメラジャパン株式会社

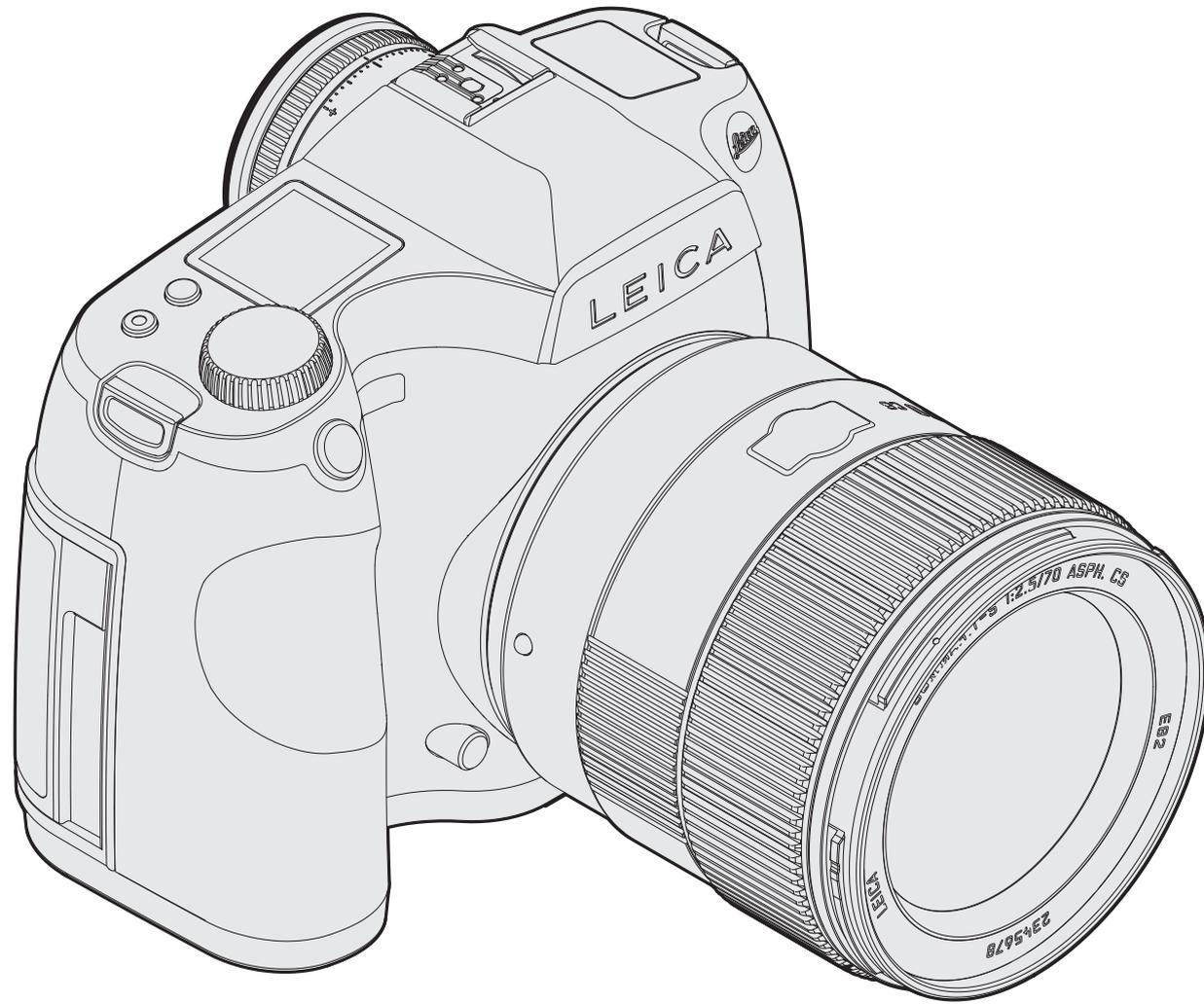
メモ

ライカは製品発売後も常に製品の性能の改良に努めております。デジタルカメラは非常に多くの機能が電子的に実装されているため、その改良および機能拡張を後からカメラにインストールすることができます。このため、ライカでは随時ファームウェアのアップデートを提供しています。通常ではカメラが工場から出荷される際に最新のファームウェアがインストールされますが、お客様ご自身でもライカのホームページから最新のファームウェアをダウンロードし、カメラを簡単にアップデートすることができます。

ライカカメラのホームページでカスタマー登録されますと、ファームウェアのアップデートが利用可能になったときには、ニュースレターを通じて情報を受け取れることができます。

ライカSのカスタマー登録は「カスタマーサイト」 (<https://owners.leica-camera.com>) で行えます。

お客様のカメラおよびレンズに装備されたファームウェアのバージョンは、メニュー項目のファームウェアで確認できます。



目次

はじめに.....	2	撮影の基本設定	
ご注意.....	6	画像ファイルの設定.....	22
CEについての注意.....	6	JPEG設定	
著作権と商標について.....	6	解像度.....	22
電気・電子機器の廃棄について.....	6	色空間.....	22
付属品.....	6	コントラスト/シャープネス/彩度.....	22
		解像度.....	22
各部の名称.....	7	ホワイトバランス.....	22
		オートおよびプリセットを選ぶ場合.....	23
使用前の準備		色温度を数値で設定する場合.....	23
キャリングストラップの取り付けかた.....	8	手動で設定する場合.....	23
バッテリーを充電する.....	8	ISO感度.....	24
バッテリーを入れる/取り出す.....	11	画像の保存方法を設定する.....	25
バッテリー残量表示.....	11		
メモリーカードを入れる / 取り出す.....	11	撮影する	
フォーカシングスクリーンを取り付ける / 取り外す.....	13	(画像撮影モード)	
S レンズ.....	14	シャッターリリースボタン.....	26
取り付けと取り外し.....	14	インターバル撮影をする.....	26
視度を調節する.....	15	ライブビューモード.....	27
カメラの電源を入れる/切る.....	15	露出シミュレーション.....	27
		ライブビューモード表示.....	27
メニュー操作.....	16	ヒストグラム.....	27
メニュー画面で設定する.....	17	クリッピング表示.....	27
メニュー項目を直接呼び出す (カスタム設定モード).....	18	被写体のピントが合っている部分を強調表示 (フォーカスピーキング).....	28
		グリッド.....	28
操作ガイド (詳細編)		水準器.....	28
カメラの基本設定		マスクング.....	28
表示言語.....	20	ライブビュー画面の拡大.....	28
日付と時刻.....	20	ピント合わせ.....	29
オートパワーオフ.....	20	マニュアルフォーカス - MF.....	29
LCD モニターと上面ディスプレイ.....	21	オートフォーカス.....	29
電子音.....	21	AFs - フォーカス優先.....	29
		AFc - シャッターリリース優先.....	29
		ライブビューモードでAFフレームを動かす.....	29
		測光方法を選ぶ (測光モード).....	30
		測光方式.....	30
		スポット測光.....	30
		中央重点測光.....	30
		多点測距.....	30
		露出やピントを固定して撮影する (AEロック/AFロック).....	32
		ジョイスティックによる保存.....	32
		露出補正.....	32
		露出を自動的に変えながら撮影する (オートブラケット).....	33
		測光範囲を超える場合.....	34

露出制御		再生モード		資料	
P：プログラムAEモード.....	30	撮影直後の画像を自動表示する（オートレビューモード）...	46	システムアクセサリ.....	53
プログラムシフト.....	31	時間の制限なく画像を表示する（[再生]モード）.....	46	スベア用アクセサリ.....	53
A：絞り優先AEモード.....	31	ビデオ再生.....	46	使用上のご注意とお手入れ.....	54
T：シャッター優先AEモード.....	31	音量設定.....	47	一般的なご注意.....	54
m：マニュアルモード.....	33	再生モード時の画面表示.....	47	お手入れ.....	54
セルフタイマーを使って撮影する.....	34	ヒストグラムとクリッピング表示による画像再生.....	47	センサー（撮像素子）のクリーニング.....	55
ミラーアップ撮影する.....	35	表示画像を切り替える/画像をスクロールする.....	48	保管.....	55
被写界深度を確認する（プレビューボタン）.....	35	画像を拡大表示する（ズーム表示）.....	48	索引.....	56
その他の機能・設定		段階的拡大表示.....	48	テクニカルデータ.....	58
好みの設定を保存する（ユーザープロファイル）.....	36	1ステップでの最大拡大.....	48	画面の表示	
設定をリセットする.....	36	選択した画像部分の移動.....	49	ファインダー.....	60
フォルダー管理.....	37	複数の画像を一覧表示する（インデックス表示）.....	49	上面ディスプレイ.....	61
メモリーカードをフォーマット（初期化）する.....	37	インデックス表示画面で画像を選ぶ.....	49	LCDモニター.....	62
指定した画像データを著作権保護する.....	38	画像をプロテクト（保護）する/プロテクトを解除する.....	50	メニュー項目一覧.....	66
GPSによる撮影地の記録.....	38	画像を削除する.....	50	ライカ デジタルサポートセンター.....	67
フラッシュを使って撮影する		他の危機と接続して使う		ライカ カスタマーケア.....	67
フラッシュ撮影について.....	39	画像をパソコンに取り込む.....	51		
対応フラッシュユニット.....	39	カードリーダーを使って画像を取り込む.....	51		
フラッシュ同調速度.....	39	メモリーカード内のフォルダ構造.....	51		
自動設定されるシャッター速度を制限する.....	40	Leica Image Shuttle.....	51		
フラッシュ同調のタイミングを選ぶ.....	40	ファームウェアをアップデートする.....	51		
フラッシュユニットを取り付ける.....	40	無線データ通信とカメラのリモートコントロール.....	52		
カメラによる発光量の					
自動制御.....	41				
TTL調光モード.....	41				
ハイスピードシンクロ（FP 発光）.....	41				
ストロボモード.....	41				
フラッシュユニット使用時の					
ファインダー表示.....	42				
自動調光モード.....	42				
マニュアル発光モード.....	42				
アクセサリシューに接続するフラッシュユニット.....	42				
フラッシュ端子/下側LEMO®端子で接続するフラッシュユニット.....	42				
動画撮影.....	43				

ご注意

- 現代の電子機器は、静電気放電の影響を受けやすくなっています。合成繊維のカーペットの上を歩くなどすると、人体に大量の静電気が帯電し、特に導電性のものの上に本製品が置かれていた場合には、本製品に触れると静電気放電が発生します。静電気が電子回路に侵入しなければ、不具合は生じません。また、本製品は安全回路を装備していますが、安全上の理由から、本製品の下部などにある端子部には手を触れないでください。
- 端子部をお手入れする際は、綿やリネンの布をお使いください。レンズ用のマイクロファイバークロス(合成繊維)は使用しないでください。お手入れの前には、接地された導電性のもの(暖房器具のパイプや水道管)に触れて、静電気を放電してください。また、端子部の汚れやさびつきを防ぐために、本製品にはレンズまたはボディキャップを取り付けて、乾いた場所で保管してください。
- 指定以外のアクセサリは使用しないでください。故障、感電、ショートの原因になります。
- 本製品は防滴性を備えていますが、防水性は備えていません。雨中での使用時は、雨にさらさないようにしてください。
- 本製品の部品やカバーを取り外さないでください。修理はライカ指定のサービスセンターにて専門の修理担当者にご依頼ください。

著作権と商標について

- あなたがカメラで撮影したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物などの中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。
- 本製品に付属するすべてのソフトウェアの著作権その他一切の権利は、正当な権限を有する第三者に帰属します。
- SD ロゴ、HDMI ロゴ、CF ロゴ、USB ロゴは登録商標です。
- 本書に記載されているその他の名称、企業名、製品名は、当該各社の商標または登録商標です。

本製品の製造日は、保証書または製品パッケージに貼付されています。表記法は以下の通りです。年/月/日

メニューの**カメラ情報**では、本製品が**認証情報**の各項目によって承認されていることが確認できます。



電気・電子機器の廃棄について

(EU諸国および分別廃棄を実施するその他のヨーロッパ諸国のみ)

この装置には電気・電子部品が含まれているため、一般家庭廃棄物として廃棄することはできません。お住まいの自治体のリサイクル用の廃棄物回収場所にお持ちください。回収は無料となっています。電池や充電電池を使用する装置を廃棄する場合は、電池や充電電池を取り外してから回収場所にお持ちください。電池や充電電池は、必要に応じてお住まいの自治体の規則に従って廃棄してください。廃棄についての詳しい情報は、お住まいの自治体、お近くの廃棄物回収業者、またはご購入店にお問い合わせください。

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。 VCCI-B

付属品

本製品をご使用になる前に、下記の付属品がすべてそろっていることをご確認ください。

- 充電式リチウムイオンバッテリー S BP-PRO 1
- カーバッテリーコード付高速バッテリーチャージャーS
- キャリングストラップ
- ボディキャップ
- アイピースキャップ
- 保証カード
- 冊子「お客様へのサービス」
- 取扱説明書(本書)

本書に記載されている注釈の重要度

メモ

補足的な説明や情報を記載しています。

重要

この内容を無視して誤った取り扱いをすると、カメラ、付属品、または画像データが壊れるおそれがあります。

ご注意

この内容を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負うおそれがあります。

各部の名称

本体正面

- 1 シャッターレリーズボタン
- 2 セルフタイマーLED/ホワイトバランスセンサー
- 3 マイク
- 4 プレビュー/機能ボタン
- 5 レンズマウント
 - a. 接点
 - b. レンズ着脱赤指標
 - c. レンズ取り外しボタン

本体上面

- 6 キャリングストラップ取り付け部
- 7 距離目盛窓
- 8 フォーカスリング
- 9 レンズフード取り付け部
- 10 レンズ着脱赤指標
- 11 シャッター速度ダイヤル
- 12 ライブビューボタン
- 13 動画撮影ボタン
- 14 上面ディスプレイ
- 15 視度補正ダイヤル
 - a. 目盛
 - b. アイカップ
- 16 アクセサリーシュー
 - a. 中央（シンク口）接点
 - b. 制御接点
 - c. ロックピン用の穴
- 17 GPSアンテナ

本体背面

- 18 戻り止め付メインスイッチ
- 19 ファインダー
- 20 ジョイスティック
- 21 クリックホイール
- 22 スピーカー
- 23 カードカバー（閉じた状態）
- 24 LED（撮影/メモリーカードへのデータ記録中に点滅）
- 25 再生ボタン/メニューボタン/機能ボタン
- 26 メニューボタン/機能ボタン
- 27 LCDモニター
- 28 メニューボタン/機能ボタン
- 29 メニューボタン/機能ボタン
- 30 端子カバー（閉じた状態）
- 31 端子カバー（閉じた状態）
- 32 輝度センサー

本体右側面（カードカバーなしの状態）

- 33 CFカードスロット
 - a. 取り出しレバー
- 34 SDカードスロット

本体左側面（端子カバーなしの状態）

- 35 LEMO®-オーディオ端子
- 36 HDMI端子
- 37 LEMO®-USB 3.0端子
- 38 LEMO®-リモートレリーズケーブル端子/シンクロータール/オーディオ入力/出力端子

本体底面

- 39 マルチファンクションハンドグリップ用ガイドピンの穴
- 40 接点カバー
- 41 三脚取り付け部
 - a. ねじ穴(1/4インチ)
 - b. ねじ穴(3/8インチ)
 - c. ガイド用の穴
- 42 バッテリー取り外しレバー
- 43 バッテリー
- 44 バッテリースロット（バッテリーを取り出した状態）
 - a. 接点
 - b. ガイド溝用の突起
- 45 マルチファンクションハンドグリップ用接点（カバーを取った状態）

バッテリー

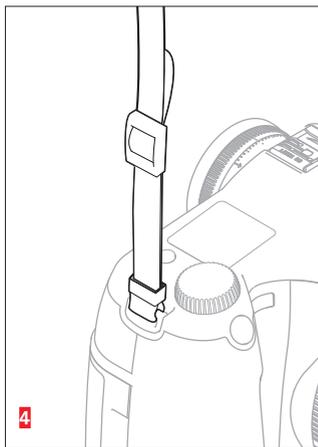
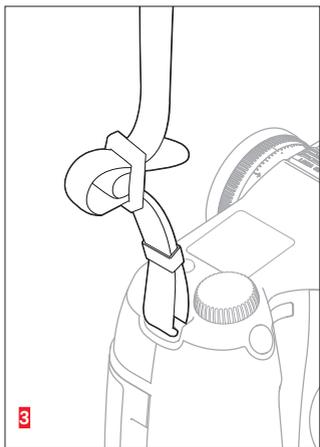
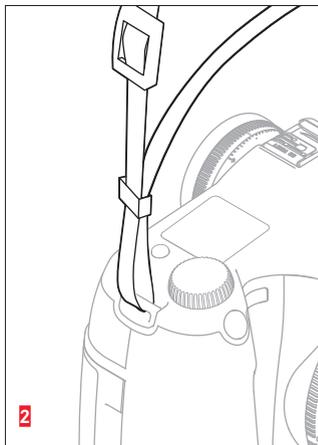
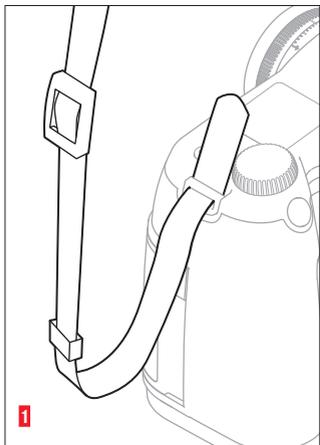
- 46 端子部
- 47 ガイド溝
- 48 バッテリーチャージャーの接続コード用ソケット

バッテリーチャージャー

- 49 接続コード
 - a. 3ピンプラグ
- 50 オレンジ色のLED（バッテリー容量の80%まで充電が完了したときに点灯）
- 51 緑色のLED（充電中に点滅）
- 52 カーバッテリーコード用2ピンソケット
- 53 ヨーロッパ/UK/オーストラリア仕様の電源プラグ（着脱式）
 - a. 電源プラグ取り外しボタン（電源プラグが取り付けられた状態）
- 54 米国仕様の電源プラグ（着脱式電源プラグを取り外し、電源プラグを起こして使用）
- 55 カーバッテリーコード
 - a. 2ピンプラグ（バッテリーチャージャーに接続）
 - b. プラグ（シガレットライターソケットに接続）

使用前の準備

キャリングストラップの取り付けかた



バッテリーを充電する

本製品をお使いになるためには、充電式リチウムイオンバッテリー (A) が必要です。

重要:

旧ライカSモデル (コード番号14 429) のバッテリーはライカS (Typ 007) およびマルチファンクショングリップのどちらにも使用できません。ライカバッテリーSB-PRO1 (コード番号16 039)のみを使用してください。

ご注意

- 本書またはライカで指定したバッテリー以外は使用しないでください。
- 付属のバッテリーを本製品以外には使用しないでください。また、本書の説明に従って正しく充電してください。
- 指定以外のバッテリーを使用したり、本書の説明に従わずにバッテリーを使用しないでください。破裂するおそれがあります。
- バッテリーを直射日光の当たる場所や高温多湿の場所に放置しないでください。また、電子レンジや高压容器に入れないでください。破裂や発火の原因となります。
- ぬれたバッテリーや湿ったバッテリーは、絶対に使用したり充電したりしないでください。
- バッテリーの端子部は清潔に保ってください。また、近くに金属類を置かないでください。リチウムイオンバッテリーはショートが起きにくいですが、クリップやアクセサリなどの金属類と接触させないでください。ショートしたバッテリーは発熱することがあり、やけどをするおそれがあります。
- バッテリーを落とした場合は、外装や端子部が破損しなかったか直ちに確認してください。破損したバッテリーを使用すると、本製品が故障するおそれがあります。
- バッテリーの使用や充電中に、異音、変色、変形、発熱、漏液などの異常に気づいたときは、ライカやバッテリーチャージャーから直に取り出しててください。そのまま使用や充電を続けると、破裂や発火の原因となります。
- バッテリーが漏液したり、異臭がしたりするときは、直ちに火気から遠ざけてください。漏れた液や気体に引火して発火するおそれがあります。

- 本書またはライカで指定したバッテリーチャージャー以外は使用しないでください。指定以外のバッテリーチャージャーを使用すると、バッテリーの故障の原因となり、また、死亡したり重傷を負ったりするおそれがあります。
- 付属のバッテリーチャージャーでは、専用バッテリー以外は充電しないでください。また、バッテリーチャージャーを他の用途に使用しないでください。
- バッテリーチャージャーを使用するときは、コンセントの周りにほこりがたまっていないか確認してください。
- コンセントでバッテリーを充電しているときは、絶対にカーアダプターをバッテリーチャージャーに接続しないでください。
- バッテリーおよびバッテリーチャージャーを分解しないでください。修理はライカ指定のサービスセンターにご依頼ください。
- バッテリーは幼児の手の届かないところに置いてください。バッテリーを飲み込むと、窒息するおそれがあります。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。

バッテリーから漏れた液が人体などに付着した場合の処置

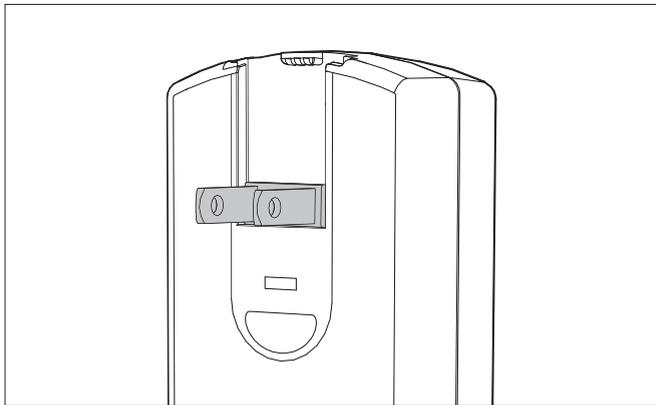
- 液が目に入った場合は、失明の原因となることがあります。直ちにきれいな水でよく洗ってください。このとき、目を擦ってはいけません。
- 洗い終わったら医師の治療を受けてください。
- 液が皮膚や衣服に付着した場合は、皮膚に障害を起こすおそれがあります。直ちにきれいな水でよく洗い流してください。気になる症状が現れた場合は医師に相談してください。

メモ

- バッテリーは10° C～30° Cの場所で充電してください。これ以外の温度では、まったく充電できないか、充電中になっても再充電できない場合があります。
 - リチウムイオンバッテリーは、残量にかかわらずいつでも継ぎ足し充電ができます。残量が多い状態で充電すれば、短時間で充電が完了します。
 - 新しいバッテリーは、フル充電してから完全放電させる（本製品に入れて使い切る）というサイクルを最初に2、3回行うことで、性能を十分に発揮できるようになります。その後もこのサイクルを25回に1回ほど行うことをおすすめします。
 - 充電中はバッテリーと充電器が発熱します。異常ではありません。
 - 充電開始後に2つのLEDが速く（1秒に2回以上）点滅した場合は、充電異常です（最大充電回数を超過している、温度や電圧が動作範囲外である、ショートしているなど）。そのような場合、バッテリーチャージャーをコンセントから抜いてからバッテリーを取り外します。その後、周囲の温度が上記に記載された範囲内であることを確認してから、再び充電してください。
 - それでも状態が変わらない場合は、お買い上げの販売店またはライカ カスタマーケアまでお問い合わせください。
 - リチウムイオンバッテリーは電池残量が残っている状態（完全に放電または充電されていない状態）での充電に適しています。長期間保管する場合は、過放電状態にさせないために、半年ごとに約15分間充電してください。
 - 充電式リチウムイオンバッテリーは、内部の化学反応により電力を発生します。この化学反応は外部の温度と湿度の影響を受けやすいため、極端な温度条件のもとでは寿命が短くなります。バッテリーを長持ちさせるために、夏季や冬季の自動車内など、極端に暑い場所や寒い場所に放置しないでください。
 - バッテリーには寿命があります。最適な条件のもとで使用し続けても、数百回の充電を重ねると容量が低下し、使用時間が極端に短くなります。
 - 不要になったバッテリーは、お住まいの自治体の条例や規則に従い（6、54ページ）、リサイクル用の廃棄物回収場所にお持ちください。
- 本製品はバックアップ電池を内蔵しています。バックアップ電池は、日付と時刻の設定を最大3ヶ月間保存するためのもので、バッテリーを電源としています。バックアップ電池が放電してしまった場合は、バッテリーを入れて充電してください。充電を始めてから約60時間後にフル充電になります。充電中は本製品の電源を入れておく必要はありません。また、バックアップ電池が放電してしまった場合は、日付と時刻の設定が失われますので、再設定してください。
 - 本製品を長期間使用しない場合はバッテリーを取り出してください。また、バッテリーを取り出すときはメインスイッチで電源を切ってください。バックアップ電池が放電してしまった場合は、バッテリーを入れて充電してください。

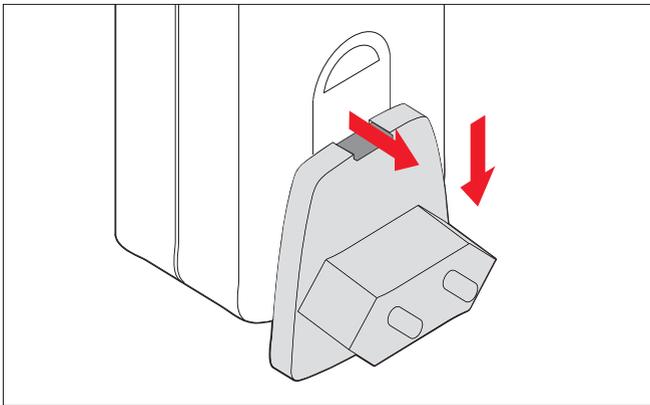
バッテリーチャージャーを準備する

日本、米国で使用する場合



1. バッテリーチャージャー本体のプラグを起こします。

日本、米国以外で使用する場合

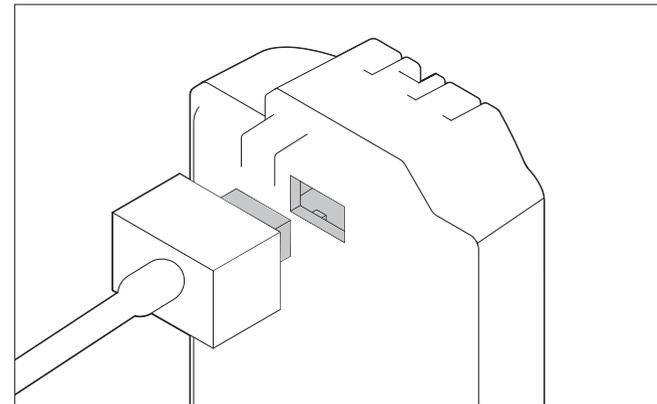


1. バッテリーチャージャー本体のプラグを収納します。
2. お使いになる国に対応した電源プラグをバッテリーチャージャーの溝に差し込みます。

メモ

バッテリーチャージャーは世界のどの電圧にも対応し、自動で切り替えます。付属のカーバッテリーコードを使用する場合も、12V、24Vの切り替えを自動で行います。

バッテリーを充電する



1. バッテリーチャージャーの3ピンプラグをバッテリーのソケットに差し込み、電源プラグをコンセントに差し込みます。
 - 正しくセットされると、緑色のLED（CHARGE）が点滅し、充電が開始されます。
 - バッテリー容量の80%（ $\frac{4}{5}$ ）まで充電が完了すると、オレンジ色のLEDも点灯します。
 - 約3時間半（3 $\frac{1}{2}$ 時間）後にバッテリーが完全に充電されると、緑色のLED CHARGEが点灯します。

メモ

- 容量の80%を充電するのに要する時間は最大約2時間です。最大容量が必要でない場合には比較的短時間の充電でカメラを使用可能にすることもできます。
 - フル充電が完了して緑色のLED（CHARGE）が点灯になると、自動的に微小電流での充電（トリクル充電）に切り換わります。
2. 充電が終わったら、バッテリーチャージャーの電源プラグをコンセントから抜きます。過充電されることはありませんが、コンセントから抜いておくことをおすすめします。

バッテリーを入れる/取り出す

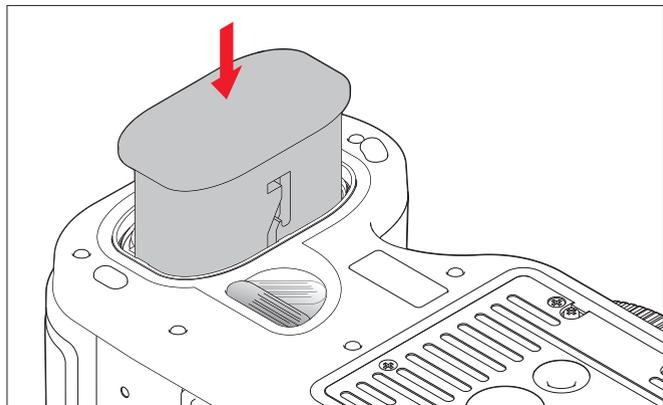
使用前の準備

バッテリーを入れたり取り出したりする前には、必ずメインスイッチをOFFにして、本製品の電源を切ってください。

バッテリーを入れる

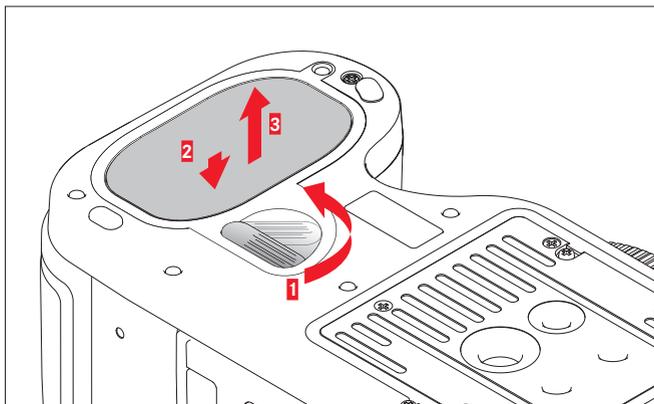
ガイド溝を内側に、端子部を奥に向けてバッテリーをバッテリースロットに入れます。

「カチッ」と音がするまで押し込んでください。



バッテリーを取り出す

1. バッテリー取り出しレバーを本体背面の方向にスライドさせます。
 - バッテリースロット内部のバネにより、バッテリーが少し飛び出てきます。
 - バッテリースロットにはロック機構が備わっているため、取り出し口を下に向けたままカメラを持ち上げてもバッテリーは落下しません。
2. バッテリーを少しだけ押し込んで、ロックを解除します。
3. バッテリーを取り出します。取り出し口を下に向けている場合はバッテリーが落下しないように注意してください。



バッテリー残量表示

LCDモニター	上面ディスプレイ	バッテリー残量
		約85%以上
		約65%以上
		約40%以上
		約20%以上
		約5%以上
		約5%以下 バッテリーを交換または充電してください。

メモリーカードを入れる/取り出す

本製品では撮影データを保存するために2種類のメモリーカードを併用することができます。そのため、SD/SDHC/SDXC（デジタルセキュリティ）とCF（UDMA7までのコンパクトフラッシュ）の各カードスロットがあります。

使用前の準備

1. メモリーカードを入れたり取り出したりする前には、必ずメインスイッチをOFFにして、本製品の電源を切ってください。

メモ

データ保存中を示すLEDが点灯しているときはメモリーカードの出し入れを行わないでください。

2. 本体右側のカードカバーを、背面方向にスライドさせて開けます。

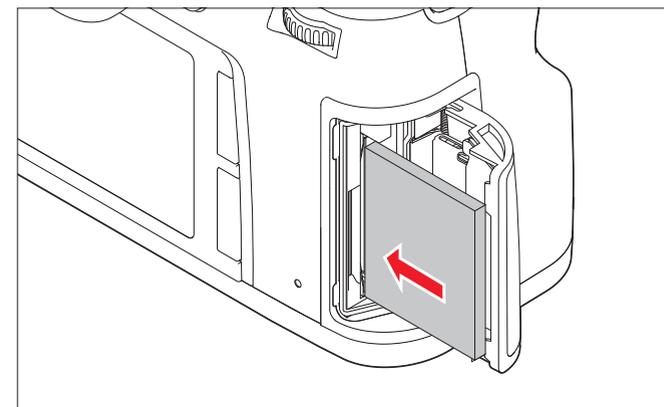
メモ

メモリーカードの端子部には手を触れないでください。

CFカード(コンパクトフラッシュ)

メモリーカードを入れる

CFカードは端子部を奥に向け、カードのラベル面をカメラの前方に向けてCFカードスロットに入れ、止まるところまで押し込みます。



メモ

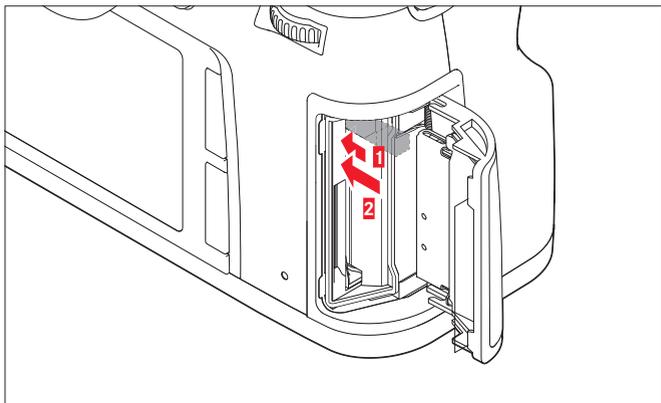
入れるときに、取り出しレバーが完全に奥に押し込まれている状態にしてください（次のページの「メモリーカードを取り出す」を参照）。

重要

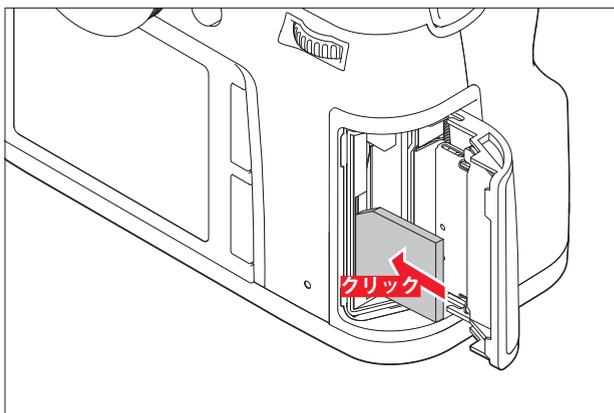
メモリーカードを強い力で押し込まないでください。カードスロットの端子部が破損するおそれがあります。

メモリーカードを取り出す

- 取り出しレバーを奥に押し込みます。
 - 押し込むとそのレバーがせり出します。
- さらにもう一度奥まで押し込みます。
 - すると、CFカードが少し飛び出てきます。
- CFカードを取り出します。

**SD/SDHC/SDXC カードの場合****メモリーカードを入れる**

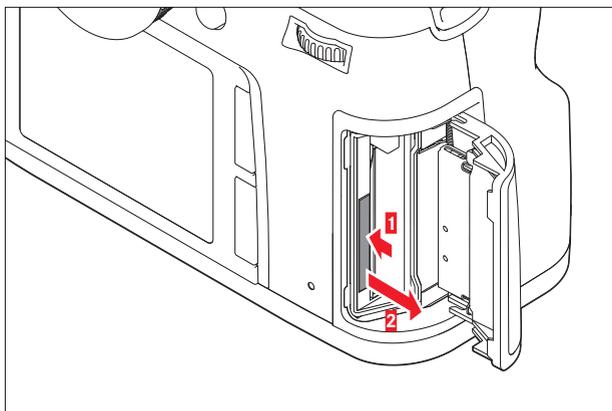
SD/SDHC/SDXCカードの場合は、端子部を奥に、角が斜めになっている側を上に向けてSDカードスロットに入れます。奥まで入れるとバネの感触がありますが、そのまま「カチッ」と音がするまで押し込んでください。

**重要**

SD/SDHC/SDXCカードをCFカードスロットに押し込まないように注意してください。取り出せなくなる恐れがあります。

メモリーカードを取り出す

- SD/SDHC/SDXCカードを軽く押し込みます。
 - すると、SD/SDHC/SDXCカードのロックが外れ、飛び出てきます。
- SD/SDHC/SDXCカードを取り出します。

**カードカバーを閉じる**

前方にスライドさせて、しっかりとロックしてください。

メモリーカードに関する表示

メモリーカードエラーは様々なメッセージで、ファインダー、LCDモニター、上面ディスプレイに表示されません。

メモ

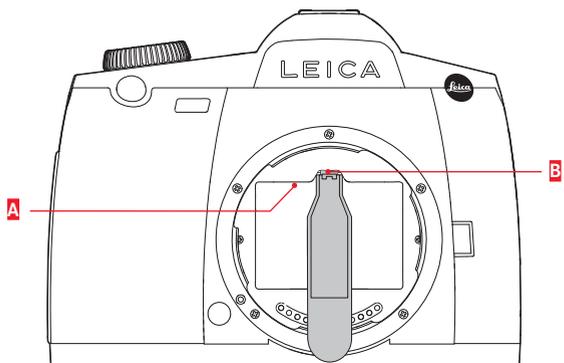
- メモリーカードがうまく入らない場合は、メモリーカードの向きが正しいか確認してください。
- メモリーカードは非常に多くのメーカーから販売されているため、すべてのメモリーカードの動作確認は行っていません。また一部のノーブランドのメモリーカードは、品質基準を満たしていないものがあるためライカカメラでは機能保証していません。
- 背面右下の赤いLEDが点滅しているときは、画像記録中またはデータ記録中ですので、メモリーカードやバッテリーを取り出さないでください。保存されていないデータや保存済みのデータが消失することがあります。
- メモリーカードへの画像の保存方法を選ぶこともできます。詳しくは「画像の保存方法を設定する」をご覧ください。
- 電磁波、静電気、カメラ本体やメモリーカードの故障により、メモリーカードのデータが破損・消失することがあります。データをこまめにパソコンに取り込み、バックアップをとることをおすすめします。
- 同じ理由から、メモリーカードを帯電防止性のケースなどで保管することをおすすめします。
- WiFiカード使用時のカメラ動作保証は致しかねます。
- SD、SDHC、SDXCメモリーカードは書き込み防止スイッチを装備しているので、誤って画像データを書き込んだり削除したりしてしまう心配がありません。このスイッチは、カード本体の角が斜めになっていない側であり、下側の「LOCK」の方向にスライドさせると書き込み防止機能がオンになります。
- 容量が1GB以下のメモリーカードは使用できません。

ファインダースクリーンの交換

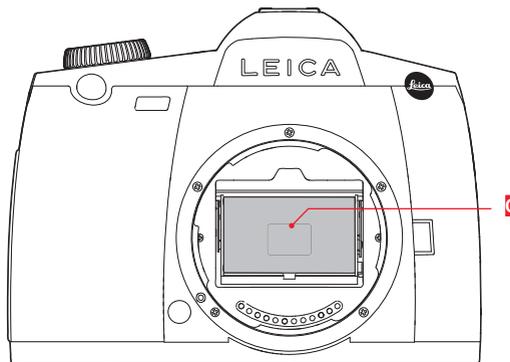
本製品は被写体や撮影状況に合わせてファインダースクリーンを交換することができます。交換できるファインダースクリーンについては「システムアクセサリー」の「交換用ファインダースクリーン」をご覧ください。ファインダースクリーンの画面はすりガラス製です。交換用ファインダースクリーンには、ピンセットとクリーニングブラシが付属します。

ファインダースクリーンを交換する

1. レンズを取り外します



2. スクリーンマウント (A) のロックを外します。ピンセットの先端で止め具 (B) を押し外してください。



3. ファインダースクリーンの底辺にある小さな突起部分をピンセットで挟み、軽く上に持ち上げながらファインダースクリーン (C) を取り出します。
4. 取り出したファインダースクリーンを交換式ファインダースクリーンのケース内に置きます。

5. 取り付けるファインダースクリーンの突起部分をピンセットで挟んで、ケースから取り出します。
6. ピンセットの先端でスクリーンマウントを押し上げて、ロックします。「カチッ」と音がするまでしっかりロックしてください。

重要

ファインダースクリーンの交換は、上の手順に従って正しく行ってください。また、ファインダースクリーンの表面を傷つけないよう十分に注意してください。

ライカSレンズ

ライカSレンズはいくつかの特徴的な外部機能を備えています：

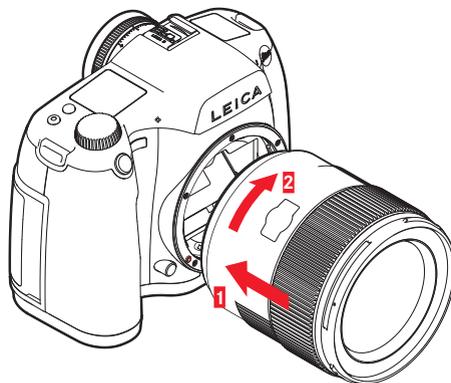
- フォーカスリングの操作は、フォーカスモードにより異なります。
- マニュアルフォーカス(MF)のときは、フォーカスリングを回してピントを合わせます。フォーカスリングはフォーカス機構に連動しています。
- オートフォーカス (AFs/AFc) のときは、フォーカスリングがフォーカス機構に連動していないため、フォーカスリングに手を添えてレンズを支えてもオートフォーカスの動作に影響はありません。なお、オートフォーカスでピントを合わせたあとに、フォーカスリングを回して手動でピントを微調整することもできます。この場合は、フォーカスリングがフォーカス機構に連動します。
- 内部にある距離目盛は、窓を通じて確認できます。
- 絞りリングは装備していません。絞り値の設定は、カメラ本体のクリックホイールで行います。

メモ

- ライカSレンズには、レンズシャッターを内蔵しているものもあります。
- ライカカメラでは、製造行程中に精度検査のため、複数回カメラをテスト機器に接続します。この作業によりステンレス製バヨネットリング上に光る部分が発生することがありますが、これは品質不良ではありません。

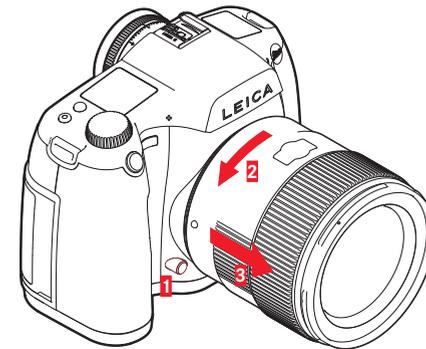
レンズを取り付ける/取り外す

本製品では、ライカS バヨネットマウント方式のレンズとアクセサリが使用できます。



レンズを取り付ける

1. レンズにあるレンズ着脱赤指標と、レンズマウントにあるレンズ着脱赤指標の位置を合わせます。
2. レンズをまっすぐはめ込みます。
3. 「カチッ」と音がするまでレンズを右に回します。



レンズを取り外す

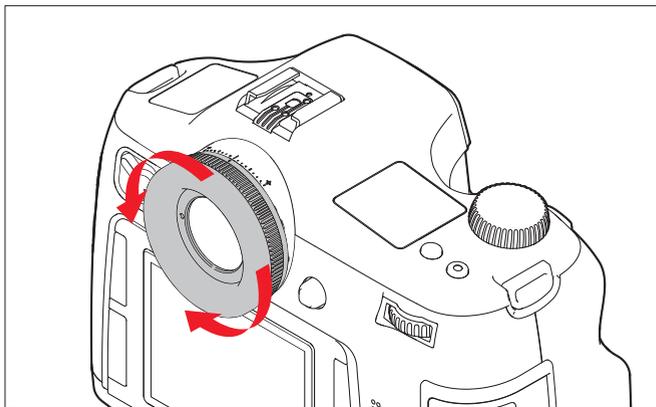
1. レンズ着脱ボタンを押しながら
2. レンズをゆっくり左に回すとロックが外れます。
3. レンズをまっすぐに引き抜きます。

メモ

- 本製品の内部にほこりが入り込んだり、センサー（撮像素子）にほこりが付着したりしないように、本製品には常にレンズまたはボディキャップを取り付けておいてください。
- 同じ理由から、レンズ交換はできるだけほこりの少ない場所で素早く行ってください。
- ライカでは随時、ファームウェアのアップデートを提供しています。新しいファームウェアは、お客様ご自身でもライカのホームページから簡単にダウンロードし、お客様のレンズに転送することができます。詳細については「ファームウェアをアップデートする」（51ページ）を参照してください。

視度調整する

ファインダー内の表示がはっきり見えるように、視度を-3～+1ディオプターの範囲で調節できます。ファインダーをのぞきながら、スポットAEフレームが最も鮮明に見えるように視度調整ダイヤルを回してください。

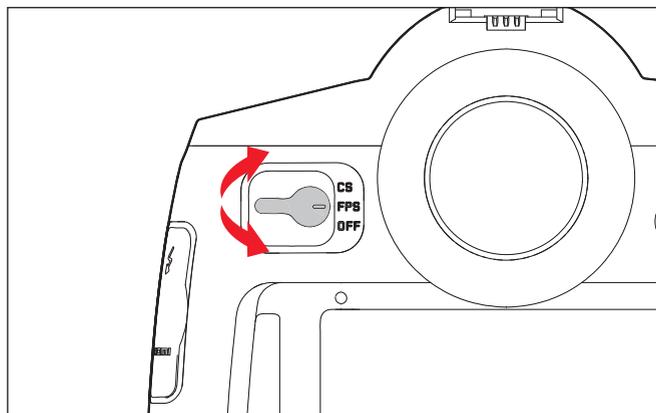


メモ

ファインダーから目を離して撮影する場合は、ファインダーから入る光によって適正露出で撮影できないことがありますので、ファインダーにアイピースカバーを取り付けることをおすすめします。アイピースカバーで測光の影響を受けないようにすることができます。アイピースカバーはキャリングストラップに取り付けられるようになっています。

カメラの電源を入れる/切る

本製品の電源のオン/オフはメインスイッチで行います。メインスイッチはレバー式で、次の3つの位置にセットできます：



a. OFF - 電源オフ

b. FPS - 電源オン/フォーカルプレーンシャッターでの撮影
- カメラ本体に搭載されたフォーカルプレーンシャッターで撮影します。

c. CS - 電源オン/レンズシャッターでの撮影
- レンズに搭載されたシャッター（レンズシャッター）で撮影します。（シャッタースピードが8秒～ $\frac{1}{1000}$ 秒の範囲内）

メモ

次の場合は「CS」に設定してもフォーカルプレーンシャッターで撮影されます。

- レンズシャッターを搭載していないレンズを装着した場合
- 8秒を超える遅いシャッター速度に設定した場合
- $\frac{1}{1000}$ 秒より速いシャッター速度に設定した場合

メインスイッチを「FPS」または「CS」にすると電源が入ります。電源が入ると、本製品の起動が完了するまでの間、背面右下のLEDが点滅し、ファインダー内の表示と上面ディスプレイの表示が点灯します。

メモ

- オートパワーオフを設定している場合は、メインスイッチを「OFF」にしなくても、設定した時間が経過すると自動的にスタンバイモード（電源が切れた状態）になります。
- オートブラケット撮影の途中で電源を切ると、オートブラケットの設定は解除されます。セルフタイマー作動中に電源を切ると、セルフタイマーが解除されます。

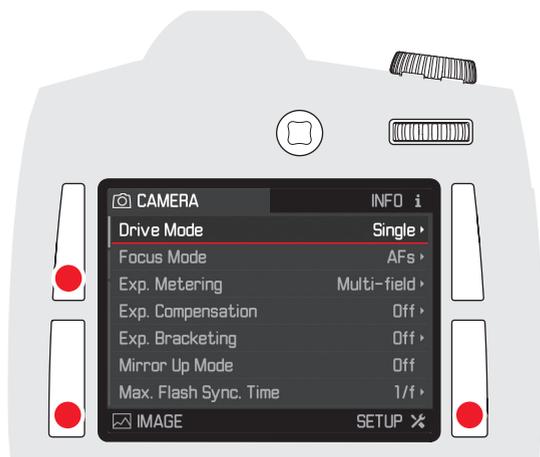
メニュー操作

機能の選択や設定は、主にメニュー画面を使って素早く簡単に行えます。

- メニュー項目は内容ごとに分類されており、素早く呼び出せます。
- メニューボタン等に5つの項目を登録し、ボタンの長押しによるクイック起動（ショートカット起動）することができます。

メニュー画面を表示する

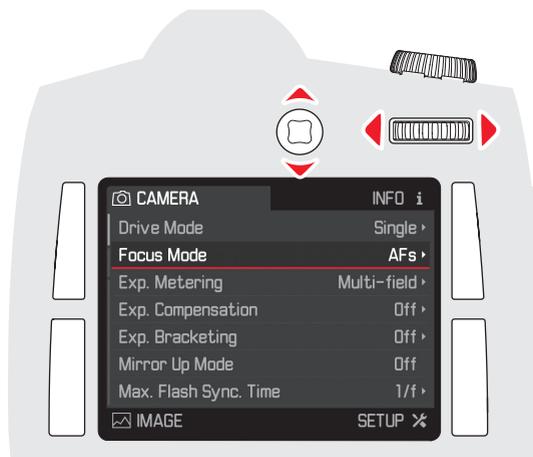
メニュー画面を表示するにはLCDモニターにの左右にある4つのメニューボタンのうち、3つのいずれかを押しします。



メモ

4つのメニューボタンは「ソフトキー」と呼ばれるものです。メニュー画面を表示する機能だけでなく、LCDモニターに画像を表示したときには別の機能も果たします。

メニュー設定はすべてクリックホイールまたはジョイスティックを使って行います。



メニュー画面を終了する

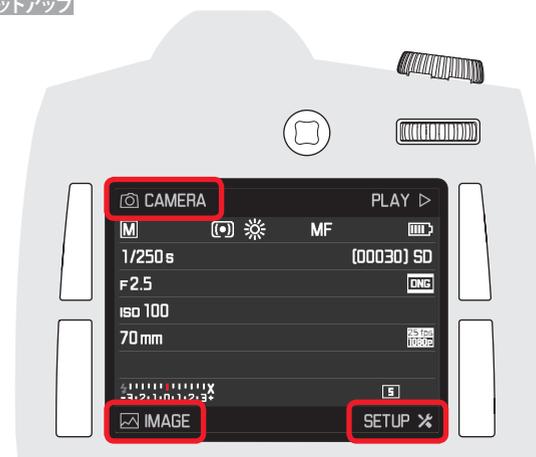
メニュー画面を終了するには、次のいずれかの操作を行います。

- 画像撮影モードに切り替える：
シャッターリリースボタンを軽く押すか、動画撮影ボタン、ライブビューボタンのいずれかを押しします。
- 撮影設定情報画面に切り替える：
右上のボタンを短く押しします。
- 画像再生モードに切り替える：
撮影設定情報画面に切り替えてから右上のボタンを再度短く押しします。

メニュー項目のカテゴリ

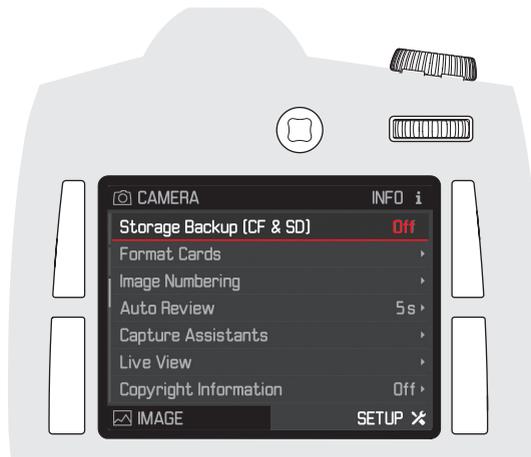
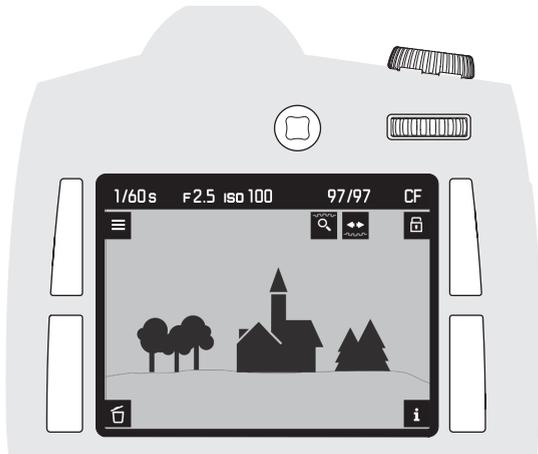
本製品のメニューリストは、次の3つのカテゴリで構成されています（「メニュー項目一覧」（66ページ）参照）。

- カメラ
- 画像
- セットアップ



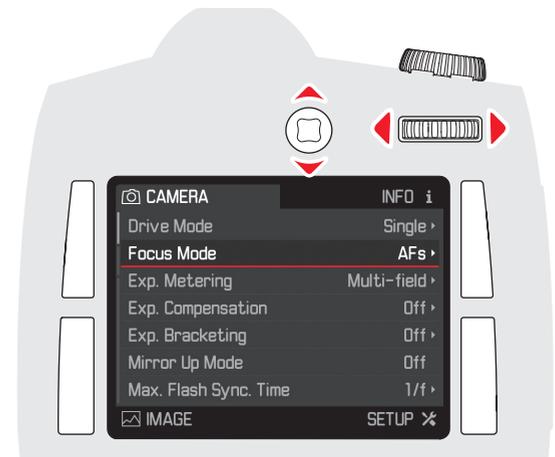
メニュー画面で設定する

- LCDモニターが消灯しているときに3つのボタンのうちいずれかを押しと撮影設定情報画面が表示され、さらにもう一度押しとそれぞれのカテゴリの最初のページが表示されます。
 - 左上のボタンを押すと**カメラ**メニュー画面、
 - 左下のボタンを押すと**画像**メニュー画面、
 - 右下のボタンを押すと**セットアップ**メニュー画面表示されます。
- LCDモニターが消灯しているときにメニューボタンを押すと、撮影設定情報画面が表示されます。3つのメニューボタンはどのメニューボタンにカテゴリが割り当てられているかを表示しています。
- 画像再生モードで4つのボタンのいずれかを押しと、下記イラストの通り、ボタンの機能が表示されます。
 - 左上  (メニュー)
 - 左下  (削除)
 - 右上  (プロテクト)
 - 右下  (画像情報など)



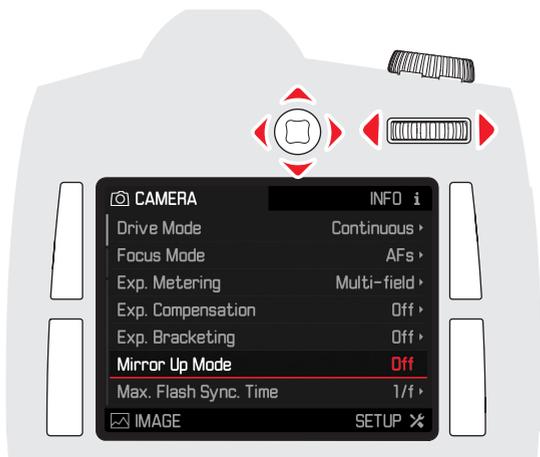
- メニュー画面には、全体がわかりやすいように次のように表示されます。
 - 現在選ばれているカテゴリが白い文字でハイライト表示されます。
 - **セットアップ**カテゴリでは左側のスクロールバーに現在のページが表示されます。
 - メニュー画面では、1行に1つのメニュー項目が割り当てられており、各行の左側に項目、右側に設定内容が表示されます。
 - 赤いアンダーラインの付いた白い文字の行は、現在どの項目が選択されているかを表しています（これはすべてのメニューで同様に表示されます）。その行の右側には、現在設定されている機能あるいは設定値が表示されています。現在選択されているメニュー項目は、その項目の設定が変更された後、いつも元の場所が表示されます。

- 各メニュー項目は次の方法で選択してください。
 - クリックホイールを右に回転させると項目を下に移動し、左に回転させると上に移動します。
 - ジョイスティックを上あるいは下方向に押し続ける。クリックホイールを回し続けると、カテゴリにかかわらずすべてのメニュー画面が順番に表示されます。



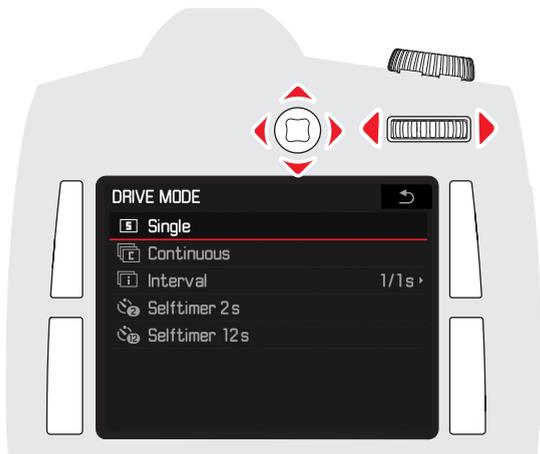
サブメニューがない項目の設定（行右側に三角矢印の表示がない項目）

3. クリックホイールを押すかジョイスティックを前または右に押します。
 - 設定はすぐに切り換えられます。

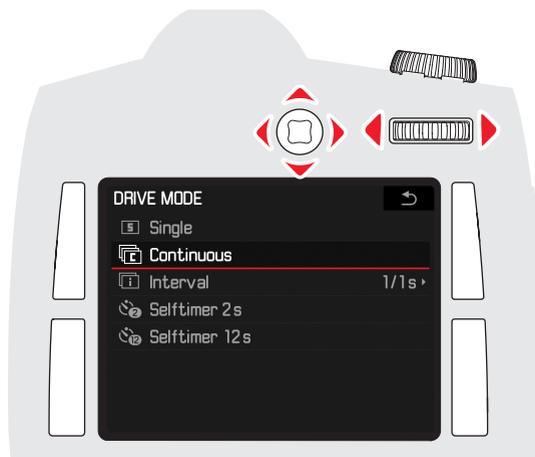


サブメニューがある項目の設定（行右側に三角矢印の表示がある項目）

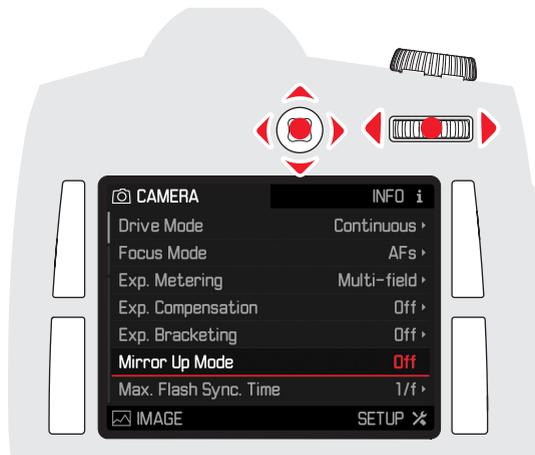
3. クリックホイールを回し続けると、カテゴリを超えてすべてのメニュー項目が順番に表示されます。
 - クリックホイールを押すとサブメニュー画面が表示され、選択できる設定内容の一覧が表示されます。



4. クリックホイールを左右に回して、あるいはジョイスティックを任意の方向に押し変えたいメニュー項目を選択し、設定を実行します。



5. 設定された機能/設定された値を確定するには、クリックホイール、あるいはジョイスティックを前に押します。
 - 画面の表示は、直前のメニューに戻るか、必要な場合はさらに次の設定項目に移動します。



メモ

右上のメニューボタンが  になっているときにこのメニューボタンを押すと、設定内容を変更せずにサブメニュー画面を終了します。

メニュー項目を直接呼び出す(ショートカット)

メニューボタンおよびプレビューボタンによく使用するメニュー項目を割り当て、これらのボタンを長押しして素早く呼び出すことができます。

メモ

初期設定では「初期設定」に設定され、下記の項目が割り当てられています。

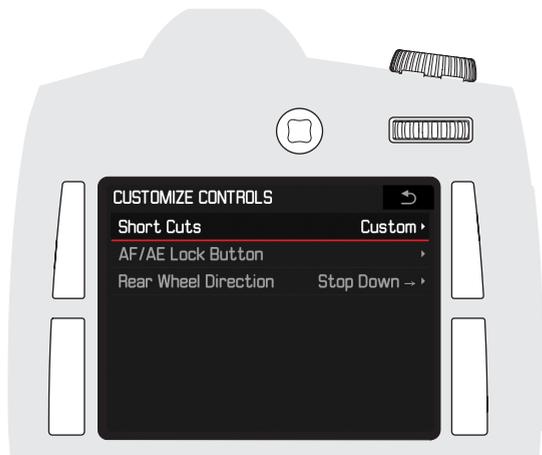
- ボタン左上:  ISO
- ボタン左下:  測光モード
- ボタン右上:  フォーカスモード
- ボタン右下:  露出補正

プレビューボタン

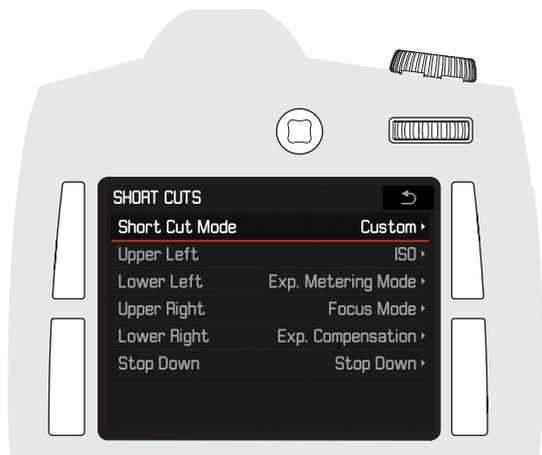
- 通常画像撮影モード時: プレビュー
 - ライブビューモード時: プレビューと露出シミュレーション
 - 動画撮影時: 録音音量およびヘッドホン音量の調整
- ライブビューモード時と動画モード時はプレビューボタンの機能を変更することはできません。

ボタンの機能設定/割り当て

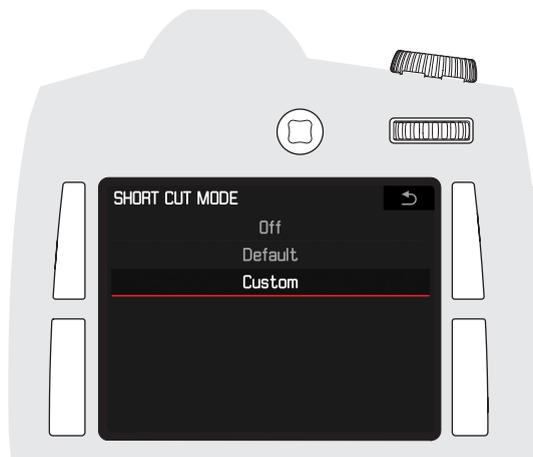
- メニュー画面で「セットアップ」カテゴリの「カスタマイズ」を選びます。
 - ショートカット、AF/AEロックボタン、クリックホイール設定の3つのサブメニューが表示されます。



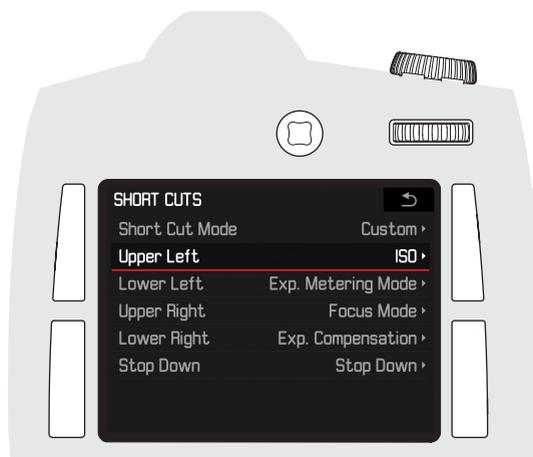
- これらのサブメニューから「ショートカット」を選びます。
 - さらにサブメニューが表示されます。「ショートカットモード」が「ユーザー設定」でない場合はすべての項目がグレーアウト表示のままです。



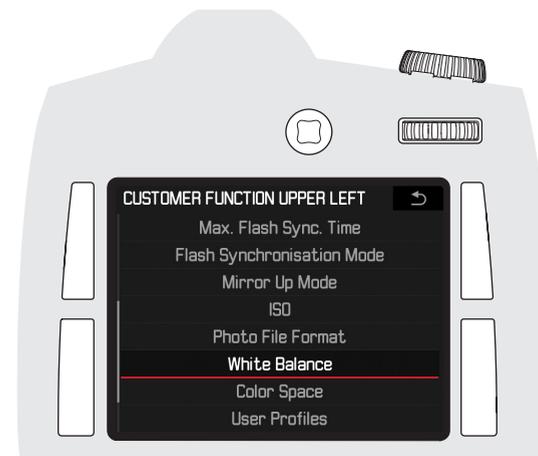
- 「ショートカット」を選びます。
 - さらにサブメニューが表示されます。



- 「ユーザー設定」を選びます。
 - 初期設定を使用する場合は「初期設定」を選びます。
 - 機能を無効にする場合は「Off」を選びます。
 - 手順2のメニューが再度表示されます。
- 「ユーザー設定」を選ぶと、任意のボタンにメニュー項目を割り当てられます。
 - 割り当てられるメニュー項目が表示されます。



- 割り当ててるメニュー項目を選択するか、必要がなければ「Off」にします。（画面上には8項目しか表示されませんが、スクロールすると全ての項目が表示されます）



他のボタンも同様の手順で割り当てます。
 • その後、手順2のメニューが再度表示されます。

割り当てたメニュー項目を呼び出す

各ボタンを長押し（1秒以上）してください。

メモ

ライブビューモード時、動画撮影時はプレビューボタンのショートカット機能は解除されます。

操作ガイド(詳細編)

カメラの基本設定

表示言語

工場出荷時および初期設定時は英語でメニューやメッセージが表示されます。表示言語はドイツ語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ロシア語、日本語、繁体中国語、簡体中国語、韓国語、ポルトガル語から選べます。

表示言語を設定する

1. [セットアップ]メニュー画面で [Language] を選びます。
2. サブメニュー画面で言語を選びます。
 - ボタンの名称と略称を除き、メニュー言語が変わります。

日付と時刻

日付

年、月、日の表示順序を3種類から選びます。

日付を設定する

1. [セットアップ]メニュー画面で日付/時刻を選びます。
2. サブメニュー画面で日付設定を選びます。
3. 表示形式を変更するには日/月/年、月/日/年、年/月/日のいずれかをジョイスティックを上下に押すかクリックホイールを回して選びます。
4. 年、月、日の設定項目への移動は、ジョイスティックを左右に押して移動します。
5. 年、月、日の値の変更は、ジョイスティックの上下、あるいはクリックホイールを回します。
6. 設定を確定し、保存するにはLCDモニターの右下にあるOKボタンを押します。

時刻

時刻を設定する

時刻設定では、表示形式と時刻を設定します。手順は日付設定と同様です。

日付/時刻のサブメニューでは、この他にGPS自動時刻合わせ、タイムゾーン、サマータイムを設定します。

GPS自動時刻合わせ、サマータイムはクリックホイール押すかジョイスティックを前または右に押し on/off を切り替えます。

タイムゾーンはさらにそのサブメニューから現在位置を選択します。

メモ

- GPS自動時刻合わせは、GPS機能がオンの場合のみ設定できます。
- タイムゾーンとサマータイムは、GPS機能がオフの場合に設定します。
- 日付と時刻の設定は、バッテリーが入っていない場合やバッテリーが消耗しても、内蔵のバックアップ電池により約3ヶ月間維持されます。約3ヶ月経過して設定が失われてしまった場合は、本ページの手順で再設定してください。

オートパワーオフ

設定した時間が経過するとカメラが自動的にスタンバイモードに移行する機能です。スタンバイモードの状態はメインスイッチをOffにして電源を切ったときと同じです。

オートパワーオフを設定する

1. [セットアップ]メニュー画面でオートパワーオフを選びます。
2. サブメニュー画面で設定内容を選びます。

メモ

オートパワーオフ機能が働いてスタンバイモードになっているときは、シャッターリリースボタンを押すと解除されます。

電子音

メッセージが表示されたときやピントが合ったときに電子音が鳴るように設定できます。音量は2段階で調整できます。電子音を鳴らすか鳴らさないかは、それぞれ個別に設定できます。

メモ

初期設定では電子音は鳴りません。

電子音を設定する

1. **セットアップ**メニュー画面で**電子音**を選びます。
2. サブメニューに**音量**、**AF合焦音**、**警告音**が表示されます。
3. **音量** を選ぶと**低**と**高**が表示されるので、いずれかを選びます。
4. **AF合焦音** と **警告音** の **[On]**（音声を鳴らす）、**[Off]**（音声を鳴らさない）を選びます。

Onに設定した場合

[AF合焦音] は、ピントが合うとマニュアルフォーカス、オートフォーカスともに電子音が鳴ります。
[警告音] では、LCDモニターに表示されるすべてのメッセージに対して電子音が鳴ります。また、セルフタイマー作動中も電子音が鳴ります。

Offに設定した場合

[警告音] の設定を**Off**にしても、以下の2つは警告音が鳴りません。

- データ転送中にメモリーカードカバーを開いたとき
- センサークリーニングを終了してシャッターを閉じるとき

LCDモニターと上面ディスプレイ

本製品は2つの表示部を搭載しています。

- 3.0型カラーLCDモニター
- モノクロ液晶上面ディスプレイ

LCDモニターでは、メモリーカードに記録した画像を画面全体に表示しながら、一部の撮影情報を同時に表示できます（「LCDモニター」、62ページ。）LCDモニターの明るさは周囲の明るさに応じて自動調整されます。LCDモニター上部にそのためのセンサーがあります。そのセンサーを使って状況に応じた明るさにすることも、任意の明るさにすることもできます。

明るさを調整する

1. **セットアップ**メニュー画面で**ディスプレイの明るさ**を選びます。
2. サブメニューで希望の設定を選びます。

上面ディスプレイでは、メモリーカード情報、バッテリー残量、撮影設定など主な基本情報を確認できます（「上面ディスプレイ」、61ページ）。

LCDモニター



上面ディスプレイ



撮影の基本設定

静止画記録形式の設定

画像ファイルの記録形式にはDNGとJPEGが使用できます。画像ファイルの記録について、以下の2つから選択できます。

- DNGあるいはJPEGのいずれかを記録する
- DNGとJPEGのどちらも記録する（1回の撮影で2つのファイルが記録されます）

記録形式を設定する

- 画像メニュー画面で**静止画記録形式**を選びます。
- サブメニュー画面で希望の記録形式を選びます。

メモ

- DNG（デジタル・ネガティブ）とは、RAWファイル形式の標準フォーマットです。センサー（撮像素子）が記録したデータをそのまま保存します。
- 上面ディスプレイに表示される撮影可能枚数が撮影後に減らないことがあります。これは記録に必要なデータ容量が被写体によって異なるためです。JPEG形式の場合、複雑な絵柄はデータサイズが大きく、均一な絵柄はデータサイズが小さくなります。データサイズが小さな画像を撮影したとき、メモリーカード容量もそれほど必要とはならないので撮影前に算出されて表示された撮影可能枚数が変わらないことがあります。

JPEG設定

記録画素数

DNG形式は最大画素数である37.5MPで記録しますが、JPEG形式では3種類の画素数から選ぶことができます。

JPEG記録画素数を設定する

- 画像メニュー画面で**JPEG記録画素数**を選びます。
- サブメニューで**37.5MP**、**9.3MP**、**2.3MP**のいずれかを選びます。

色空間(カラースペース)

本製品では色空間を **sRGB**、**AdobeRGB**、**ECI RGB v2.0**の3種類から選べます。

色空間を設定する

- 画像メニュー画面で**JPEG設定**を選びます。
- メニュー項目の**色空間**を選びます。
- 次のサブメニューで希望の色空間を選びます。

コントラスト/シャープネス/彩度の設定

コントラスト、シャープネス、彩度を個別にそれぞれ段階的に調整できます。撮影シーンや光の状況に合わせて、最適な設定を選んでください。**彩度**では**モノクローム**を選択することもできます。

コントラスト/シャープネス/彩度を設定する

- カメラメニュー画面で**JPEG設定**を選びます。
- サブメニュー画面で
- コントラスト**、**シャープネス**、**彩度**のいずれかを選びます。
- 各サブメニューで希望する段階を選びます。**低**、**標準**、**高**、**モノクローム**(彩度のみ)。

ホワイトバランス

ホワイトバランスは、光源に応じて自然な色合いで撮影できるようにするためのものです。被写体の中の特定の色を白く写し出すように設定し、この白に基づいて色合いを調節します。ホワイトバランスを次の12種類から選べます。

- AWB** オート:カメラの自動調節

8種類のプリセット:よくある光源別に最適なプリセットを選びます。

- ☀** 晴天:屋外で晴天のとき
- ☁** 曇天:屋外で曇り空のとき
- ☖** 日陰:屋外で主要被写体が日陰にあるとき
- 💡** 白熱灯:白熱灯が主光源のとき
- HMI** HMI照明が主光源のとき
- 💡** 蛍光灯-暖色系:白色蛍光灯が主光源のとき
- 💡** 蛍光灯-寒色系:昼光色蛍光灯が主光源のとき
- ⚡** フラッシュ:フラッシュが主光源のとき
- LV** グレーカード(LV):マニュアル設定(ライブビュー時)¹
- 🔍** グレーカード:マニュアル設定(通常撮影時)¹
- K** 色温度:色温度の値を直接設定するとき

メモ

ライカカメラ製フラッシュユニットや、SCA-3002 システム対応フラッシュユニットとSCA-3502 アダプター(M5以降)を使用するときは、**オート**に設定してもホワイトバランスが適切に調節されます。

その他のフラッシュユニットを使用するときは、**[オート]**に設定してもホワイトバランスは正しく調整されませんので、**🔍**に設定してください。

¹ 別の場所からサンプルを取るには、十字線を動かして再度(確認)ボタンを押します。

ホワイトバランスを設定する オートおよびプリセットを選ぶ場合

1. 画像メニュー画面で**ホワイトバランス**を選びます。
2. サブメニュー画面で「オート」または希望のプリセットを選びます。

色温度を数値で直接設定する場合

設定範囲は2000～13100K1です。2000～5000Kでは100Kステップで、5000～8000Kでは200Kステップで、8000～13100Kでは300Kステップで設定できます。光源に応じて、または好みに合わせて画像の色合いを調節できます。

1. 画像メニュー画面で**ホワイトバランス**を選びます。
2. サブメニュー画面で**色温度**を選びます。
 - [色温度] サブメニュー画面に数値表示されます。
3. 数値を選びます。

手動で設定する場合

1. 画像メニュー画面で**ホワイトバランス**を選びます。
2. 表示されたメニューから希望のグレーカードの種類を選択します

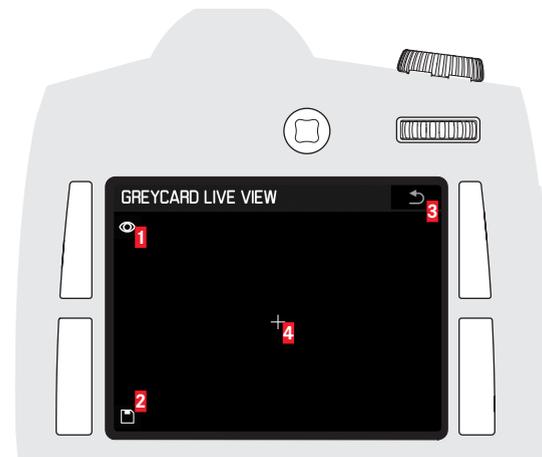
グレーカードの種類によってその後の設定手順が異なります。

通常撮影 $\left[\text{M} \right]$ を選択した場合：

- LCDモニターに**WB設定 一枚撮影してください**というメッセージが表示されます。
3. 白またはニュートラルなグレーを撮影してください。
 - LCDモニターには次のものが表示されます。
 - 撮影した画像
 - 十字線
 - ボタン $\left[\text{WB} \right]$ と $\left[\text{MENU} \right]$ (グレーアウト状態)
 4. ジョイスティックを使って、ホワイトバランスの基準となるサンプルに十字線を移動させます。
 5. $\left[\text{WB} \right]$ ボタン、またはジョイスティックを前へ押しします。
 - ホワイトバランス調整後の色合いが表示され、 $\left[\text{MENU} \right]$ ボタンが表示されます。
 6. 次に、いずれかの操作を行います。
 - $\left[\text{MENU} \right]$ ボタンを押して確定する。
 - このときLCDモニターには**WBセット**というメッセージが表示されます。
 - 別の場所からサンプルを取るには、十字線を動かして再度[確認]ボタンを押します。(手順3～6と同様)
 - LCDモニターに手順3以降が再度表示されます。

ライブビュー画像モード $\left[\text{LIVE} \right]$ を選択した場合：

- LCDモニターがライブビュー表示されます。



- 1 $\left[\text{WB} \right]$ ボタン：ホワイトバランス測定の実行
- 2 $\left[\text{MENU} \right]$ ボタン：ホワイトバランス測定結果を保存(有効な測定値がある場合)
- 3 $\left[\text{LIVE} \right]$ ボタン：通常画像撮影モードに戻る(測定値の保存は行わない場合)
- 4 十字線：サンプル測定点

3. ジョイスティックを希望する方向へ押しして測定点を被写体の白またはニュートラルなグレーの部分へ移動します。
4. LCDモニターの左上にある $\left[\text{WB} \right]$ ボタンを押しすかジョイスティックを前に押しして測定を実行します。
5. LCDモニターの左下にある $\left[\text{MENU} \right]$ ボタンを押しして測定値を保存します。
 - カメラは通常画像撮影モードに戻り、LCDモニターの画面が消えます。

メモ

- 上記手順で撮影された画像はメモリーカードに保存されません。
- ここで保存されたホワイトバランスの設定は、再度上記の手順で設定し直されるまで維持されます。

ISO感度

ここではISO感度を設定します。撮影状況あわせて設定してください。

本製品では、[ISOオート]¹時の感度が変化していくシャッター速度の下限や、高感度側ISOの上限を設定する**オートISO設定**があります。使用するISO感度の範囲を制限することもシャッター速度を決めることもでき、それに応じてISO感度を自動的に高くすることができます。

メモ

一般的に、感度が高くなるとノイズが増えていきます。また、感度が高くなりノイズが増えるとデータ書込み時間が長くなります。

ISO感度を設定する

1. **画像**メニュー画面で**iso**を選びます。
2. サブメニューが表示されます。
このサブメニューには使用可能なISO感度と[ISOオート]があります。

手動で設定する場合

3. 希望のISO感度を選びます。

自動設定を使用する場合

4. ISOオートを選びます。

ISO感度の自動設定範囲を制限する場合

1. **セットアップ**メニュー画面で**オートISO設定**を選びます。
2. サブメニューで**オートISO 静止画**を選択します。

3. **最大ISOオート**では、使用するISOの上限を設定します。ここで設定した値よりも高いISO感度は使用しません。
4. **最大露出時間**では、シャッター速度の下限を設定します。ここで設定した値よりも遅いシャッター速度は使用しません。

1/f、**1/2f**、**1/4f**の「f」はその時取り付けられているレンズの焦点距離(mm)を表しています。

メモ

初期設定では1fに設定されており、例えばこのときSummarit-S 1:2,5/70mm ASPHの場合は1/60秒になります。

¹フラッシュユニット使用時、ISO感度を設定することはできません。

メモリーカードへの記録について

CFカードとSDカードの両方がカメラに装着されている場合、メモリーカードへの記録方法を以下の2つから選びます。

- 一方のメモリーカードから優先的に画像を記録し、空き容量がなくなったら、もう一方のメモリーカードに記録する
- それぞれ2枚のメモリーカードに同じ画像ファイルを記録する

画像データの記録方法を設定する

1. **セットアップ**メニュー画面で**バックアップ(CF+SD)**を選びます。
2. **Off**または**On**を設定します。

メモ

Offに設定した場合

- 画像データは、まずSD/SDHC/SDXCカードに保存され、その容量を使い果たした後は、CFカードに保存されます。

Onに設定した場合

- 両方のメモリーカードに同時に同じ画像ファイルが保存されます。

どちらの設定でも、カードが一枚しか装着されていない場合はそのカードに画像ファイルが保存されます。

撮影する

(画像撮影モード)

シャッターレリーズボタン

1. レリーズボタンを半押しすると、測距、測光、ファインダー表示、上面ディスプレイ表示がオンになります。

メモ

- 画像再生モードの状態ではシャッターレリーズボタンを軽く押すと、画像撮影モードに切り換わります。スタンバイモードの状態ではシャッターレリーズボタンを軽く押すと、スタンバイモードが解除され、測距、測光、ファインダー表示、上面ディスプレイがオンになります。
- 次の場合はシャッターが切れません。
 - バッファメモリーが一時的にいっぱいするとき（連続撮影直後など）
 - 装着されたメモリーカードの空き容量がないとき

2. **AFS** (フォーカス優先) モードでオートフォーカスの使用中にシャッターレリーズボタンを半押ししたままにするとフォーカスロックがかかります。

メモ

Aモード、**I**モード、**M**モード時のスポット測光および中央重点測光では、ジョイスティックを前へ押し続けると露出値が固定されます。

3. セルフタイマーが設定されているときは、シャッターレリーズボタンを全押しするとタイマー時間が開始されます。

連続撮影する

本機は秒間3.5コマで連続撮影することができます。

連続撮影の設定と実行

1. **カメラ**メニュー画面で**ドライブモード**を選びます。
2. サブメニュー画面で**連続撮影**を選びます。
3. シャッターレリーズボタンの操作により、次のように撮影します。
 - 全押しし続けると、バッファメモリーいっぱいまで連続撮影します。
 - 一瞬だけ全押しすると、1コマだけ撮影します。

インターバル撮影

一定時間ごとに連続撮影を行うモードです。

インターバル撮影では、撮影コマ数と撮影間隔を設定することができます。

インターバル撮影の設定と実行

1. **カメラ**メニュー画面で**ドライブモード**を選びます。
2. サブメニューで**インターバル**を選びます。
3. インターバルのサブメニューが表示されます。
4. **コマ数**あるいは**インターバル時間**を選びます。
 - どちらも次のサブメニューで数値の入力欄が表示されず。
5. クリックホイールを回すか、ジョイスティックを上下左右に押し希望の数値を入力します；**コマ数**のサブメニューで撮影コマ数を、**インターバル時間**のサブメニューで希望する撮影間隔を秒で設定します。

- クリックホイールあるいはジョイスティックの操作で数値を入力します。
 - このサブメニューのその他の機能：
 - **↶** (右上) = 入力した数値を保存せず1つ前のメニューに戻る
 - **OK** (右下) = 入力した数値を保存して1つ前のメニューに戻る
6. 入力した数値を確定するにはLCDモニターの右下にある**OK**ボタンを押します。

メモ

手順6で正しく設定されなかった場合、工場出荷時の設定数値に設定されます。

7. インターバル撮影を開始するにはシャッターレリーズボタンを押します。

メモ

設定内容は、メニュー画面で再設定するまで記憶されます。

連続撮影、インターバル撮影共通の注意点：

- バッファメモリーの容量により、連続撮影コマ数に制限がかかります。撮影中はファインダー内に撮影可能コマ数が表示されます。
- 連続撮影時は最後に撮影した画像がレビュー表示されます。また再生モード時、メモリーカードへ画像ファイル転送中はメモリーカードに最後に記録された画像が表示されます。

ライブビューモード

一眼レフカメラは光学ファインダーの使用を前提としていたのに対し、ライブビューモードでは撮影前・撮影中にもLCDモニターで被写体を常時確認することができます。ライブビューモードのオン、オフ、および動画モードをオン（撮影は開始せずに）にするにはLVボタンを押します。ボタンを押すと各機能が順に繰り返し表示されます。ライブビュー画像/動画モード/従来の画像撮影モード

- ライブビューモードへ切り替えると、LCDモニターの四隅にメニューボタンの機能アイコンが3秒間表示されます。
- 動画モードでは光学ファインダーを使用することはできません。

メモ

- ライブビューモードでも、各種フォーカスモード、測光モードを使用できます。詳細は該当する機能のページを参照してください。
- ライブビューモードでは、撮像素子がとらえた映像を液晶モニターに表示します。ライブビューモードに切り換えるとシャッターが開いた状態になり、ライブビューモードを終了するとシャッターが閉じてチャージされます。静止画撮影時には一度シャッターを閉じる必要があることから、通常撮影時よりシャッタータイムラグが長くなります。
- ライブビューモードを使うとバッテリーの消耗が早くなります。

露出シミュレーション

工場出荷時設定では、ライブビューモード時のLCDモニター画面には露出設定を反映した明るさで表示されます。この露出シミュレーションを使うと、露出補正やマニュアル露出の露出の加減を確認することができます。プログラム(P)、絞り優先(A)、シャッター速度優先(T)の自動露出時にも露出シミュレーション機能が働きますが、プレビューボタンを押すと露出シミュレーションをオフにできます。オフにすると露出設定に関係なく常時同じ明るさでLCDモニター画面に表示されます。

(ただし、ライブビュー表示のフレームレートの関係上、露出時間が $\frac{1}{60}$ 秒より短いことが前提になります)

ライブビューモード時のLCDモニター表示

ライブビューモード時のLCDモニターには基本設定で以下の内容が表示されます（「表示/LCDモニター/ライブビュー画像撮影モード、62ページ）：

- ヘッダー内いくつかの基本情報が表示されます
- 画面の角にLCDモニターの横にあるボタンの機能がマークで表示されます： = 再生、 = 表示切替、 = 拡大表示、 = メニュー
- スポット測光フレーム (+オートフォーカス測距点)
- オートフォーカス測距点
- 露出シミュレーション
- = キーロックが表示される場合があります

表示設定

LCDモニターの右下のボタンを繰り返し押すと、様々な詳細表示や情報を呼び出すことができます。

- ヒストグラムとクリッピング表示
- フォーカスピーキング
- グリッド線と水準器
- カメラ設定の詳細
- 通常表示に戻す

ヒストグラム

ヒストグラムとは、画像の輝度分布を示すグラフです。横軸はピクセルの明るさを、黒（左）から灰色を経て白（右）で示します。縦軸はそれぞれの輝度のピクセル数を示します。撮影の前後に画像自体の印象とともにこのグラフを見ることで、露出状況を素早く簡単にチェックできます。

クリッピング表示

この表示は画像領域を強調表示しますが、実際には描画されません。

クリッピング表示を設定する

- セットアップメニュー画面で**キャプチャーアシスタント**を選びます。
- サブメニューで**露出クリッピング**を選びます。
- サブメニューで**アンダー下限値**および**オーバー上限値**を設定します。
- クリックホイールを回すか、ジョイスティックを左または右へ押すことで、スケール内で希望する限界値を選んでください。
 - 表示領域の設定に応じて、クリッピング警告表示される部分が変わります。

画像内に以下が表示されます：

- 極端な露出アンダー（黒つぶれ）が発生している部分は青色に、極端な露出オーバー（白とび）が発生している部分は赤色に点滅します。さらに、右上にはクリッピングのマーク()が表示されます。

ヒストグラムとクリッピング表示に関する注意点：

- どちらの表示も再生モード時に使用できません。
- どちらも表示されている部分にのみ常時表示されます（「ライブビューLCDモニター画面の拡大表示」を参照）。

被写体のピントが合っている部分を強調表示(ピーキング)

本製品はライブビューモード時に被写体の輪郭を強調表示し、ピントが合っている箇所を分かりやすく表示します。背景に応じて3つの色から表示色を選択します

フォーカスピーキングを設定する

1. **セットアップ**メニュー画面で**キャプチャーアシスタント**を選びます。
2. サブメニューで**フォーカスピーキング**を選びます。
3. さらにサブメニューが表示されます。
4. 希望の色を設定します
 - ピントが合った部分の輪郭が、選んだ色で表示されます。

フォーカス設定に関する詳細は該当する頁を参照してください。

重要

フォーカスピーキングは、被写体のコントラスト(明暗差)に基づいて行われます。そのため、ピントが厳密に合っていないでも、明暗差が大きい部分が色つきで表示されることがあります。

グリッド

本製品では構図を決める際の参考に2種類のグリッド線を使用することができます。

グリッド機能を設定する

1. メニュー画面で**セットアップ**カテゴリの**キャプチャーアシスタント**を選びます。
2. サブメニューで**グリッド**を選びます。
3. サブメニューで**3x3**または**6x4**を選びます。
 - 水準器とグリッド線の表示を選択した場合、LCDモニター上にグリッド線が表示されます。

水準器

本製品にはセンサーが搭載されており、ファインダーおよびLCDモニターにカメラの傾きを表示できます。この表示を使うとカメラの水平方向と前後方向の傾きが確認できます。建築物を撮影するときなどに構図を正確に決められて便利です。ビューファインダー内には常に適切な水準器が表示され、LCDモニターにも必要に応じて水準器が表示されます。

- 水準器とグリッド線の表示を選択した場合、LCDモニターには垂直方向の目盛と水平方向の線が表示されます。縦軸と横軸における水平な位置は中央に緑色の線で表示されます。それぞれの位置の基準点からのずれは赤い点で表示されます。

メモ

- 表示の精度は1°以下です。
- ヨコ位置撮影、タテ位置撮影ともに表示されます。

マスキング

標準アスペクト比(2:3)に加えて、DNG形式を採用しているときは以下の3つが使用可能です。1:1、16:9、2:1これらのアスペクト比を活用することで画像の構図をさらに多様なものにすることができます。

マスキングを設定する

1. メニュー画面で**セットアップ**カテゴリの**キャプチャーアシスタント**を選びます。
2. サブメニューで**フォトマスク**を選びます。
3. 表示された中から希望の形式を選択します。
 - LCDモニター画面は、アスペクト比1:1の場合は左右がマスクされ、16:9または2:1の場合は上下にマスクされます。撮影時のマスキングは透過表示されます。

メモ

設定したアスペクト比に関わらず、画像そのもののアスペクト比は常に2:3で記録されます。マスキングは本機での再生表示にのみ適用されますが、画像編集ソフトウェアによっても設定したアスペクト比が表示されるものもあります。また、この設定を解除してアスペクト比を2:3にして表示することもできます。

ライブビュー画面の拡大

数種類の拡大枠を選びます。

LCDモニターの左下にあるボタンを何度か押します。

- ボタンを押すたびに倍率が以下のように変わります。
 - 2倍
 - 4倍
 - 通常の倍率に戻す
- 拡大表示時にはボタン表示がされなくなります：左下に、画像の拡大部分の位置を示す正方形が内側にある枠が表示されます。

拡大枠の動かし方：

ジョイスティックを上下左右いずれかに押してください。

メモ

- グリッド表示は拡大表示時には使用できません。
- ライブビューモードを一度オフにし、再度オンにすると前回選択していた形式で表示されますが、拡大表示は引き継がれません。
- カメラの電源をオフにし、再度オンにした場合にも前回選択した表示形式で表示されます。

ピント合わせ

TSレンズを除くSレンズでは、マニュアルフォーカスとオートフォーカスでピント合わせが出来ます。

ピント合わせを行うと、ピントの状態に応じてファインダー内に次のようなフォーカスマークが表示されます。

- 三角矢印はピントが合っていないときに表示されます（マニュアルモードおよびマニュアル優先オーバーライド時）。中央の丸印が点灯している場合はピントが合っているときに表示されます。中央の丸印が点滅している場合は、測距出来ないことを示しています。
- フォーカスマークの表示については、「表示」の「ビューファインダー」の項をご覧ください。

メモ

本製品の測距方式はパッシブ方式で、被写体の明暗差に基づいて測距を行います。そのため、明るさやコントラストが極端に低い被写体では測距できないことがあります。

フォーカスモードを選ぶ

1. **カメラ**メニュー画面で**フォーカスモード**を選びます。
2. サブメニュー画面で希望のフォーカスモードを選びます。

マニュアルフォーカス

レンズのフォーカスリングを回して、ファインダー内（ライブビューモード時はLCDモニター内）の主要被写体をはっきり見えるようにします。

- シャッターリリースボタンを半押しすると、上面ディスプレイに設定された距離(**FOCUS**)、および被写界深度範囲の前面(**FRONT**)と背面(**BACK**)の距離を表示します。

ライブビューモードではピント合わせの補助に被写体を部分拡大表示させることができます。

1. メニュー画面で**セットアップ**カテゴリの**キャプチャーアシスタント**を選びます。
2. サブメニューで**MFアシスト**を選びます。
3. **On**または**Off**のいずれかを選びます。
 - [On]に設定すると、レンズのフォーカスリングを少し回すと中央部分が4倍に拡大表示されます。ジョイスティックの操作で拡大部分を移動することができます。

メモ

- フォーカスモードがマニュアルに設定されている場合でも、ジョイスティックを前に押しと一時的にオートフォーカスでピント合わせすることができます。（次の節と、32ページのジョイスティックの機能についての章を参照してください）
- 本製品のフォーカシングスクリーンはマット面でピント合わせができるようになっています。ファインダースクリーンは、用途に合わせて別売の交換用ファインダースクリーンに簡単に交換できます。

オートフォーカス

次の2種類のモードから選べます。シャッターリリースボタンを軽く押し続けると、測距システムがオンになり、自動的にピントを合わせます。

AFsシングル(フォーカス優先)

- 一度ピントが合うと、シャッターリリースボタンを半押ししている間は、ピントを固定できます。
- ピントが合わないと、シャッターリリースボタンを全押ししても撮影できません。

メモ

ジョイスティックを前に押しとフォーカスロックがかかけられます。

AFc (コンティニュアス) シャッターリリース優先

- シャッターリリースボタンを軽く押し続けるか、半押ししている間はピントを合わせ続けます。測距システムが撮影距離の異なる被写体を検知したり、ピントを合わせた被写体までの距離が変わったりすると、ピントを合わせ直します。
- 設定の固定は、ジョイスティックを前に押しだけです。
- ピントの状態にかかわらず、いつでもシャッターリリースボタンを全押しして撮影できます。

メモ

ライブビューモード時は**AFc**機能を使用することはできません。

どちらのAFモードでも、シャッターリリースボタンを半押ししている間はフォーカスリングを回してマニュアルフォーカスに切り替えることができます。

- ライブビューモードではピント合わせが成功すると、LCDモニター内の十字の色が黄色から緑に変わります。

ライブビューモードでAFフレームを動かす

ライブビューモード時は、ジョイスティックを使ってAFフレームを画面上の任意の位置へ移動することができます。

メモ

ライブビューモードでスポット測光を使用している場合、AFフレームとスポットAEフレームは連動し、ピント合わせを行う場所の露出を測ります。

測光モードを選ぶ

測光モード

3種類の測光モードから選びます。

測光モードを選ぶ

1. カメラメニュー画面で測光モードを選びます。
2. サブメニューで希望の測光モードを選びます。

スポット測光 -

画面の中心部を測光します。被写体の特定の部分を測光するのに適しています。測光される範囲は、フォーカシングスクリーン中央の円¹で表示されます。ライブビューモードではスポット測光範囲とAFフレームが連動します。

中央重点測光 -

画面の中央部に重点を置いて、全体の明るさを平均的に測光します。

多分割測光 -

画面全体を中央部とその周囲の4つのエリアに分割して測光します。各エリアの輝度差を計算し、最適と思われる値で撮影します。

露出制御

ライカSでは、プログラムAEモード()、絞り値優先AEモード()、シャッター速度優先AEモード()、およびマニュアル露出制御()の4つの露出モードをクリックホイールを回して選択します：

露出モードを設定する

1. クリックホイールを長押し(1秒以上)します。
 - 現在設定されている露出モードが大きな文字で上面ディスプレイに表示されます。
2. クリックホイールを回して露出モードを変更します。
 - 約2秒間何も操作をしないか、シャッターリリースボタンを半押しすると上面ディスプレイは通常表示に戻ります。

シャッター速度値はシャッター速度ダイヤルを(Tモード、Mモード時)、絞り値はクリックホイールを(Aモード、Mモード時)回して設定します。どちらも1/2段ステップで設定します。

初期設定ではクリックホイールを右に回すと絞り値が小さくなり、左に回すと大きくなります。希望する場合は逆に設定することもできます。

クリックホイールの設定をする

1. メニュー画面でセットアップカテゴリのカスタマイズを選びます。
2. サブメニューでクリックホイール設定を選びます。
 - さらにサブメニューが表示されます。
3. サブメニュー画面で希望する回転方向を選びます。

モード、シャッター速度、絞り値などを意図せず変更してしまわないように、両ダイヤルの機能を停止させることができます。撮影モード時には、回しても押しても設定変更を作動させないように設定することが可能です。

キーロックの設定をする

1. セットアップメニュー画面でキーロックのOffまたはOnを選びます。
 - Onに設定した場合、上面ディスプレイに鍵のマークが表示されます。ライブビューモード時はLCDモニターにも表示されます。

P:プログラムAEモード

被写体の明るさに応じて、適正露出になるようにシャッター速度と絞り値が連続的に自動設定されます。自動設定の範囲は、シャッター速度が $\frac{1}{4000}$ 〜最大125秒(レンズシャッターでの撮影時は $\frac{1}{1000}$ 〜125秒)、絞り値が使用レンズの開放絞り〜最小絞りです。

ファインダー内および上面ディスプレイの表示

-  (選択中の露出モードに対応)
- シャッター速度と絞り値

メモ

- [ISOオート]に設定しているときはAEの制御レンジが広がりますが、被写体が暗い場合、適正露出を得るため[オートISO設定]の設定制限を超えてシャッター速度が遅くなります。
- 被写体が明るすぎるために、本製品で選択されていた絞り値に対して設定できるシャッター速度では露出オーバーになってしまう場合は、ファインダー内に「HI」が表示されます。被写体が暗すぎるために、本製品で選択されていた絞り値に対して設定できるシャッター速度では露出アンダーになってしまう場合は、ファインダー内に「LO」が表示されます。「LO」が表示される場合は、同時に本製品の測光範囲を下回っていることもあります(「測光範囲を超える場合」)。その場合、適正露出は得られません。

¹円は、フォーカシングスクリーン全種についているわけではありません。

$\frac{1}{4}$ 、 $\frac{1}{8}$ f、 $\frac{1}{4}$ fの場合に¹適用されます。

プログラムシフト

プログラムシフトの設定

プログラムAEモードでは、本製品が自動的に決定した適正露出を維持したまま、シャッター速度と絞り値の組み合わせを変えることができます。

クリックホイールを回して希望のシャッター速度と絞り値の組み合わせにします。

ファインダー内および上面ディスプレイの表示、ライブビューモード時の画面表示

- プログラムシフト中はPのマークの右下に「S」が表示されます。
- 自動制御の絞り値とシャッター速度の値は増減が逆になります。

メモ

次の場合は、プログラムシフトは解除されません。

- 撮影後
- 測光システムがオフになったとき

次の場合は、プログラムシフトは解除されます。

- 他の露出モード (A、T、M) に切り替えたとき
- 本製品の電源を入れ直したとき (オートパワーオフによるスタンバイモードを解除したときを含む)

これらの場合、再度プログラムAEモードで撮影するときは、本製品が自動設定したシャッター速度と絞り値に戻ります。

絞り優先AEモードA

絞り優先AEモードで撮影する

1. クリックホイールで  を選びます (「露出制御」30ページ)
2. クリックホイールを回して希望の絞り値に設定します。
絞り値を手動設定すると、被写体の明るさに応じて適正露出になるようにシャッター速度が自動的に自動設定されます。自動設定の範囲は、 $\frac{1}{4000}$ ～ 最大60秒 (レンズシャッターでの撮影時は $\frac{1}{1000}$ ～ 125秒) です。

ファインダー内および上面ディスプレイの表示、ライブビューモード時の画面表示

- 露出モードとして  が表示されます (「A」は「Aperture」の略で、絞り値を意味します)。
- 手動設定した絞り値が表示されます。
- 自動設定されたシャッター速度が表示されます。

メモ

- [ISOオート] に設定しているときはAEの制御レンジが広がりますが、被写体が暗い場合、適正露出を得るため[オートISO設定]の設定制限を超えてシャッター速度が遅くなります。
- 被写体が明るすぎるために、本製品で選択されていた絞り値に対して設定できるシャッター速度では露出オーバーになってしまう場合は、ファインダー内に「HI」が表示されます。被写体が暗すぎるために、本製品で選択されていた絞り値に対して設定できるシャッター速度では露出アンダーになってしまう場合は、ファインダー内に「LO」が表示されます。「LO」が表示される場合は、同時に本製品の測光範囲を下回っていることもあります (「測光範囲を超える場合」)。その場合、適正露出は得られません。
- 動画モードでは最長シャッター速度が設定されたフレームレートにより決まります。

T:シャッター速度優先AEモード

シャッター優先AEモードで撮影する

1. クリックホイールで  を選びます (「露出制御」30ページ)
2. シャッター速度ダイヤルで希望の露光時間を設定します。
シャッター速度を手動設定すると、被写体の明るさに応じて適正露出になるように絞り値が自動的に自動設定されます。自動設定の範囲は、使用レンズの開放絞り～最小絞りです。

ファインダー内および上面ディスプレイの表示、ライブビューモード時の画面表示

- 露出モードとして  が表示されます (「T」は「Time」の略で、露光時間を意味します)。
- 自動設定された絞り値が表示されます。
- 手動設定されたシャッター速度が表示されます。

メモ

- [ISOオート] に設定しているときはAEの制御レンジが広がります。[最大露光時間] で設定したシャッター速度よりも遅いシャッター速度を設定した場合は、ダイヤルで設定したシャッター速度を優先します。
- 被写体が明るすぎたり暗すぎたりする場合は、設定したシャッター速度に対して使用レンズの絞り値では適正露光が得られないことがあります。その場合は、シャッター速度を変更してください。

AEロック/AFロック

AEロック、AFロック（フォーカスロック）は、シャッターリリースボタンおよびジョイスティックを使用して行います。

露出やピントの固定に関する基本的な注意

- シャッターリリースボタンを使用：

- AFsモード時は、シャッターリリースボタンの半押しでフォーカスロックが出来ます。
- シャッターリリースボタンのフォーカスロック機能は、半押しを続けている間は維持されます。

- ジョイスティックを使用：

- 露出設定およびAF設定は保存することができます。メニュー操作で割り当てすることで、異なる機能を組み合わせて使用できるようになります。
- ジョイスティックによるロック機能はジョイスティックが前に押されたままになっている限り、つまり何度撮影しても、またシャッターリリースボタンを同時に使用しているかどうかに関係なく、ロック状態が続きます。
- ジョイスティックによるロック機能はAFsモードおよびAFcモードのどちらでも使用できます。

シャッターリリースボタンで保存する

1. ビューファインダーで固定したい被写体に照準を合わせます。
2. シャッターリリースボタンを半押しします。シャッターリリースボタンが半押しされている限り、固定状態が維持されます。
3. シャッターリリースボタンを半押ししたまま、構図を決め、
4. シャッターリリースボタンを押します。

シャッターリリースボタンを半押しした状態から指を離すと、固定が解除されます。

ジョイスティックにて保存する

機能の組み合わせを設定

1. メニュー画面で「セットアップ」カテゴリの「カスタマイズ」を選びます。
2. サブメニュー画面で「AF/AEロック」を選びます。

- さらにサブメニューが表示されます。

このサブメニューではメニュー用に指定されている機能「AFモード時」または「MFモード時」のうち、設定したい方を選びます。

AFモード時

3. 「AFモード時」サブメニューでは3種類の方法を選択することができます。

3種類の内訳は以下の通りです；

- 「AF/AEロック」(初期設定)
 - シャッターリリースボタン：「AFs」設定
 - ジョイスティック：露出設定、「AFs/AFc」設定
- 「AE-L」
 - シャッターリリースボタン：「AFs」設定
 - ジョイスティック：露出設定
- 「AF-L」
 - シャッターリリースボタン：「AFs」設定
 - ジョイスティック：「AFs/AFc」設定

MFモード時

ピントをマニュアルで設定する場合、ジョイスティックを前に押しとオートフォーカスモードを一時的に、つまり撮影の度ごとに有効にして（設定に応じて）その露出設定を固定できます。

3. 「MFモード時」サブメニューでは5種類の方法を選択することができます。

5種類の内訳は以下の通りです；

- 「AFs オン/AEロック」(初期設定)
 - AFsモードが撮影時に有効、露出設定は保存されます
 - その後のAF設定は、マニュアル調整または新たにボタンで確定すると、次に変更されるまで固定されます。
- 「AFs オン」
 - 「AFs オン/AEロック」と同様、ただし露出設定は保存されません
- 「AFc オン/AEロック」
 - 「AFs オン/AEロック」と同様、ただし、AFcモードが併用されます
- 「AFc オン」
 - 「AFs オン/AEロック」と同様、ただし露出設定は保存されません
- 「AE-L」
 - 露出設定の保存

露出設定を保存するときのビューファインダー表示

- 保存した測光値とのずれを表す水準器が表示されます。
- この間に絞り値とシャッター速度のいずれかを変更すると、もう一方の設定値も変更され、ファインダー内の表示も変わります。この間、絞りまたは露光時間を変更すると、それに応じて他の値もそれに適合し、表示されます。

露出補正

露出補正はプログラムAEモード、シャッター速度優先AEモード、絞り値優先AEモードで使用できます。

メニューでの露出補正の入力と削除

1. 「カメラ」メニュー画面で「露出補正」を選びます。
 - サブメニューには赤い認識設定マークのついた目盛が表示されます。露出を補正しないときは「0」を選びます。
2. クリックホイールを回すか、ジョイスティックを左または右へ押すことで、希望の値を選んでください。
 - 設定を実行すると、メニュー画面に補正値が「EV+x」¹と表示されます。

メモ

工場出荷時設定ではLCDモニター右下にあるボタンを長押しすることでこのメニュー機能を直接呼び出すことができます。

ファインダー内および上面ディスプレイの表示、ライブビューモード時のLCDモニター表示(画像ファイル表示中)

- 水準器上の補正值(ビューファインダーおよびLCDモニター)
- 状況に応じた警告表示(ビューファインダー)
- 「または (上面ディスプレイ)

メモ

- 設定した補正值は、本製品の電源を切っても記憶されます。
- 設定した補正值は定常光の測光にのみ有効で、フラッシュ光が届く被写体の露出は変わりません。フラッシュ撮影については、「フラッシュを使って撮影する」をご覧ください。

¹ プラスまたはマイナスのいずれかが表示されます。「x」は数値を示します。

絞り値と露光時間の手動設定-M

露出モードを設定する

1. クリックホイールで **M** を選びます (「露出制御」30ページ)
2. クリックホイールを回して希望の絞り値を、シャッター速度ダイヤルで希望の露光時間を設定します。

ファインダー内および上面ディスプレイの表示、ライブビューモード時の

LCDモニター表示

- **M** (選択中の露出モードに対応)、
- マニュアル設定された絞り値とシャッター速度、および
- 露出値を確認できる露出インジケータが表示されます。露出インジケータは現在設定されているシャッター速度と絞り値それぞれの組み合わせと測光値のずれを表示しています。±3 EVの範囲内では½EV刻みで目盛が表示されます。露出値の差が±3EVを超えると、露出インジケータの右端または左端の目盛のいずれかが点滅します。

適正露出を得るには、露出インジケータの中央にある「0」の目盛だけが点灯するように、シャッター速度または絞り値を調整します。

メモ

ISO感度設定を自動に設定している場合、前回マニュアル設定した感度設定が使用されず、設定したシャッター速度の上限が無効になる場合があります。

露出を自動的に変えながら撮影する(オートブラケット)

オートブラケット機能は4種類全ての露出モードと併用することができます。

以下の設定を使用可能です：

- 2 撮影フレーム数：3枚、5枚
- 補正值のステップ間隔：0.5EV、1EV、2EV、3EV

オートブラケットを設定する

1. **カメラ**メニュー画面で**露出ブラケット**を選択します。
 - LCDモニターに4つの項目のあるサブメニューが表示されます：**露出ブラケット**、**コマ数**、**露出ステップ**、**オート**、これらの項目の下に目盛が表示されます。同時に露出補正を設定しているときは、露出補正值が目盛の下に表示されます。
2. **露出ブラケット**項目でクリックホイールを回すか、ジョイスティックを左右いずれかに押してオートブラケット機能を使用するか**[On]**使用しないか**[Off]**を選びます。
 - **[On]**にすると、他に3つの下位設定項目が有効化（白で表示）されます。
3. クリックホイールを押すか、ジョイスティックを前に押して次の項目に進みます（どの項目にも同様の操作で進めます）。
4. **コマ数**の項目では撮影枚数を設定します。また、**露出ステップ**では一連の撮影の間に適用される露出ステップを希望の値に設定します。
 - 選択した露出は赤い目盛で強調表示されます。場合によっては一連の画像全てが目盛の中心部から補正值の周りへ「動いている」を確認することで設定した補正值を同時に確認することができます。
5. **オート**では撮影の都度自分でシャッターリリースボタンを押すか**[Off]**、一度シャッターリリースボタンを押したら全ての撮影が自動的に行われるか**[On]**を選びます。
 - 最初のメニューリストにオートブラケット設定が**X/Y EV**¹と表示されます。
6. - 本製品の電源を入れ直したとき

メモ

露出ブラケット機能はインターバル撮影と併用できません。

ビューファインダーの表示

- 警告マーク
- ステップ間隔に応じたシャッター速度と絞り値によって表示が変わります。

上面ディスプレイの表示

- 露出モードの右上に「**M**」(+補正での撮影前)、「**0**」(標準露出での撮影前)、「**-**」(-補正での撮影前)が順番に表示されます。
- ブラケット表示マーク

LCDモニターの表示(画像データ表示時)

- ブラケット表示マーク

B設定

B設定時はシャッターリリースボタンを半押ししたままの状態と同様、シャッターが開いたままになります。

ファインダーの表示

- **bulb** シャッター速度の代わりに表示されます

上面ディスプレイの表示

- **B**
- シャッター開放後の露光経過時間

ライブビューモード時のLCDモニター表示

- **bulb** シャッター速度の代わりに表示されます
- セルフタイマーを使ってバルブ撮影することもできます。これをTモードといいます。Tモードでは、シャッター速度ダイヤルを「**B**」にしてから、シャッターリリースボタンを押してセルフタイマーを作動させると、設定した時間が経過したあとに自動的にシャッターが開いた状態になります。シャッターは、シャッターリリースボタンを再度押すまで開いた状態になります。シャッターを押し続ける必要がないので、長時間の露光でもブレを抑えて撮影できます。どちらの場合も露出計はオフになります。

¹ 「X」は画像番号、「Y」はステップ間隔を表します。

メモ

- それぞれの露出モードに応じてシャッター速度および絞り値が変更され、それにより露出ステップが決定されます。
- 露出の並び順は以下の通りです。露出オーバー、露出補正、露出アンダー
- オート露出ブラケット機能を使用する場合は常に**オートISO設定**設定に固定されます。
 - ISO感度を自動設定にしているときは、ISO感度は撮影ごとには変わらず、標準露出での撮影時に自動設定されたISO感度で露出を変えた撮影も行います。
 - **オートISO設定**のサブメニュー画面での設定内容は無効となり、シャッター速度の制限はなくなります。
- 露出の初期設定によっては、オートブラケットの有効範囲が制限される場合があります。
- その場合でも、設定したフレーム数で撮影できますが、補正効果が得られないことがあります。
- 設定内容は、メニュー画面で再設定するか本製品の電源を切るまで記憶されます。

測光範囲を超える場合

本製品の測光範囲を超える場合は、正確に測光できないため、ファインダー内の表示にかかわらず、適正露出は得られません。その場合、ビューファインダーに表示される測光値は誤った露出結果につながるおそれがあります。そのため、基本的に測光範囲を下回っている場合はビューファインダーに**L0**と表示されます。

メモ

測光範囲外である場合、上面ディスプレイのシャッター速度、または絞り値の値が点滅します。

メモ

- 最大露出時間は、設定されたISO感度に依存します。
- 露光時間が長くなると、ノイズが発生することがあります。本製品では、わずらわしいノイズを低減するために、遅いシャッター速度で撮影したときは、撮影後に自動的にブラックピクチャー（シャッターを閉じた状態での撮影）として再撮影します。再撮影中に元の画像に生じたノイズをデジタル処理によって除去し、実際に撮影したデータとして保存します。
- このように露光を2度行うようなかたちになるため、特にバルブ撮影時には撮影完了までに時間がかかりますのでご注意ください。ノイズリダクション処理中は、カメラの電源を切らないでください。
- 長時間撮影の場合、アイピースカバーを取り付けることをおすすめします。このカバーを取り付けることにより、望ましくない余分な露出を防ぐことができます。
- シャッター速度を1/2秒より遅く設定した場合は、撮影後に**ノイズリダクション処理中**というメッセージがLCDモニターに表示されません。
- Bモードでのバルブ撮影では、カメラ本体が搭載したフォーカルプレーンシャッターでしか行えません。メインスイッチを**CS**にしても、フォーカルプレーンシャッターでの撮影となります。

セルフタイマーを使って撮影する

セルフタイマーを2秒または12秒に設定して撮影できます。

セルフタイマー撮影の設定/実行

1. **カメラ**メニュー画面で**ドライブモード**を選びます。
2. サブメニューでタイマー時間を選びます。
3. 撮影を実行するにはシャッターリリースボタンを全押しします（「画像シャッターリリースボタン」のページも参照）

メモ

セルフタイマー作動中にシャッターリリースボタンを全押しすると、セルフタイマーを再度最初から作動させることができます。

セルフタイマー撮影を行う

タイマー時間が2秒のとき：
最初に測光を行い、オートフォーカスに設定しているときは自動的にピントを合わせ、ミラーが上がります。その後、ミラーが上がり、セルフタイマーが作動し始めます。

タイマー時間が12秒の場合：
シャッターリリースボタンを全押しした直後にセルフタイマーが作動し始めます。その後、撮影の2秒前にミラーが上がります。

セルフタイマーに関する表示

- セルフタイマーが作動し始めると、LCDモニターに次のような表示が現れます。
- LCDモニターには**12後にリリース**というメッセージで撮影までのカウントダウンが表示されます。
 - 12秒に設定した場合はLEDが点灯します。12秒に設定した場合は最初の10秒間に初めはゆっくりと、そして次第に早く点滅します。

セルフタイマーを中止する

開始したセルフタイマーのタイマー時間はメインスイッチでカメラの電源を切ることによって中断することができます。タイマー時間が12秒の場合は最初の10秒間にLCDモニターの横にある4つのボタンのいずれかを押すことでも中断できます。セルフタイマーを使用しなくなった場合、メニューで無効に設定する必要があります。カメラの電源をオフにしてもセルフタイマーは解除されません。

メモ

同時にミラーアップ撮影を設定しているとき（次章）は、セルフタイマーで設定した時間が経過するとミラーアップ撮影されません。

ミラーアップ撮影する

ミラーアップ撮影すると、ミラーの動作や絞り込みの振動の影響を受けずに撮影できます。

ミラーアップ撮影の設定/実行

1. カメラメニュー画面で**ミラーアップ**を選びます。
2. サブメニューで**On**または**Off**を選びます。
3. シャッターリリースボタンを全押しするとミラーが上がります。
4. 撮影するにはシャッターリリースボタンをもう一度押します。

ミラーアップ撮影を行う

最初にシャッターリリースボタンを押すと、測光を行い、オートフォーカスに設定しているときは自動的にピントを合わせます。その後、ミラーが上がリ、絞りを設定値まで絞り込みます。シャッターは作動しません。再度シャッターリリースボタンを押すと、シャッターが作動して撮影します。撮影後、ミラーが下がり、絞りが開きます。

ミラーアップ撮影を中止する

ただし、本製品の電源を入れ直しても、メニュー項目での設定内容はリセットされません。メインスイッチでカメラの電源を切るとミラーは元の位置に下がります。ただし、本製品の電源を入れ直しても、メニュー項目での設定内容はリセットされません。通常撮影に切り替えるには、[カメラ]メニュー画面の[ミラーアップ]のサブメニューで**Off**を選んでください。

メモ

- ミラーアップ撮影するときは、ミラーを上げてから2分以内に撮影してください。2分経過すると、バッテリー消費を防ぐために、ミラーが自動的に下がります（シャッターは作動しません）。
- ミラーを上げてから2分以内にシャッターリリースボタンを半押しすると、さらに2分間ミラーが上がった状態になります。
- 同時にセルフタイマーを設定すると、再度シャッターリリースボタンを押さなくても、セルフタイマーの設定時間が経過するとミラーアップ撮影されます。

被写界深度を確認する(プレビューボタン)

本製品では、どの露出モードでも、そのとき設定されている絞り値まで絞りが絞り込まれ、ファインダーで被写界深度を確認できます。これは、工場出荷時の設定では、プレビューボタンによって作動します。プレビューボタンを押し続けている間は補正値がLCDモニターと上面ディスプレイに表示されます。ライブビューモード時もLCDモニターに補正値が表示されます。プレビューボタンを使うには、次の操作を行う必要があります。

- プレビューボタンを使うには、次の操作を行う必要があります。
- シャッターリリースボタンを軽く押して、測光システムをオンにします。
 - そのボタンを押し続けている間は、シャッターが切れません。

そのボタンを押し続けている間は、シャッターが切れません。

メモ

プレビューボタンの機能は使用中のモードによって異なります。

モード		機能
画像撮影モード	通常（ファインダー内画像の使用）	押しっぱなしにするとプレビュー機能、押してすぐ放すと設定したメニュー機能へクイックアクセス
	ライブビュー（LCDモニター内画像の使用）	何度か押すことで露光シミュレーションのオン/オフを切り替え
動画、スライドショー、撮影モード		プレビューボタンを長押しすると録音レベルとヘッドホン音量設定を呼び出すことができます。この機能は通常画像撮影モードの設定とは無関係であり、変更することはできません。

その他の機能・設定

好みの設定を保存する(ユーザープロフィール)

メニュー項目の設定を組み合わせ、ユーザープロフィールとしてカメラに保存しておくことができます。同じ状況で、あるいは同じ被写体を、同じ設定で素早く撮影したいときなどに便利です。保存できるユーザープロフィールは4つです。保存したユーザープロフィールの名前を変更することもできます。なお、ユーザープロフィールには、初期設定のプロファイルもあります(設定値は変更できません)。設定を保存したユーザープロフィールは、メモリーカードに保存することもできます。メモリーカードに保存したユーザープロフィールは、別のライカSで読み込んで、同じ設定内容で撮影できます。

ユーザープロフィールを保存する

1. メニューで保存したい項目の設定を行います。
2. **セットアップ**メニュー画面で**ユーザープロフィール**を選びます。
3. サブメニュー画面で**ユーザープロフィール保存**を選びます。
 - 表示されるサブメニューに使用可能なプロフィールの保存場所が4項目分表示されます。
4. サブメニュー画面で希望する保存場所を指定します。
 - それぞれに応じたメッセージが表示されます。
5. 確定するには**Yes**を、取り消すには**No**を選びます。
 - 手順4のサブメニューが再度表示され、選択中の保存場所が強調表示されます。

保存したユーザープロフィールを呼び出す

1. **セットアップ**メニュー画面で**ユーザー設定**を選びます。
 2. サブメニューで**プロフィール読み込み**を選びます。
 - 表示されるサブメニューには5つの項目があります。最初の項目が工場出荷時設定のプロファイル、残りの4つが保存したプロファイルです。
- プロファイルが保存されている項目のみ選択可能です。
3. サブメニュー画面で希望のプロファイルを選びます。
 - 選択したプロファイルが**有効**と認識されます。

メモ

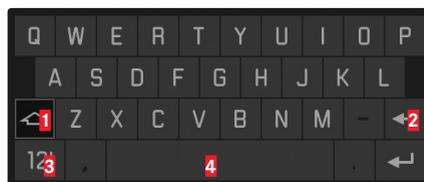
ユーザープロフィールを呼び出してから設定内容を変更すると、撮影情報メニューの[ユーザープロフィール]の項目には、呼び出したユーザープロフィール名の代わりに[—]が表示されます。

保存したユーザープロフィールの名前を変更する

1. **セットアップ**メニュー画面で[ユーザープロフィール]を選びます。
2. サブメニュー画面で**プロフィール名変更**を選びます。
 - 表示されるサブメニューにプロフィールの保存場所が4項目分表示されます。

プロファイルが保存されている項目のみ選択可能です。

3. 希望のプロファイルを選択します。
 - キーボードのサブメニューが表示されます。
4. 最初にプロフィール名として設定されている文字列を削除してから希望する文字列を入力します。
 - クリックホイールを回すかジョイスティックを左右に押すことで各文字を繰り返し表示して選択することができます。
 - ジョイスティックの上下を押すと他のプロフィール名に移動することができます。
 - クリックホイールを押すかジョイスティックを前に押すと選択した文字列をファイル名として確定することができます。
 - 特殊「ボタン」:



- 1 大文字と小文字の切り替え
 - 2 文字の削除
 - 3 文字と数字表示から句読点と特殊文字表示への切り替え
 - 4 スペース
5. LCDモニターの右上か右下に表示されている機能ボタン**0**または**OK**を押すと入力内容を確定できます。
 - 手順2のサブメニューが表示され、編集したプロフィール名は新しい名前に更新されます。

保存したユーザープロフィールをメモリーカードに保存する/メモリーカードから読み込む

1. **セットアップ**メニュー画面で**ユーザープロフィール**を選びます。
2. 表示されたサブメニューで**カードから入力**または**カードへ出力**を選びます。
 - それぞれに応じたメッセージが表示されます。
3. 表示されたメッセージを確認し、本当にプロフィールをインポートまたはエクスポートするか確定してください。

メモ

メモリーカードに保存するときは、設定を保存していないユーザープロフィールを含むすべてのユーザープロフィールがメモリーカードに保存されます。メモリーカードから読み込むときは、すべてのユーザープロフィールが読み込まれ、すでに設定を保存しているユーザープロフィールを含むすべてのユーザープロフィールに上書きされます。

設定をリセットする

メニュー項目の設定をすべてリセットして、基本設定(初期状態)に戻すことができます。

設定をリセットする

1. **セットアップ**メニュー画面で**設定リセット**を選びます。
2. サブメニューで**No**または**Yes**を選びます。

メモ

ユーザープロフィール保存で保存したユーザープロフィール(左記)もリセットされます。

フォルダ管理

撮影した画像データは、メモリーカードの中に自動生成されるフォルダに保存されます。フォルダ名は、3桁の数字（フォルダ番号）と5文字の英数字で構成されます。初期設定では、最初のフォルダから順番に「100LEICA」、「101LEICA」とフォルダ名が付けられていきます。フォルダはフォルダ番号999まで作成できます。フォルダ番号が999に達して新しいフォルダを作成できなくなった場合は、液晶モニターにメッセージが表示されます。個別の画像は、連続で9999までの番号を与えられますが、使用するメモリーカードに最後にカメラが与えたのよりも大きな番号を付けられた画像が既に存在する場合はその限りではありません。そのような場合、そのカードでの番号付けに応じて、番号が与えられます。現在のフォルダに画像番号9999があった場合、自動的に新しいフォルダが設置され、番号付けは再び0001から始まります。フォルダ番号が999のフォルダで画像番号が9999に達すると、液晶モニターにメッセージが表示され、番号付けはリセットされます。フォルダ番号が999に、画像番号が9999に達したときは、LCDモニターにその旨の警告メッセージが表示され、番号付けはリセットされます。フォルダはいつでも新規に作成できます。また、フォルダ名やファイル名を変更することもできます。

保存フォルダを変更する/ファイル名をリセットする

1. **セットアップ**メニュー画面で**画像番号**を選びます。
2. サブメニューで**フォルダ作成**を選びます。
 - フォルダ名を入力する欄と共にキーボードのサブメニューが表示されます（最初は常に「XXXLEICA」という名前になっています）。
3. 最初にフォルダ名として設定されている文字列を削除してから希望する文字列を入力します。
 - 操作は36ページの「保存したユーザープロファイルの名前を変更する」の手順4と全く同じです。

4. LCDモニターの右上か右下に表示されている機能ボタン0または**OK**を押すと入力内容を確定できます。
 - それぞれに応じたメッセージが表示されます。
5. 設定を確定するには**YES**を、取り消すには**NO**を選びます。
 - キーボードのサブメニューが再度表示されます。

メモ

本製品でフォーマットしたのではないメモリーカードを使用する場合（次章）、カメラは、自動的に新しいフォルダを作成します。

画像番号をリセットする

画像番号は、新しいフォルダを作成しなくてもリセットできます。

1. **セットアップ**メニュー画面で**画像番号**を選びます。
2. サブメニューで**画像番号リセット**を選びます。キーボードのサブメニューが表示されます。
3. 表示されたサブメニューから希望する設定を選びます。手順は3～5に記載されている方法と全く同じです。

ファイル名を変更する

1. **セットアップ**メニュー画面で**画像番号**を選びます。
2. サブメニューで**ファイル名変更**を選びます。
 - ファイル名と共にキーボードのサブメニューが表示されます（最初は常にL100 001のような名前になっています）。
3. 希望の名前に変更する。名前の変更の仕方は36ページの「保存したユーザープロファイルの名前を変更する」の手順4と全く同じです。
 - 手順2のサブメニューが表示され、編集したファイル名は新しい名前に更新されます。

メモリーカードをフォーマット（初期化）する。

通常は使用中のメモリーカードをフォーマットする必要はありません。本製品でフォーマットされていない、あるいは他の装置（例えばパソコン）でフォーマットしたメモリーカードを使うときは、必ずカメラでフォーマットすることが必要になります。

重要

メモリーカード内のすべてのデータは、フォーマットしても、ディレクトリのみが削除されるだけで、完全には削除されていません。そのため、特定のソフトウェアを使えば、データを復旧することができます。新しいデータを保存して上書きした場合のみ、データは完全に削除されます。

メモ

- メモリーカードのフォーマット中は、本製品の電源を切らないでください。
- パソコンなどの他の機器でフォーマットしたメモリーカードは、本製品でフォーマットし直してください。
- メモリーカードをフォーマットできない場合は、お買い上げの販売店またはライカ製品サポート部までお問い合わせください。
- メモリーカードをフォーマットすると、保護されている画像も削除されます(50ページ)。

メモリーカードをフォーマットする

1. **セットアップ**メニュー画面で**フォーマット**を選びます。
2. サブメニュー画面で、CFカードとSD/SDHC/SDXCカードのどちらをフォーマットするかを選びます。両方のメモリーカードを同時にフォーマットすることもできます。
 - フォーマットするメモリーカードを選ぶと、誤ってフォーマットしてしまうのを防ぐために、フォーマットしてもよいかを確認するメッセージが表示されます。
3. 確定するには**YES**を、取り消すには**NO**を選びます。

¹ 「X」には任意の数字などが入ります。

著作権情報

本製品で撮影した画像に文字またはマークで著作権情報を付加することができます。1枚の画像につき、2つの見出しでそれぞれ17文字までの情報を入力できます。

1. メニュー画面で**セットアップ**カテゴリの**著作権情報**を選びます。
 - サブメニューで**著作権**、**情報**、**撮影者**が表示されます。最初は**著作権情報**の列がハイライト表示されています。
2. **著作権**に切り替えます。
 - **情報**と**撮影者**の列が有効になります。
3. **情報**または**撮影者**のいずれかを選びます。
 - どちらの場合にもボタンのサブメニューが表示されます。
4. そこで希望する設定を行います。
設定方法は「画像番号をリセットする」の手順3、5と同様です。
 - 設定が終わると手順2のサブメニューが再度表示されます。

GPSによる撮影地の記録

全地球測位システム（GPS）により、世界中で受信機の位置を特定できます。本製品は、この機能をオンにすると、GPS信号を継続的に受信し、位置データを更新します。これにより、EXIFデータに緯度および経度、海拔の情報が書き込まれます。

GPSを設定する

1. **セットアップ**メニュー画面で**GPS**を選びます。
2. GPS機能を**On**、または**Off**にします。
 - GPSの状態を示すマークが上面ディスプレイに表示されます。
 - : 前回の測位から6分以内
 - : 前回の測位から24時間以内
 - : 位置データなし

機能についてのメモ

- GPS機能を使用するには、屋外の空のひらけた場所で電子ビューファインダーライカ ビゾフレックス (Typ 020) を上空に向けてください。GPS衛星は全部で24基あり、地球上のどの場所でも9基から電波を受信することができますが、測位には3基以上から電波を受信する必要があります。正しく測位するには、空の開けた場所でGPSアンテナ部を上空に向けてライカ M を構えてください。
- GPSアンテナ部は、手や金属製のものなどで覆わないでください。
- 以下のような場所および状況下ではGPS衛星からの信号を正確に受信できない場合があります。信号を正確に受信できない場合、位置情報を全く取得できないか誤った位置情報しか得ることができません。
 - 閉じられた空間内
 - 地下
 - 樹木の陰
 - 移動中の車内
 - 高い建物の近くや幅の狭い谷の中
 - 高圧送電線の近く
 - トンネルの中
 - 携帯電話の近く
 - フラッシュユニットなどのアクセサリーをホットシューに装着しているとき

カメラを長期保管した場合、最初は信号を受信しやすい場所でGPS機能の試運転をすることをお奨めします。

安全な利用についてのメモ

GPSシステムが発生させる電磁波は、機器や測定装置に影響を与えることがあります。したがって例えば離着陸前の飛行機の機内、病院内、もしくは無線通信が制限された場所では、必ずGPS機能をオフにするように注意してください。

重要(法律に基づく利用制限)

- 一部の国や地域では、GPS機能とGPS関連機器の使用が規制されています。
- したがって外国に旅行する前には、必ず旅行先の国の大使館、もしくはお客様の旅行を企画した旅行社にお問い合わせください。
- 中華人民共和国、キューバ、およびその国境付近ではGPSの使用が現地の法律で禁止されています。(例外: 香港・マカオ)
- これらの国・地域でGPS機能の使用禁止に関する法律に違反した場合は、当局により起訴されます。また、これらの国・地域では、GPS機能が自動的に動作しなくなります。

フラッシュを使って撮影する

フラッシュ撮影について

フラッシュ撮影では、実際の撮影前に一瞬だけ光を放つブレ発光を連続で何度か行い、撮影に必要な発光量を測定します。その直後に、実際の撮影と同時にメイン発光を行います。発光に影響を与えるすべての要素（例えば、フィルター、絞り設定、メインのモチーフまでの距離、光が反射する天井など）が、自動的に計算されます。

対応フラッシュユニット

ホットシューによる接続

- 現行規格のISO 10330または旧規格のDIN 19014に準拠する一般的なクリップオンフラッシュユニットおよびスタジオ用ストロボ（シンクロ接点が+極性のもの）

下部のLEMO®-ポートでの接続

- 対応する特殊ケーブルを介して制御されるフラッシュユニットおよびスタジオ用ストロボ

フラッシュ接続ポートによる接続

- 標準的なプラグを装備したシンクロコード付きのスタジオ用ストロボおよびその他のフラッシュユニット

次の2種類のフラッシュユニットは、本書に記載されているフラッシュ機能に対応しています。

- ライカシステム対応フラッシュユニット
- システムカメラアダプテーション（SCA）3002システム対応フラッシュユニットとSCA-3502-M5アダプター^{2,3}、ガイドナンバー制御による調光に対応します。また、取り付け脚が標準で、中央接点（シンクロ接点）が+極性であれば、この接点によって発光できるその他のフラッシュユニット^{4,5}も使用できます。ただし、TTL 調光は行えません。

フラッシュ同調速度

一般的なフラッシュユニットを使用するときのフラッシュ同調速度は、カメラ独自のフォーカルプレーンシャッターでの撮影時には $\frac{1}{125}$ 秒になります。搭載されたレンズに対応したレンズシャッターを付けると、シャッター速度を本製品の最高速度である $\frac{1}{1000}$ 秒に設定できます。本製品のハイスピードシンクロ機能に対応したフラッシュユニットを使用しても、シャッター速度を本製品の最高速度まで設定できます。

メモ

- スタジオ用ストロボを使用する場合は一般に発光時間が本製品のフラッシュ同調速度より長くなります。そのため、発行量を十分に活用できるようにシャッター速度を遅めに設定することをおすすめします。
- 同調速度 $\frac{1}{125}$ 秒までのシャッター速度の場合、ファインダーには、この時間では通常のフラッシュモードが可能であることを示す \square が点灯します。
- シャッター速度ダイヤルを \square にすると、シャッター速度が固定され、所定の発行モードが変更されることもあります。すなわち \square から \square へ、もしくは \square から \square へ変更されます。シャッター速度を再度設定すると、その後は直ちに本来のモードに再設定されます。
- ハイスピードシンクロ撮影対応のライカフラッシュユニットを使用し、カメラに最速のシャッター速度を設定する、つまりフォーカルプレーンシャッターで $\frac{1}{800}$ 秒以下、レンズシャッターで $\frac{1}{1500}$ 秒以下にすると、フラッシュユニットは自動的にハイスピードシンクロ機能モードに切り替わります。

² SCA-3502 アダプター（バージョン5以降）を使用する場合は、[ホワイトバランス]を \square に設定しても自然な色合いで撮影できます。

³ 他社製のフラッシュユニットとSCA-3502以外のSCAアダプターを併用しないでください。接点の位置や機能が異なるため、本製品が正常に動作しないばかりか、故障の原因となることがあります。

⁴ 本製品のフラッシュ機能とは互換性のないフラッシュユニットを使用する場合は、[ホワイトバランス]（29ページ）を \square に設定してください。

⁵ 絞り値とISO感度は、手でフラッシュユニットに入力してください。

例えば、ISO規格の一致しないスタジオ用ストロボをライカSに接続したい場合はライカカメラ株式会社のカスタマーケア部またはライカインフォメーションサービスにお問い合わせください。

同調速度、同調レンジを選択する

本製品は、フラッシュを使った写真では、被写体や構図にあわせて絞り優先、あるいはプログラムAEモードでのシャッター速度を被写体にあわせて修正できます。これらに対して自動設定、あるいはマニュアル設定ができます。

機能設定

1. カメラメニュー画面で**最大シンクロ時間**を選びます。
2. 表示されるサブメニューで自動設定される焦点距離に対応する設定を**1/f**、**1/(2f)**、**1/(4f)**の3つのうちから1つ選ぶか、希望するシャッター速度の下限を選びます。

メモ

• [オート] では、自動設定されるシャッター速度の最低速が、使用レンズの焦点距離に基づき、手持ち撮影でブレずに撮影できる限界である**1/f**秒に設定されます。例えばズマリット Sf2.5/70mm ASPH.ならば、 $\frac{1}{60}$ 秒となります。例えば、**1/(2f)**および**1/(4f)**に対応するシャッター速度は $\frac{1}{125}$ 秒および $\frac{1}{250}$ 秒となります。

フラッシュ同調のタイミングを選ぶ

フラッシュ同調のタイミングを、通常の前幕シンクロと、露光の終わりに発光する後幕シンクロから選べます。対応フラッシュユニットであれば、本製品のフラッシュ機能との互換性の有無や接続方法（アクセサリースイッチまたはシンクロコード）にかかわらず、また本製品の撮影設定やフラッシュユニットの設定にもかかわらず、フラッシュ同調のタイミングを選べます。どちらの場合でも同様に表示されます。

フラッシュ同調のタイミングを選ぶ

1. **セットアップ**メニュー画面で**フラッシュ同調**を選びます。
2. サブメニュー画面で [前幕シンクロ] と [後幕シンクロ] からフラッシュ同調のタイミングを選びます。

フラッシュユニットを取り付ける

アクセサリースイッチにフラッシュユニットを取り付けます。フラッシュユニットの取り付け脚を奥まで確実に差し込み、ロックナットが付いている場合はしっかり締め付けて、フラッシュユニットが外れてしまうことのないようにしてください。制御接点と信号接点があるフラッシュユニットは、接点とアクセサリースイッチの位置がずれてしまうと、データや設定が正しく通信されず、フラッシュ機能が正常に使えなくなることがありますので、取り付けには特に注意してください。

メモ

フラッシュユニットと本製品の電源を切ってからフラッシュユニットを取り付けてください。

カメラによる発光量の自動制御

カメラ側で発光量を自動制御してフラッシュ撮影するときは、フラッシュユニットを装着して電源を入れ、TTL 調光モードを選んでから、本製品で次の操作を行います。

1. シャッターリリースボタンを半押しして露出計をオンにし、シャッター速度または露出状況をファインダーに表示します。シャッターリリースボタンを一気に全押ししてしまうと、フラッシュ発光が必要な状況でも発光されません。
2. 希望の露出モードを選び、シャッター速度や絞り値を設定して露出を決めます。シャッター速度によって、通常のフラッシュ撮影かハイスピードシンクロ撮影になるかが決まります。

TTL調光モード

本製品のフラッシュ機能と互換性のあるフラッシュユニットでは、本製品が発光量を自動決定するTTL 調光モードでフラッシュ撮影できます。TTL 調光モードは、すべての露出モードで使用できます。また、日中シンクロ撮影では、フラッシュ光と自然光のバランスを考慮して、発光量を自動調整します。発光量は、自然光の明るさに応じて、最大で1 $\frac{1}{4}$ EV減少します。自然光が明るすぎるために、シャッター速度がフラッシュ同調速度（フォーカルプレーンシャッターでの撮影時は $\frac{1}{125}$ 秒、レンズシャッターでの撮影時は $\frac{1}{1000}$ 秒）より速くなった場合は、自動的にハイスピードシンクロ撮影に切り換わります。ハイスピードシンクロ撮影については、「ハイスピードシンクロ (FP発光)」をご覧ください。本製品のフラッシュ機能と互換性のあるフラッシュユニットには、本製品で設定したISO感度と絞り値が送信されます。これらのデータに基づいて、フラッシュユニットが発光量を自動調整します。

メモ

- 次の「ハイスピードシンクロ (FP発光)」から「自動調光モード」の項目で説明する機能は、本製品のフラッシュ機能と互換性のあるフラッシュユニットでのみ使用できます。
- カメラ側で設定した露出補正値は、定常光の測光にのみ有効です。もしTTLフラッシュの発光量補正をする場合、上記露出補正とは独立して設定できます。
- フラッシュユニット（特に本製品のフラッシュ機能と互換性のないもの）の使用法や機能については、各フラッシュユニットの使用説明書をご覧ください。

ハイスピードシンクロ (FP発光)

本製品のフラッシュ機能と互換性のあるフラッシュユニット（39ページ）では、フラッシュ撮影時のシャッター速度を本製品の最高速度まで設定できるハイスピードシンクロ機能を使用できます。ハイスピードシンクロ撮影は、すべての露出モードで行えます。シャッター速度がフラッシュ同調速度（フォーカルプレーンシャッターでの撮影時は $\frac{1}{80}$ 秒、レンズシャッターでの撮影時は $\frac{1}{800}$ 秒）より速くなると、自動的にハイスピードシンクロ撮影に切り換わります。手動で設定する必要はありません。

ストロボモード

本製品のフラッシュ機能と互換性のあるフラッシュユニットでは、シャッターが開いている間に連続発光できるストロボモードを使用できます。ストロボモードは、すべての露出モードで使用できます。フラッシュユニットで設定した発光回数と発光間隔に応じて、シャッター速度が自動設定されます。被写体が明るすぎるために、自動設定されたシャッター速度では露出オーバーになる場合は、露出インジケータで確認できます。露出モードが「T」または「M」のときは、フラッシュユニットで設定した発光回数と発光間隔に対して速すぎるシャッター速度を設定すると、ファインダー内と上面ディスプレイのシャッター速度表示が点滅します。露出オーバーになったりシャッター速度表示が点滅したりした場合は、発光回数、発光間隔、絞り値、シャッター速度（露出モードが「T」または「M」のときのみ）を変更して、露出を調整してください。ストロボモードでフラッシュ撮影すると、動きのある被写体を分解写真のように1枚に写し込めます。ストロボモードで正しくフラッシュ撮影するには、発光量、発光回数、撮影距離、絞り値を正しく設定することが重要です。詳しくは、フラッシュユニットの使用説明書をご覧ください。

メモ

接点の位置や機能が異なるため、本製品が正常に動作しないばかりか、故障の原因となることがあります。

フラッシュユニット使用時のファインダー表示

本製品のフラッシュ機能と互換性のあるフラッシュユニットを使用するときは、ファインダー内のフラッシュマークにより、フラッシュユニットの状態を確認できます。

- フラッシュユニットの電源が入って充電が完了しているが、「」が点灯しない：

搭載されたレンズに対応したレンズシャッター（24、66ページ）を付けると、シャッター速度を本製品の最高速度である1/1000秒に設定できます。本製品のハイスピードシンクロ機能（54ページ）に対応したフラッシュユニットを使用しても、シャッター速度を本製品の最高速度まで設定できます。スタジオ用ストロボを使用する場合は、一般に発光時間が本製品のフラッシュ同調速度より長い場合、発光量を十分に活用できるように、シャッター速度を遅めに設定することをおすすめします。

メモ

- 撮影前、「」が点滅する：
 - 充電が完了していません。
- 撮影前、「」が点灯する：
 - 発光できます。
- 撮影後、「」が点灯している：
 - 引き続き発光できます。
- フラッシュユニットで調光補正を行っているときは、「」が表示されます。

フラッシュユニット固有の露出オートによるフラッシュ発光

本製品のフラッシュ機能と互換性のあるフラッシュユニットで露出オートに設定すると、カメラではなくフラッシュユニットの調光センサーが被写体の反射光を測光し、発光量を自動調整します。カメラで設定した露出モードは、フラッシュ撮影時ではない通常の撮影時と同じように機能します。シャッター速度がフラッシュ同調速度より速く設定された場合（露出モードが「」または「」のとき）や、シャッター速度をフラッシュ同調速度より速く設定した場合（露出モードが「」または「」のとき）は、フラッシュは発光されません。

露出モードが「P」、「A」、「T」のときは通常の露出での撮影となりますので、発光量を-1~-2EVにするなど、調光補正を行ってください。

本製品のフラッシュ機能と互換性のあるフラッシュユニットを使用するときは、使用レンズで設定した絞り値がフラッシュユニットに送信され、その絞り値に基づいて発光量が自動調整されます。カメラで設定したISO感度や、自然光に基づく露出補正值（カメラで設定）と調光補正值（フラッシュユニットで設定）も、フラッシュユニットによる発光量の自動調整に考慮されます。

マニュアル発光モード

マニュアル発光モードでは、被写体の明るさに関係なく、常にフル発光または特定の発光量（設定可能な場合）でフラッシュ撮影します。カメラで設定した露出モードは、フラッシュ撮影時ではない通常の撮影時と同じように機能します。シャッター速度がフラッシュ同調速度より速く設定された場合（露出モードが「」または「」のとき）や、シャッター速度がフラッシュ同調速度より速く設定した場合（露出モードが「」または「」のとき）は、フラッシュは発光されません。適正露出を得るための絞り値、発光量、撮影距離などは、それぞれ計算によって求められます。例えば、絞り値を求めるときは発光量、ISO感度、撮影距離から、発光量を求めるときは絞り値、ISO感度、焦点距離、撮影距離から算出します。詳しくは、フラッシュユニットの使用説明書をご覧ください。

アクセサリシューに接続するフラッシュユニット

本製品のフラッシュ機能と互換性のないフラッシュユニットをアクセサリシューに接続して使用する場合は、本製品とフラッシュユニットとの間でデータは通信されません。本製品はフラッシュユニットを認識せず、通常の撮影時と同じように機能します。シャッター速度は自動設定されませんので、マニュアルでフラッシュ同調速度（フォーカルプレーンシャッターでの撮影時は $\frac{1}{125}$ 秒、レンズシャッターでは $\frac{1}{1000}$ 秒、もしくは $\frac{1}{1000}$ 以下に設定してください。フラッシュユニットの状態を示すフラッシュマークも表示されません。

発光量は、自動絞りを装備したフラッシュユニットの場合は、フラッシュユニットの調光センサーにより自動調整されます。また、適正露出になるように手動で設定することもできます。詳しくは、フラッシュユニットの使用説明書をご覧ください。

下側LEMO®端子で接続するフラッシュユニット

フラッシュユニットおよび大型ストロボは、下部のLEMO®ポートを通じて、ケーブルによりLEMO®コネクタに接続できません。自動ロック機構を備えたLEMO®コンタクトは、誤って接続が断絶されるのを確実に防止してくれます。それに対応したケーブルは、ライカからアクセサリとして購入できます。本製品はフラッシュユニットを認識せず、通常の撮影時と同じように機能します。シャッター速度は自動設定されませんので、マニュアルでフラッシュ同調速度（フォーカルプレーンシャッターでの撮影時は $\frac{1}{125}$ 秒、レンズシャッターでは $\frac{1}{1000}$ 秒、もしくは $\frac{1}{1000}$ 以下に設定してください。フラッシュユニットの状態を示すフラッシュマークも表示されません。

動画撮影

本製品では動画撮影も行うことができます。

メモ

- センサー表面の一部しか使用しないため、それぞれの有効焦点距離は大きくなります。つまり、使用する部分はそれに比べて小さくなります。
- 連続動画撮影は最長29分まで可能です。

動画撮影時は以下の設定が使用可能です：

解像度/フレームレート

1. 画像メニュー画面で**動画画質**を選びます。
2. サブメニューで画質を選びます。

使用できる2種類の解像度は異なるフレームレートに対応しています。1080ピクセルの解像度はお使いの再生機器で再生するために3つの異なるフレームレートと組み合わせることができます：25B/秒はPALに、24B/秒または30B/秒はNTSCに対応していますが、4Kの解像度は24B/秒にしか対応していません。

メモ

4K動画はSDカードにのみ保存することができます (25ページ)。

ISO感度

24ページに記載されている事項が全て該当しますが、**最大オートISO**は動画撮影用に別途**オートISO 動画**のサブメニューで設定する必要があります。

メモ

- 各露出モードではいくつかの制限が生じます (後述)。
- 非常に明るい点光源を含む 暗い被写体を高いISO感度で撮影する場合、横縞や縦縞がとりわけ生じやすくなります。

色空間

動画撮影はsRGBでのみ可能です(22ページ)。

メモ

この設定は画像用に異なる設定がされていてもそれとは無関係に適用され、変更することはできません。

コントラスト/シャープネス/彩度

22ページに記載した設定項目を全て、動画撮影用に別途設定することができます。

1. メニュー画面の**画像カテゴリ**で**動画設定**を選びます。
2. サブメニューで**動画 コントラスト**、**動画 シャープネス**、**動画 彩度**のいずれかを選びます。
3. サブメニューで希望の調整レベルまたは機能を設定します。

タイムコード

タイムコードは映像データと音声データを同時に生成・記憶したデータです。タイムコードにより、動画のカットやその他の編集処理を行った後でも映像と音声の整合性を保つことができます。

タイムコードを常時「同じデータとして記憶する」

タイムコード-フリーラン、または各撮影ごとに別のデータとして記憶する**Rec ラン**から選ぶことができます。

1. メニュー画面の**画像カテゴリ**で**動画設定**を選びます。
2. サブメニューで**タイムコード**を選びます。
3. **タイムコード**のサブメニューで**タイムコードモード**を選びます。
4. 表示されたサブメニューで希望の機能を選択するか、機能を無効にします。

基本的に動画撮影と並行してカメラの時間を基にタイムコード信号が生成・記憶されますが、**フリーラン**および**Rec ラン**では開始時間を指定することができます。つまり、撮影開始時とタイムコード信号発生時の間のタイムオフセットの大きさを指定できます。したがって、どちらの場合でも**タイムコード**のサブメニューの2番目以降の項目を無効に設定することができます。

5. **タイムコードモード**のサブメニューで開始時間を選びます。
6. 表示されたサブメニューで遅らせる時間を選びます。
 - それぞれの時間単位を設定します (**hh** [時間]、**mm** [分]、**ss** [秒]および **frame** [各秒ごとの画像番号])：
クリックホイールを回すかジョイスティックを上下いずれかに押します。
 - 数値入力欄間の移動方法：
クリックホイールを押すかジョイスティックを前または左右いずれかに押します。

測光モード

30 ページに記載されている測光方式と測光モードがすべて使用できます。

露出モード

- 絞り優先AEモード(30～31ページ)
- マニュアル露出モード: フレームレートの関係で、設定できるシャッタースピードは $\frac{1}{30}$ ～ $\frac{1}{4000}$ 秒 $1/4000$ です。この範囲内のスピードより遅い場合は $\frac{1}{30}$ 秒と同様になります。

メモ

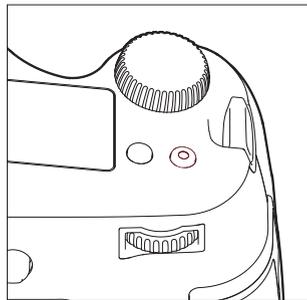
- 最高まで絞っても適正露出が不可能な場合には、手動設定であっても自動的にISO感度が上がります。
- 自動露出制御はあらゆる輝度の変動に対応します。風景撮影やパンショットなど、自動露出制御が望ましくない場合は露出をマニュアル設定する必要があります。

ピント合わせ

29 ページに記載されている機能がすべて使用できます。

撮影を始める/終わる**撮影を始める:**

動画撮影ボタンを押します。



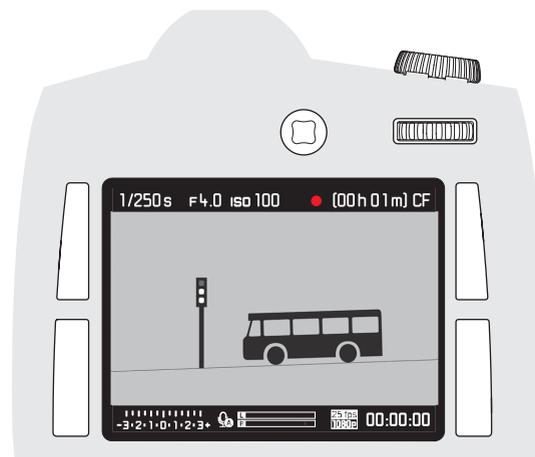
- 動画撮影時は、LCDモニターに動画撮影マーク（赤い円）が点滅し、撮影経過時間が表示されます。
- 本製品では三択下解像度に応じて異なるアスペクト比で動画撮影を行うため、LCDモニター画面はそれに依ってマスキング表示されます。

撮影を終わる:

動画撮影ボタンをもう一度押してください

動画撮影中に静止画を撮影する

動画を撮影中に静止画の一枚撮影を行うことができます。画像シャッターリリースボタンを押すと、一枚撮影ができます。一枚撮影を行っている間は動画撮影が一時的に中断されます。静止画は、動画撮影と同じ設定で撮影されます。



録音に関する設定

録音は内臓マイクまたはLEMO®オーディオアダプターで外付けしたマイクを使用して行うことができます。マイクアダプターセットを使うとステレオ録音できます。

メモ

自動ピント合わせ（オートフォーカス）設定ではシャッターノイズが発生し、記憶されてしまいます。

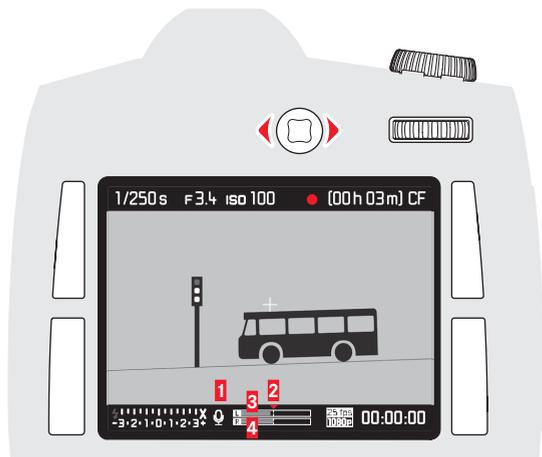
調整は撮影前あるいは撮影中にオートまたはマニュアルで行います。

1. 画像メニュー画面で**動画設定**を選びます。
2. サブメニューで**オーディオレベル**を選びます。
3. 希望の機能を設定します。

音声レベルを手動で調整する

1. プレビューボタンを押しっぱなしにします。
2. 音声レベルを下げるにはジョイスティックを左に、上げるには右に押ししてください。

音声レベルはオーバーライドを避けるように設定する必要があります。つまり、（右端の範囲で）「線」が発生せず、白から赤へ変色することがないように設定します。



- 1 マイク (M) = 自動調整、(M) = マニュアル調整、(M) = 録音なし)
- 2 設定マーク
- 3 左チャンネル音声レベル
- 4 右チャンネル音声レベル

メモ

音声レベルの調整はチャンネル別に行うことはできません。

録音機能をオフにする

マイクマークが (M) から (M) に変わるまで設定マークを一番左まで移動してください。

録音の際の風音を低減するために減衰機能を使用することができます。

1. 画像メニュー画面で**動画設定**を選びます。
2. サブメニューで**風切音低減**を選びます。
3. 機能のオン、オフを選びます

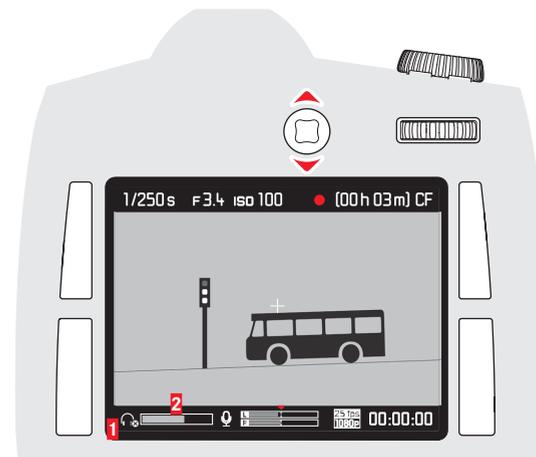
メモ

風による雑音が生じていないときは、自然な音で録音するために、**OFF**に設定することをおすすめします。

録音の操作

接続したヘッドホンで撮影中に風音低減の結果を確認することができます。

1. ヘッドホンはSシステムオーディオアダプター（付属）をLEMO®オーディオ端子に接続してカメラに繋ぐことができます。
 - 液晶モニターに以下のうちから対応する記号が表示されます。



- 1 接続したヘッドホンを示すマーク
- 2 ボリュームコントロール

ヘッドホンの音量設定

2. プレビューボタンを押しっぱなしにします。
3. 音量を下げるにはジョイスティックを下に、上げるには上に押しってください。

再生モード

メモ

撮影画像を再生するには次の2つのモードを使用できます。

- [オートレビュー]モード 撮影直後の画像を自動的に表示します。
- [再生]モード 時間の制限なく画像を表示します。

撮影直後の画像を自動表示する(オートレビューモード)

撮影

オートレビューモードでは、撮影直後に画像が自動的にLCDモニターに表示されます。画像が表示される時間(レビュー時間)を設定できます。

オートレビューモードを設定する

1. **セットアップ**メニュー画面で**オートレビュー**を選びます。
2. サブメニュー画面で[レビュー時間]を選びます。(Off、1秒、3秒、5秒、ホールドから選択)

時間の制限なく画像を表示する([再生]モード)

[再生]モードに切り替える

LCDモニターの右上にあるボタンを短く押すと再生モードを呼び出すことができます。

- 最後に撮影した画像が情報とともに表示されます。ただし、挿入中のメモリーカードに再生する画像ファイルがない場合は再生モードに切り替えた際に以下のメッセージが表示されます：**表示できる画像はありません**

通常再生表示画面

画像をしっかりと確認できるように、次の情報のみが同時に表示されます。

- ヘッダー内にいくつかの基本情報が表示されます
- 切り替えの際、LCDモニターの四隅に隣接するボタンの機能が3秒間表示されます。**Ⓜ**=保護メニュー、**Ⓛ**=表示切替、**Ⓜ**=削除メニュー、**Ⓛ**=メニュー
- 右上の**Ⓜ**と**Ⓛ**は2つのダイヤルの機能を示しています。
- 右下の**Ⓜ**はキーロックを示しています(オンにしている場合のみ)。
- メモリーカード、または選択したデータが読み込み不能な場合は右端のマークが黒塗りの画像で表示されます。

メモ

- オートレビューモードから時間制限のない再生モードには、いつでも切り換えることができます。
- 画像がバッファメモリーからメモリーカードへ転送中でも、その画像は表示されます。なお、画像転送中は背面右下のLEDが点滅します。
- ただし、メモリーカード内の他の画像を表示することはできません。
- 撮影時にマスク機能を使用した場合(28ページ)、画像は選択したアスペクト比で表示されます。
- 本製品で再生できるのは、ライカSカメラで撮影された画像データに限られます。
- 画像ファイルをJPEGとDNG形式で同時に保存している場合、基本的に表示される画像は常にDNGファイルとなります。
- シリーズ撮影またはオートブラケット撮影をしたときは、どちらの画像再生モードでも、最後に撮影した画像が表示されます。
- 表示された画像を別の画像に切り替える方法については、48ページをご覧ください。

動画再生

動画撮影は以下の仕様で行われます：

- 動画フォーマットはフルHDでは16:9、4Kではおおよそ17:9です。
- フッターには動画に関する詳細情報が表示されます。
- 動画再生モードに切り替えた際、または動画およびオーディオコントロールマークの部分でジョイスティックを左に押す度に以下のように表示が切り替わります：

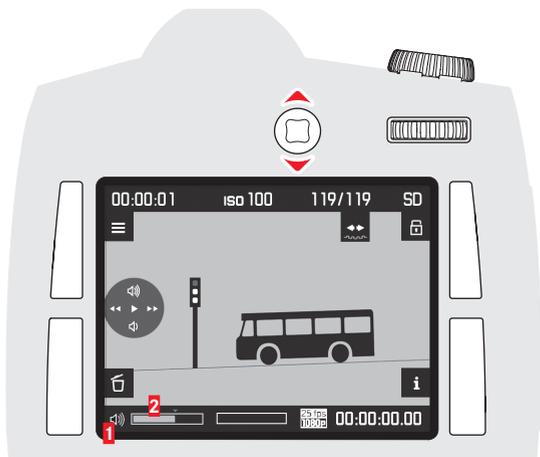
 音量を上げる	ジョイスティックを上を押します
 早送り	ジョイスティックを右に押します
 再生/一時停止	ジョイスティックを前に押します
 音量を下げる	ジョイスティックを下に押します
 巻き戻し	ジョイスティックを左に押します

早送りと巻き戻しはスローで始まり、それぞれの方向にジョイスティックを長く押し続けると速度が上がっていきます。

クリックホイールを左または右に一度回すと、動画の冒頭あるいは最後の部分に直接飛ぶことができます。

音量を調整する

音量を下げるにはジョイスティックを下に、上げるには上に押してください。

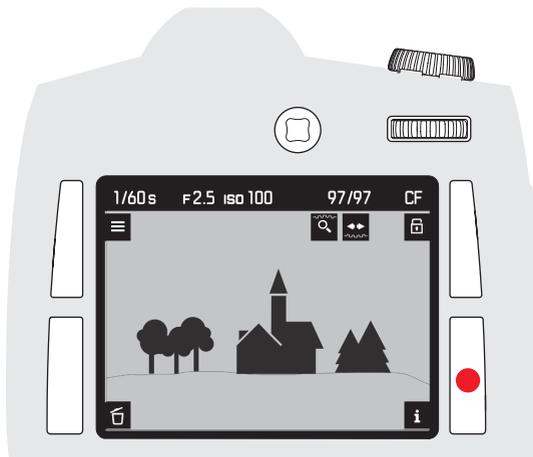


- 1 カメラのスピーカーまたは接続したヘッドホンを示すマーク
- 2 ボリュームコントロール、バーの左端ではミュート(🔇) / (🔊)になります。

通常再生表示画面

動画をしっかりと確認できるように、次の情報のみが同時に表示されます。

- ヘッダー内にいくつかの基本情報が表示されます
 - 切り替えた際、LCDモニターの四隅に隣接するボタンの機能が3秒間表示されます。🔒 = 保護メニュー、i = 表示切替、🗑️ = 削除メニュー、☰ = メニュー
 - 右上の🔍と🔊は2つのダイヤルの機能を示しています。
- メモリーカード、または選択したデータが読み込み不能な場合は右端のマークが黒塗りの画像で表示されます。



通常再生および動画再生モードの両方で上述した表示に加えて、ライブビューモード時と同様にLCDモニター右下のボタンを繰り返し押すことで様々な詳細情報を順に表示していくことができます。

- ヒストグラムとクリッピング表示
- グリッド線と水準器
- 画像データの詳細
- 通常表示に戻す

グリッド線、ヒストグラム、およびフォーカスピーキングは27~28ページに記載したものと同一方法で設定できます。

ヒストグラムとクリッピング表示による画像再生

- オプション表示:
 - ヒストグラム(左上に表示)
 - 明るすぎる場合は赤、暗すぎる場合は青でそれぞれ点滅表示され、さらに、右下にクリッピングマーク(🔴)が表示されます。

クリッピング表示

メニュー項目では、明るいエリアおよび暗いエリアを表示するためのクリッピング限界値を設定できます。

クリッピングを設定する

1. **セットアップ**メニュー画面で**キャプチャーアシスタント**を選びます。
2. サブメニューで**露出クリッピング**を選びます。
3. サブメニューで**アンダー**下限値および**オーバー**上限値を設定します。
4. クリックホイールを回すか、ジョイスティックを左右いずれかに押して、スケール内で希望する限界値を選んでください。
 - 表示領域の設定に応じて、クリッピング警告表示される部分が変わります。

メモ

- ヒストグラムとクリッピング表示は通常倍率での画像再生中でも拡大表示中でも使用できます。
- ただし、縮小した4枚表示または9枚表示を行っている場合は使用できません。
- ヒストグラムおよびクリッピング表示は、常に画像内の現在表示されている範囲を反映します。

フォーカスピーキング

- フォーカスピーキングを使用すると、ピントが合っている全ての被写体の輪郭が強調表示されます。

背景に応じて4色を使い分けることができます。

1. **セットアップ**メニュー画面で**キャプチャーアシスタント**を選びます。
2. サブメニューで**フォーカスピーキング**を選びます。
3. さらにサブメニューが表示されます。
4. 希望の色を選びます。

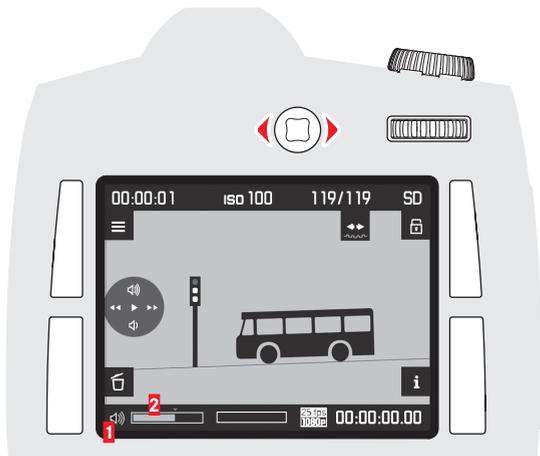
画像データの詳細

- 保存した画像ファイルが全て表示されます。

メモ

この再生タイプでは、以前に部分表示を設定したことがあるかどうかにかかわらず、すべての画像を再生します。

表示画像を切り換える/画像をスクロールする



クリックホイールを回すと他の画像を選択することができます。
 クリックホイールを左側に回すと、番号が小さい画像が表示されます。

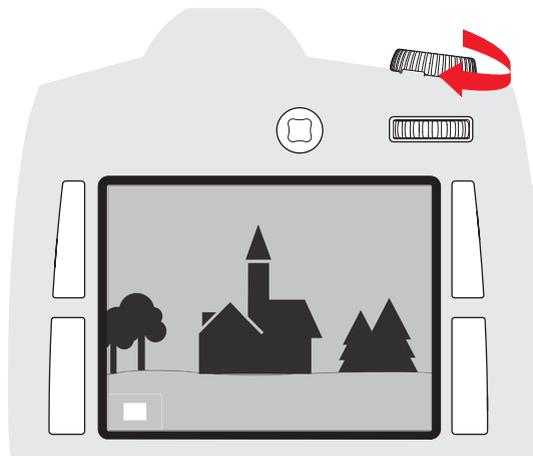
右側に回すと番号が大きい画像が表示されます。一番大きい、または小さい番号の後は一番小さい、または一番大きい番号の画像に戻り、撮影した一連の画像全てが繰り返し表示されます。

- 画像と同時に表示されるファイル名と画像番号も、画像の切り換えに応じて変わります。

メモ

これは再生タイプすべてで可能です。つまり、中央以外の部分を含むすべての拡大レベルおよび複数の画像を縮小して同時に再生している場合のいずれの再生タイプでも可能です。

画像を拡大表示する(ズーム表示)



画像の一部分の拡大は次の方法で行うことができます。

- 段階的拡大表示
- または
- 1ステップでの最大拡大

段階的拡大表示

シャッター速度ダイヤルを右に回すと表示されている部分を拡大表示できます。右に回すほどズーム率が大きくなり、表示される範囲が小さくなります。LCD モニターの1画素が画像の1画素を表示するまで4段階でズームできます。

- ヘッダー表示やボタンやダイヤルの機能を示すマークは非表示になります。フレーム内の長方形は、部分画像の大きさと位置を示しています。

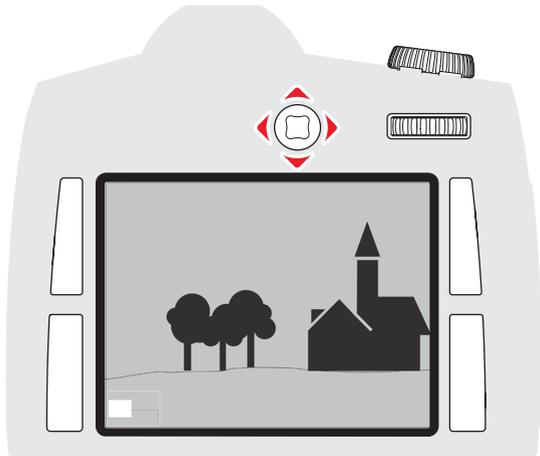
1ステップでの最大拡大

クリックホイールを長く押すと（1秒以上）、画像全体の再生と最大ズームが切り替わります。

メモ

この機能は、どの拡大段階でも利用できます。以前、既に再生する部分を設定していた場合、最初押した段階で全体画像の再生に移ります。

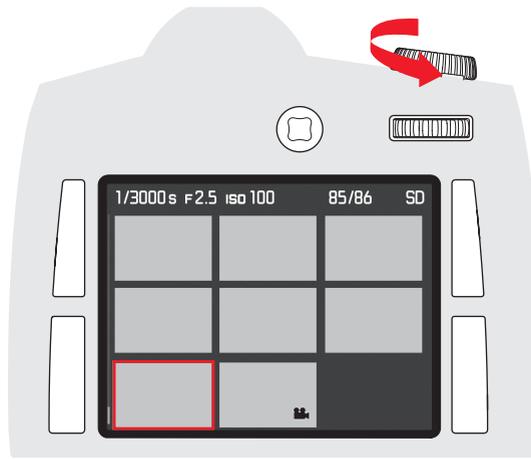
選択した画像部分の移動



ジョイスティックを希望する方向に押します。押す方向は、上、下、右、左のいずれかです。

- フレーム内のズーム表示位置が押した方向に応じて移動します。

複数の画像を一覧表示する(インデックス表示)

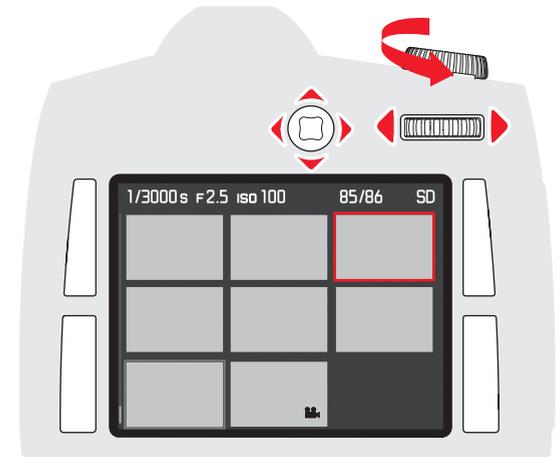


画像が表示されている場合、クリックホイールを左へ回すと縮小表示（場合によっては一度拡大した画像の縮小）になります。あるいは、全体画像の再生をを超えて回すと4枚または9枚同時表示になります。

- 4枚または9枚表示では一覧表示に切り替える前に表示されていた画像が赤枠でハイライト表示されます。

インデックス表示画面で画像を選ぶ

1. ジョイスティックを上下左右いずれかに押して希望する画像を選択します。
 - 一枚の画像が赤枠でハイライト表示されているときは画面内の表示画像が順番にハイライト表示されます。最後の画像がハイライト表示されると最初の画像にハイライト表示が戻ります。
2. シャッター速度ダイヤルを右に回すと選んだ画像を段階的に拡大できます。



画像を保護する/保護を解除する

- メニューボタンの上下左右のいずれかを押します。
 - 対応するボタンのほかに、この状態で有効なボタン機能 (メニュー)、 (削除メニュー)、 (保護メニュー)、 (表示形式の変更、47ページ)が表示されます。
- 機能表示がのメニューボタンを押します。
 - 次の情報が表示されます：
 - フッターにはこの状態で有効なボタン機能である 、、または「 保護しますか?」と表示されます。
 - 保護されている画像の場合は保護マーク()が表示されます。
- LCDモニターの上左にあるボタンで、表示中の画像のみを保護するか全ての画像を保護するか、または（保護されている画像が一枚以上ある場合は）表示中の画像の保護を解除するか全ての画像の保護を解除するか選びます。
 - 対象となる表示中の画像を変えるには：ボタンで「」を選びます。また、状況に応じてフッターにも画像が表示されます。

メモ

- 「」の保護/保護解除を選んだ状態で画像の拡大あるいは他の画像を表示することができます。
 - ボタン（2で既述）で再び通常表示に戻ります。
- 機能表示がのメニューボタンを押します。
 - 保護したときは、プロテクトマークが表示されます。保護解除したときは、プロテクトマークが消えます。

画像を削除する

- メニューボタンの上下左右のいずれかを押します。
 - 対応するボタンのほかに、この状態で有効なボタン機能 (メニュー)、 (削除メニュー)、 (保護メニュー)、 (表示形式の変更、47ページ)が表示されます。
- 機能表示がのメニューボタンを押します。
 - 次の情報が表示されます。
 - フッターにはこの状態で有効なボタン機能である 、、または「 消去しますか?」と表示されます。
 - 保護されている画像の場合は保護マーク()が表示されます。
- 表示中の画像だけを削除するか、全ての画像を削除するかをLCDモニター左上のボタンで選びます。
 - 対象となる表示中の画像を変えるには：ボタンで「」を選びます。また、状況に応じてフッターにも画像が表示されます。

メモ

- 削除が有効になっている場合、画像を拡大表示またはほかの画像を呼び出すことができます。
- ボタン（2で既述）で再び通常表示に戻ります。

1枚の画像を削除する場合

- 機能表示がのメニューボタンを押します。
 - LCDモニターには、次の画像が表示されます。全部の画像が削除されると、以下のメッセージが表示されます。

全画像を削除する場合

- 機能表示がのメニューボタンを押します。
 - 以下の確認メッセージがLCDモニターに表示されます。

メモ

- ボタン（2で既述）で再び通常表示に戻ります。
 - プロテクトされている画像は削除できません。メモリーカードにプロテクトされている画像が記録されている場合は、最後に撮影された画像（最大番号の画像）が表示されます。
- 機能表示がのメニューボタンを押します。
 - 以下のメッセージがLCDモニターに表示されます。

他の機器と接続して使う

パソコンに画像を取り込む

本製品は、パソコンに画像を取り込むインターフェースとしてUSB 3.0に対応しており、USB 2.0に対応したパソコンに画像を高速転送することができます。これにより同インターフェースを使用可能なコンピュータと高速でデータ通信を行うことができます。本製品と直接接続して画像を取り込むには、パソコンがUSBポートを装備している必要があります。CFカードリーダーまたはSD/SDHC/SDXCカードリーダーを使って画像を取り込むこともできます。さらに、最新のUSB3.0ドライバをインストールする必要があります。

ライカSがLEMO®USB3.0ケーブルでパソコンに接続されている場合はOSが認識します。Windows®エクスプローラで画像を取り込んでください。

メモ

Apple® Mac®コンピュータでは最大ファイルサイズ4GBまでの動画ファイルを取り込むことができます。動画ファイルサイズが4GBを超える場合、エラーメッセージが表示されます。

重要

- 付属のLEMO®-USB 接続ケーブル以外は使用しないでください。
- 画像取り込み中は、絶対にUSB接続ケーブルを抜かないでください。本製品、パソコン、メモリーカードの故障の原因となります。
- また、バッテリーが消耗して本製品の電源が切れることのないようにしてください。パソコンの故障の原因となります。同様の理由で画像取り込み中は、本製品からバッテリーを取り出さないでください。画像取り込み中にバッテリーが消耗した場合は、画像取り込みを中止してから本製品の電源を切り（15 ページ）、バッテリーを充電してください（8 ページ）。

カードリーダーを使って画像を取り込む

一般的なCFカードリーダーまたはSD/SDHC/SDXCカードリーダーを使ってパソコンに画像を取り込むこともできます。これらのパソコン周辺機器については、周辺機器の販売店までお問い合わせください。

メモリーカード内のフォルダー構造

フォルダー名は「100LEICA」、「101LEICA」と表されます。1つのフォルダーには最大9999枚の画像が保存されます。

Leica Image Shuttle®

本製品にはパソコンで本製品をリモート操作できる高性能ソフトウェア「Leica Image Shuttle」が付属しています。このソフトウェアを使うと、本製品の主な操作をパソコンで行ったり、画像データを直接パソコンに保存したりするなど、連結撮影が行えるので便利です。スタジオ撮影やロケーション撮影のサポートに理想的なソリューションです。

「Leica Image Shuttle」は、ライカのホームページでカスタマー登録されると、無償でダウンロードしていただけます。プログラムのダウンロードに関する詳細は同梱の登録用紙をご覧ください。

動作環境

Microsoft®: Windows® Vista®/7®, Mac® OS X (v10.6以降) Windows®では、バージョンによってはデジタル署名が見つからないという警告が表示されることがありますが、この警告は無視してそのままインストールを続けてください。

ファームウェアをアップデートする

ライカは、製品の機能の向上や不具合の改善に継続的に取り組んでいます。デジタルカメラでは多くの機能が電子的に制御されており、お買い上げの後でも機能を追加したり不具合を改善したりできることがあります。このために、ライカでは随時、ファームウェアのアップデートを提供しています。その結果としてこの取扱説明書の叙述に変更や追加があった場合、それについての情報は、以下のアドレスでご覧いただけます。

<http://www.s.leica-camera.com/downloads-overview>

お使いのカメラ、および装備中のレンズに最新のファームウェアが適用されているかどうかメニュー項目「カメラ情報」のサブメニューで確認することができます（16～19、66ページ）。

新しいファームウェアはお客様ご自身でもライカのホームページから簡単にダウンロードし、お客様のカメラに転送することができます。

1. ライカSでメモリーカードをフォーマットします。
2. カメラの電源を切り、メモリーカードをパソコンに内蔵または接続されているカードリーダーに差し込みます（ファームウェアの更新にはカードリーダーが必要です）。
3. ファームウェアデータは以下のリンクからダウンロードすることができます：<https://owners.leica-camera.com/login>
4. メモリーカードのフォルダ構造の一番上のフォルダにファームウェアデータ S-X_xxx.FWを保存します。X_xxxは、それぞれのバージョンを表しています。
5. 適切な操作でカードをカードリーダーから抜き、カメラに差し込み、カードカバーを閉じます。
6. 本製品の電源を入れます。
7. メニュー画面で「セットアップ」カテゴリの「カメラ情報」を選びます。
 - カメラが既存のものより新しいファームウェアのバージョンを検出すると、ファームウェアナンバーの前後の表示が変化して各項目（カメラまたはレンズ）にその情報が反映されます。
8. 選んだ項目に対応するサブメニューが表示されます。
 - サブメニューには両方のバージョン番号とアップデートに関するメッセージが表示されます。
9. アップデートを開始するには「Yes」を選びます。アップデートを行わない場合は「No」を選びます。
 - アップデートを開始するとアップデート中を示す画面が表示されます。
 - アップデート手続きが始まります。アップデートには数分間必要となることがあります。
 - アップデートが完了すると、確認のために、アップデートの完了を告げるメッセージが表示されます。

メモ

バッテリーの充電が不十分だと、それを告げる警告が出ます。

無線データ通信とカメラのリモートコントロール

スマートフォンおよびタブレットでカメラをリモートコントロールすることができます。また、スマートフォンやタブレットを外部記憶装置として使用することもできます。このように使用するためにはまずライカSアプリをお使いのスマートフォンにインストールする必要があります。このアプリはiOS™機器を使ってApple App Store™で入手可能です。

ワイヤレスLAN設定

1. **セットアップ**メニュー画面で**セットアップ**を選びます。
2. サブメニューで**WLAN接続**に切り替えます。

個人パスワード設定

セキュリティを万全に保つため、お使いのライカSとの接続に必要な初期設定のパスワードを変更する必要があります。データは通信中、WPA2規格で暗号化されます。

1. **セットアップ**のサブメニューで**ネットワークキー**を選びます。



2. ジョイスティックまたはクリックホイールを使用して文字を選び、希望するパスワードを入力してください。
3. **OK**に対応するボタンを押します。

カメラの名前 (SSID) を変更する

カメラの名前 (SSID) を変更することができます。初期設定ではLEICA-S...と設定されています。

1. **セットアップ**のサブメニューで**デバイス名**を選びます。



2. ジョイスティックまたはクリックホイールを使用して文字を選び、希望するパスワードを入力してください。
3. **OK**に対応するボタンを押します。

カメラとの接続を確立する

(スマートフォンまたはタブレットで設定)

1. 使用可能なワイヤレスLANネットワークをリストから選びます。
2. パスワードを入力します。

データ転送とリモートコントロール

1. スマートフォンまたはタブレットでアプリを起動します。
2. カメラへの接続を確立します。
3. アプリで希望の機能を実行します。

メモ

- ワイヤレスデバイスより信頼性の高いセキュリティを要求されるデバイスまたはコンピューターシステムを使用する場合、使用中のシステムに有害なアクセスに対するセキュリティと保護のための適切な措置を講じるようにしてください。
- ワイヤレスLANデバイスとしての使用以外の目的でカメラを使用した場合、それによって生じた如何なる損害に対してもライカカメラ株式会社は一切責任を負いません。
- ワイヤレスLAN機能の使用は当カメラが販売されている国での使用を想定しています。販売されていない、または販売を禁じられている他の国で使用した場合、当カメラが当該国の電波通信規制に違反するおそれがあります。そのような違反が発生してもライカカメラ株式会社は一切責任を負いません。
- 無線通信で送受信されたデータは第三者に傍受されるおそれがありますのでご注意ください。情報セキュリティの確保のため、ワイヤレスアクセスポイントの設定で暗号化を有効にすることを強く推奨します。
- 電子レンジの近くなど、磁気、静電気、電波障害が発生する場所ではカメラを使用しないでください。そのような環境下で使用した場合、カメラの無線通信が正常に行えない場合があります。
- 2.4GHzの電波周波数帯域を使用する電子レンジやコードレス電話などの近くでカメラを使用すると、両機器の性能が共に低下する可能性があります。
- 使用する許可を得ていないワイヤレスネットワークには接続しないでください。
- ワイヤレスLANを有効にするとワイヤレスネットワークが自動検索されます。検索結果に使用を許可されていないネットワーク (SSID:ワイヤレスLAN接続を介したネットワークの識別に用いる表示名) が表示される場合があります。不正アクセスとみなされるおそれがあるのでそのようなネットワークへの接続を試みないようにしてください。

資料

ライカシステムアクセサリ

交換レンズ

優れた描写性能を備えた専用の交換レンズ「S レンズ」をラインアップしています。一部のモデルではフラッシュ同調速度が1/1000秒までのフラッシュ撮影に対応した内蔵のセントラルプレーンシャッターが使用可能です。ライカSレンズは総じて、画像形式に応じた測光と常に最先端に行く光学性能による高い発光量を特徴としています。

Sシステムアダプター

ライカSアダプターにより、ライカSカメラでの望遠レンズの利用が可能になります。純メカニカル構造のバヨネットアダプター3タイプは、カメラ本体とレンズとの間で機械的制御も電氣的制御も、また信号もデータも伝達しません。さらにライカSカメラでハッセルブラッドHC-/HCDレンズやContax645レンズを使用するためのライカSアダプターもあり、このレンズの全機能を余すところなく発揮できます。

ライカSアダプターV	コード番号 16 024
(Hasselblad Vシステムレンズ用)	
ライカSアダプターM645	コード番号 16 025
(Mamiya 645システムレンズ用)	
ライカSアダプターP67	コード番号 16 026
(Pentax 67システムレンズ用)	
ライカSアダプターH.....	コード番号 16 030
(Hasselblad Hシステムレンズ用)	
ライカSアダプターC.....	コード番号 16 038
(Contax 645システムレンズ用)	

交換用ファインダースクリーン

ライカSに対応したファインダースクリーンをラインアップしています。交換用ファインダースクリーンには、ピンセットとクリーニングブラシが付属します。

Sシステムユニバーサルスクリーン	コード番号 16 000
(本製品に標準装備、付属品として同梱)	
Sシステムマイクロプリズムスクリーン.....	コード番号 16 001
Sシステムグリッドスクリーン	コード番号 16 002

Sシステムマルチファンクションハンドグリップ

優れたホールド性と操作部の配置により、縦位置でも快適に撮影できるハンドグリップです。内部には予備バッテリーを装着できるので、長時間の撮影も大量の撮影も可能になります。三脚取り付け部を使って素早く簡単に取り付けることができます。(コード番号 16 028)

Sシステム ハンドストラップ

グリップチューブSは、マルチファンクションハンドグリップSにつけられ、カメラ/ハンドグリップのコンビネーションの運搬と保持をとても楽にしてくれます。(コード番号 16 004)

Sシステムプロフェッショナルバッテリーチャージャー

このバッテリーチャージャーを使用することでライカSシステムをより使いやすく安定したものにできます。2個のバッテリーを同時に充電できます。(コード番号 16 011)

SシステムACアダプター

本製品(ライカS 型式007)を移動させずに、また長期間にわたって非常に多くの撮影に使用する場合、特にそれがどれくらいの期間、どれくらいの枚数かを限定できない場合には、電源アダプターSを使用してカメラへの継続的電源供給を確保するのが重要になる場合があります。(コード番号 16 041)

メモ

SシステムACアダプター(コード番号 16 022)はライカS(型式007)に使用することはできません。

フラッシュユニット

ライカSF26システムフラッシュユニットは簡単な操作が特徴です。(コード番号 14 622)

Sシステムリモートシャッターケーブル

本製品を移動させずに、また長期間にわたって非常に多くの撮影に使用する場合、特にそれがどれくらいの期間、どれくらいの枚数かを限定できない場合には、電源アダプターSを使用してカメラへの継続的電源供給を確保するのが重要になる場合があります。(コード番号 16 029)

HDMIケーブル

HDMI端子を装備した再生機器と本製品を接続するためのケーブルです。画像データを高速転送できます。ケーブル長は1.5mです。(コード番号14 491)

Sシステムオーディオアダプター

SシステムオーディオアダプターをLEMOコネクタでカメラと接続すると、ヘッドホンとマイクを同時に接続できるようになります(どちらも3.5mm端子)。(コード番号 16 042)

スベア用アクセサリ

	コード番号
Sシステムボディキャップ	16 021
Sシステムキャリングストラップ.....	16 037
標準ファインダースクリーン	16 000
ファインダーカバー	16 015
Sシステムバッテリー BP-PRO1	16 039
Sシステム高速充電バッテリーチャージャー(米国仕様の電源プラグを装備、ヨーロッパ/UK/オーストラリア仕様の着脱式電源プラグおよびカバーバッテリーコードを付属)	16 009

使用上のご注意とお手入れ

一般的なご注意

強い磁気、静電気、電磁波を発生する機器（電磁調理器、電子レンジ、テレビ、パソコンのモニター、ゲーム機、携帯電話、無線機など）の近くで使用しないでください。

- テレビの上や近くで使用すると、磁気により画像データの記録が影響を受けることがあります。
- 携帯電話の近くで使用すると、磁気により画像データの記録が影響を受けることがあります。
- スピーカーや大型の電動機などの強い磁気により、保存した画像データが破損することがあります。
- 電磁波の影響で正常に動作しなくなった場合は、バッテリーを交換してから電源を入れ直してください。無線送信機や高圧線の近くで使用しないでください。
- 磁気により画像データの記録が影響を受けることがあります。殺虫剤などの強い化学薬品をかけないようにしてください。お手入れの際は、ペトロリウム・スピリット、シンナー、アルコールは使用しないでください。
- 薬品や溶剤によっては、本体表面が変質したり、表面の仕上げがはげたりすることがあります。
- ゴム製品やビニール製品は、強い化学物質を発生することがありますので、長期間接触したままにしないでください。本製品は一定レベルの防塵性、防滴性を備えた設計となっていますが、雨の中や雪の中や浜辺などで使用する場合は、内部に水滴、砂、ほこりが入り込まないようにご注意ください。
- 砂やほこりが入り込むと、本製品やメモリーカードの故障の原因となります。レンズ交換やメモリーカードの出し入れの際は特にご注意ください。水滴が入り込むと、本製品やメモリーカードが正常に動作しなくなるばかりか、修理が不可能になることがあります。海水がかかった場合は、水道水で濡らせてよく絞った柔らかい布で拭き取ってください。その後、乾いた布でよく拭いてください。

LCD モニターと上面ディスプレイ

- 寒い場所から暖かい場所に急に持ち込むと、これらの表示部に結露が生じることがあります。結露が生じた場合は、乾いた柔らかい布で丁寧に拭き取ってください。
- 寒い場所で電源を入れた場合、表示が通常より暗いことがあります。本製品が温まるにつれて、明るさは元に戻ります。LCDモニターは非常に精密度の高い技術で製造されており、総画素数約92万1600画素の99.995%以上が有効画素となっていますが、0.005%以下は黒い点になったり常時点灯したままになったりします。これは故障ではありません。また、これが画像表示に影響することはありません。

センサー（撮像素子）

宇宙線の影響により（航空機内に持ち込んだ場合など）、画素に異常が生じることがあります。

結露

本製品の内部や外部で結露が生じた場合は、電源を切って常温の場所に約1時間置いてください。常温になじんでくると水滴は自然に消えます。

お手入れ

- 汚れはカビや細菌などの繁殖の原因となりますので、本製品は清潔に保ってください。

カメラ

- 本製品をお手入れする際は、乾いた柔らかい布をお使いください。ひどい汚れは、よく薄めたクリーナーなどを直接付けてから、乾いた布で拭き取ってください。
- 本製品やレンズに付着した指紋などの汚れは、柔らかい清潔な布で拭き取ってください。布では拭き取りにくい隅の汚れには、小さなブラシをお使いください。ブラシの柄などでシャッターブレードやミラーを傷つけないようにご注意ください。
- 機械的に動作するベアリングやスライド部には潤滑油を使用しています。長期間使用しない場合は動作が鈍くなるのを防ぐために、約3ヶ月ごとに数回シャッターを切って動かしてください。また、その他の操作部もすべて定期的に動かすことをおすすめします。

レンズ

- 外側のレンズガラス上に付着したほこりは、必ず柔らかいブラシか、清潔で乾燥した柔らかいマイクロファイバークロスで除去してください。そのようなクロスは、レンズの付属品として同梱されています。レンズに付着した指紋などの汚れは、柔らかい布で中央部から周辺部へ円を描くような動きで丁寧に除去してください。ライカAquadura®コーティングは、クリーニングを楽にしてくれます。この特性をできるだけ長く保つために強い力をかけないでください。お手入れの際、アセトンには絶対に使用しないでください。
- 砂や海水がかかるおそれのある場所で撮影する場合は、透明のUVaフィルターを装着するとフロントレンズを保護できます。ただし、その他のフィルターと同様に、逆光での撮影やコントラストが高い被写体の撮影ではフレアが発生することがありますのでご注意ください。さまざまな保護効果があるレンズフードを装着すれば、不用意に指紋を付けたり雨でぬらしたりすることを防げます。

バッテリー

- 充電式リチウムイオンバッテリーは、内部の化学反応により電力を発生します。この化学反応は外部の温度と湿度の影響を受けやすいため、極端な温度条件のもとでは寿命が短くなります。そのため、極端な温度条件のもとでは寿命が短くなります。
- 本製品を長期間使用しない場合は、本製品からバッテリーを取り出してください。ライカSは電源を切っても日付などの設定の保存に微量の無負荷電流を使用するため、数週間後には多量の電力を消費してバッテリーが過放電状態になります。
- バッテリーを取り出して保管する場合は、容量がある程度残った状態で保管してください。容量は上面ディスプレイのバッテリー残量表示で確認できます。長期間保管する場合は、過放電状態にさせないために、半年ごとに約15分間充電してください。
- バッテリーの端子部は清潔に保ってください。また、近くに金属類を置かないでください。リチウムイオンバッテリーはショートが起きにくいですが、クリップやアクセサリーなどの金属類と接触させないでください。ショートしたバッテリーは発熱することがあり、やけどをするおそれがあります。
- バッテリーを落とした場合は、外装や端子部が破損しなかったか直ちに確認してください。破損したバッテリーを使用すると、本製品が故障するおそれがあります。
- バッテリーには寿命があります。
- 破損したバッテリーは、正しくリサイクルするために、リサイクル協力店にお持ちください。
- バッテリーは絶対に火の中に投げ入れないでください。破裂の原因となります。

バッテリーチャージャー

- バッテリーチャージャーを無線受信機の近くで使用すると、受信障害を引き起こすことがあります。無線受信機から1m以上離してお使いください。
- 充電中に音がすることがありますが、異常ではありません。
- バッテリーを充電していない場合でも、コンセントに差し込んだままにしておくと、微量の電力を使います。使用しないときはコンセントから抜いてください。
- 端子部は清潔に保ってください。また、絶対にショートさせないでください。

メモリーカード

- データの読み込み中や書き込み中は、メモリーカードを本製品から取り出したり、本製品の電源を切ったり、本製品に振動を与えたりしないでください。
- 記録データを保護するために、付属の帯電防止ケースに入れて保管してください。
- 高温の場所、直射日光の当たる場所、磁気や静電気を発生する場所で保管しないでください。
- 落としたり曲げたりしないでください。破損して記録データが消失する原因となります。
- 本製品を長期間使用しない場合は、本製品からメモリーカードを取り出してください。
- メモリーカードの端子部には触れないでください。また、汚れやほこりが付着したり、水でぬらしたりしないようにご注意ください。
- データ削除を繰り返すと断片化が生じて空き容量が少なくなりますので、定期的にフォーマット（初期化）し直すことをおすすめします。

センサー（撮像素子）のクリーニング

センサーのカバーガラスに小さなごみやほこりが付着すると、その大きさにもよりますが、黒い小さな点やマークとなって画像に写り込むことがあります。

センサーをクリーニングする場合は、ライカカスタマーケア部（67ページ）にてクリーニングサービスをご利用いただけます。なお、クリーニングサービスは保証の対象外となり、有料とさせていただきます。また、本製品のメニュー項目にあるセンサークリーニング機能を使えば、シャッターが開いたままの状態になり、センサーをご自身でクリーニングしていただけます。その際、シャッターを開放した状態にしてセンサーを清掃可能な状態にしておく必要があります。

メモ

- 以下の基本事項にご注意ください。本製品の内部にほこりなどが入り込むのを防ぐために、カメラには常にレンズまたはボディキャップを取り付けておいてください。
- 同じ理由から、レンズ交換はできるだけほこりの少ない場所で素早く行ってください。
- プラスチック製のパーツは静電気を帯電しやすいため、ほこりが付着しやすくなっています。ボディキャップを長時間衣類のポケットに入れたままにしないでください。

センサーをクリーニングする

1. **セットアップ**メニュー画面で**センサークリーニング**を選びます。
 - サブメニューが表示されます。
2. **Yes**を選びます。
 - ミラーがロックされ、シャッターが開きます。
3. クリーニングを行います。クリーニングする際の注意については、次の「メモ」をご覧ください。
4. クリーニングが終わったら、本製品の電源を切ります。シャッターが閉じます。
 - **センサークリーニングを中止してください**というメッセージがLCDモニターに表示されます。

メモ

- センサークリーニング機能はバッテリー残量が50%以上残っている場合のみ使用できます。バッテリー残量が十分でない場合は警告メッセージが表示され、クリーニングできないことをお知らせします。
- センサーの汚れがひどくならないようにするために、点検・クリーニングはできるだけほこりの少ない場所で行ってください。
- 8〜10倍のルーペを使うと効果的に点検・クリーニングを行えます。
- 通常のごみやほこりは、清潔な（必要に応じてイオン化した）空気や窒素を吹き付けて吹き飛ばしてください。先端がブラシ状になっていないブロー（ゴム製など）をおすすめします。特別な低圧のクリーニング用エアースプレーを使うときは、各スプレーの使用上の注意に従ってください。
- これらの方法で吹き飛ばせないゴミやほこりが付着している場合は、ライカ製品サポート部までご相談ください。
- シャッターが開いた状態のときにバッテリー容量が40%を下回ると、「注意 センサークリーニングをすぐに中止してください..」というメッセージがまたセンサークリーニングをするときすでにバッテリー容量が40%以下であると、「**センサークリーニングを中止してください**」というメッセージがLCDモニターに表示されます。また、同時にブザー音が鳴り始め、本製品の電源を切るまで鳴り続けます。カメラの電源を切ると、シャッターが閉じます。シャッターが閉じたときに物が挟まるとシャッターが破損することがありますので、電源を切るときは十分ご注意ください。

重要

- ご自身によるクリーニングで生じた破損については一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- センサーのカバーガラスに付着したごみやほこりは、口で吹き飛ばさないでください。わずかな唾液でもセンサーのカバーガラスに付着してしまうと、取り除くのが非常に困難です。
- 高圧の圧縮空気式クリーナーは使用しないでください。センサーが傷つくおそれがあります。
- 点検・クリーニングの際は、硬い物でセンサーに触れないようにご注意ください。

保管

- 本製品を長期間使用しない場合は、次のことをおすすめします。
 - a. 本製品の電源を切る（15 ページ）
 - b. メモリーカードを取り出す（12 ページ）
 - c. バッテリーを取り出す（11 ページ）：約3ヶ月後には日付と時刻の設定が失われます（20 ページ）。
- レンズを装着した本製品の正面に強い太陽光が当たると、レンズがルーペと同じ作用をします。太陽光とレンズの作用により本製品の内部が破損しますので、レンズを保護せずに本製品を強い太陽光に向けたまま放置しないでください。また、レンズカバーを装着して日陰に置いたり、ケースに収納したりして、強い太陽光が当たらないようにしてください。
- 適度に風通しのよい乾いた場所で保管してください。高温・多湿の場所での保管は避けてください。湿気の多い場所で使用した場合は、湿気をよく取り除いてから保管してください。
- 収納しているケースが湿った場合は、湿気や湿度によって染み出てくるなめし剤によって本製品やレンズが故障するのを防ぐために、本製品やレンズをケースから取り出してください。
- 高温・多湿の熱帯地域で使用する場合は、カビなどが発生するのを防ぐために、気密性の高い容器の中に保管するのは、できれば長くないようにしてください。気密性の高い容器で保管する場合は、シリカゲルなどの乾燥剤を入れてください。
- カビや細菌が発生するのを防ぐために、レーザー製のケースに長期間収納したままにしないでください。
- 破損やほこりから保護するために、パッドを詰めた密封ケースに入れ、そのケースは乾燥した環境で保管することをおすすめします。
- 本製品とレンズのシリアルナンバーは、紛失・盗難の際に重要となりますので、書き写して保管してください。

索引

アルファベット

A：絞り優先AEモード	31
DNG	22
DNG圧縮	22
GPS	38
ISO感度	24
ISO感度の設定	24
LCDモニター	7/21
画像の輝度設定	21
P：プログラムAEモード	30
T：シャッター速度優先AEモード	31
RAWデータ/DNG	22
USB接続	51

あ行

アクセサリ	53
色空間	22
オートパワーオフ	20
オートフォーカス	
シャッターレリーズ優先 (AFc)	29
フォーカス優先 (AFs)	29
お手入れ	54
音(ボタン[フィードバック]音)	21
音量、ボタン[フィードバック]音設定	21

か行

解像度	22
各部の名称	7
画質を決める要素-コントラスト/シャープネス/ 彩度	22
画像ファイルの保存	25
画像を削除する	50
メモリーカード上の全ての画像を削除する	50
一枚だけ削除する	50
画像をパソコンに取り込む	51
画像をプロテクト(保護)する/プロテクトを解除する	50
チャリングストラップ	8
クリックホイール	7/30
交換レンズ	14/53
ご注意	6
コントラスト、 「画像のプロパティ」の項を参照	22

さ行

彩度、「画像のプロパティ」の頁を参照	22
再生モード	46
フレーミング	48
オートレビュー機能	46
画像のスクロール	48
再生機能	46
拡大表示	48
絞り値を設定する	30
シャープネス設定	29
オートフォーカス	29
マニュアル設定	29
シャッター速度、「シャッターレリーズボタン」と「テクニカルデータ」の頁参照	26/59
フォーカルプレーンシャッター	15
シャッター速度設定	30
レンズシャッター	14/15/39
シャッターレリーズボタン、 シャッターとテクニカルデータのページも参照してください	26/68
上面ディスプレイ	7/61
画像の輝度設定	21
修理(ライカ カスタマーケア)	67
使用上のご注意	54
シリーズ撮影	26
水準器	28
スペア用アクセサリ	53
すべてのメニュー設定をリセットする	36
セルフタイマーを使って撮影する	34
センサー(撮像素子)のクリーニング	55

た行

調光ボタン	7/35
テクニカルデータ	58
動画撮影ボタン	7/44
取り付ける/取り外す	15
オートパワーオフ	20

な行

は行

ハイスピードシンクロ、フラッシュモードの頁を参照

バッテリー	
取り付ける/取り外す	11
充電する	8
バッテリー残量表示	11
被写界深度	35
日付	20
日付と時刻	20
ヒストグラム	27/47
ビューファインダー	
表示	60
アイピース設定	15
表示	
上面ディスプレイ	61
LCD モニター	62
ファインダー	60
表示言語	20
ファームウェアのダウンロード	51
ファイル形式/圧縮率	22
ファインダースクリーン	13/53
ファインダースクリーンの交換	13

フォーカス設定	29
絞りリング	7
AEフレイム	29
被写界深度	35
付属品	6
部分選択、再生モードについてのページを参照してください	48
フラッシュを使って撮影する	
フラッシュ撮影について	39
フラッシュユニットを取り付ける	40
フラッシュ接続端子	42
フラッシュユニットの準備とファインダー表示	42
コンピューターオート	42
ハイスピードシンクロ機能 (HSS)	41
マニュアル発光モード	42
ストロボモード	41
フラッシュ同調	40
フラッシュ同調速度 / フラッシュ同調範囲	40
TTL調光モード	41
フラッシュユニットの接続	42
フラッシュユニット	39/53
フレームレート	26
ホワイトバランス	22
オート	23
測光して設定	23
固定設定	23
マニュアル	23

ま行

ミラーアップ撮影する	35
メインスイッチ	7/15
メモリーカード設定	25
メモリーカード内のフォルダ構造	51
メモリーカードを	
入れる/取り出す	11
メモリーカードをフォーマット (初期化) する	37
メニュー項目	66
メニュー操作	16

や行

ら行

ライカSのデータ保存形式	55
ライカSレンズ	14/53
取り付けと取り外し	14
露出制御/測光	
モード設定	30
露出補正	32
露出を自動的に変えながら撮影する (オートブラケット)	33
T:シャッター速度優先AEモード	31
露出やピントを固定して撮影する (AE ロック/AF ロック)	32
中央重点測光	30
マニュアル設定	33
多点測光	30
プログラムシフト	31
P:プログラムAEモード	30
スポット測光	30
光量が測光範囲外の場合	34
シャッター速度/絞り値を設定する	30
A:絞り優先AEモード	31

わ・を・ん

テクニカルデータ

型式 ライカ S (Typ 007)

ミドルフォーマット一眼レフレックスタイプデジタルカメラ

レンズマウント ライカS/バヨネットマウント方式

使用レンズ ライカS レンズ

撮像素子サイズ/縦横比 30×45mm / 2:3

センサー/解像度 ライカCMOSセンサー 画素ピッチ：6μm マイクロレンズシフト/37,5MP

ダイナミックレンジ 15EV

色深度 16ビット

モアレフィルター なし（シャープネスを最大限に伝達、モアレはセンサー上でデジタル信号処理により除去）

記録形式 画像：DNG（RAW、圧縮なしまたは質の落ちない圧縮）、DNG+JPEG、JPEG

DNG-/JPEG解像度 DNG：37.5MP、JPEG：37.5MP、9.3MP、2.3MP

ファイルサイズ DNG：約42Mbyte、JPEG：約.1～16Mbyte（使用する解像度/画像内容による）、動画：最大29分まで連続録画が可能 Macコンピュータに転送できる最大ファイルサイズ：4GB

バッファメモリー 2GB、シリーズ撮影の最大枚数（使用するメモリーカードによる）：DNG：最大14、JPEG：無制限

色空間 Adobe® RGB、sRGB、ECI RGB 2.0

ホワイトバランス 自動、マニュアル（要測光）、プリセット（8種類）、色温度設定

記録媒体 CFメモリーカード（最大UDMA7）、SDメモリーカード（2GBまで）、SDHCメモリーカード（32GBまで）、SDXCメモリーカード、容量が1GB以下のメモリーカードは使用不可。4k動画データはSDカードにのみ保存可。

表示言語

英語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ロシア語、日本語、繁体中国語、簡体中国語、韓国語、ポルトガル語

露出制御

測光方法 TTL開放測光

測光モード スポット測光（全画面の3.5%）、中央重点測光、多点測光（5分割）

AFロック シャッターリリースボタン（半押し）、1撮影または継続的なロックにはジョイスティックを使用

露出補正 露出補正 ±3EVの範囲内で1/2EVステップ

オートブラケティング 露出モードに応じて絞り値またはシャッター速度を変更し、露出をずらして複数枚撮影 撮影フレーム数：3枚、5枚 補正ステップ間隔：1/2EVステップ、1EVステップ、2EVステップ、3EVステップ

測光範囲 f2.5使用時、ISO100相当の時、スポット測定：EV2.1～20、中央重点測光および多分かつ測光：EV1.1～20 測光範囲を超える場合はファインダー内に警告表示が点灯（測光素子多点フォトダイオード）

感度 ISO100、ISO200、ISO400、ISO800、ISO1600、ISO 3200、ISO6400、ISO 12500、自動

露出モード **P**：プログラムAEモード（プログラムシフト可能）、**A**：絞り優先AEモード、**T**：シャッター速度優先AEモード、**M**：マニュアルモード

フラッシュ制御

フラッシュユニットの接続 アクセサリーシュー（中央接点および制御接点を装備）、LEMO®または標準的シンクローターミナル（発光制御なし）

フラッシュ同調 フラッシュ同調速度： $\frac{1}{125}$ 秒、または $\frac{1}{1000}$ 秒（レンズ内臓のレンズシャッターでの撮影時）これより遅いシャッター速度でのフラッシュ撮影も可能 ハイスピードシンクロ機能を装備したフラッシュユニット使用時は、 $\frac{1}{180}$ ～ $\frac{1}{4000}$ 秒でのフラッシュ撮影も可能

フラッシュ調光素子多点フォトダイオード

調光方式/制御方式（対応フラッシュユニット使用時）プリ発光によるTTL調光を備えたフラッシュユニットでの制御 カメラで設定したISO感度および絞り値をフラッシュユニットに自動送信し、発光量を自動調整 すべての露出モードで使用可能 自然光の明るさに応じて発光量を自動調整

ハイスピードシンクロ 対応フラッシュユニット（ハイスピードシンクロ機能付きのTTL調光モード）使用時、シャッター幕が走行中に高速で連続発光することにより、露光の始めから終わりまで発光し、被写体全体に均一にフラッシュ光を照射 シャッター速度がフラッシュ同調速度を超えると自動的に設定 **ストロボモード** 対応フラッシュユニット（ストロボモードと同等の機能を装備しているもの）およびSCA-3502 M5アダプター使用時、シャッターが開いている間に連続発光 露出モードが「P」または「A」のときは、シャッター速度を自動設定 **調光補正** 対応するフラッシュユニットに対して調整可能 **ファインダー表示** フラッシュマーク（点灯または点滅）により、フラッシュの状態を表示

フォーカス設定

検出方式 位相差検出方式

センサー/測距点 セントラルクロスセンサー ファインダースクリーンに十字線で表示 ライブビューモードではAEフレームを任意の位置に配置可能

フォーカスモード AFs (シングル、フォーカス優先)、AFc (コンティニューアス、レリーズ優先)、MF (マニュアル)、

AF ロック シャッターレリーズボタン (半押し)、1撮影または継続的なロックにはジョイスティックを使用

駆動モーター レンズに内蔵

ビューファインダー

アイピース アイレベル式 -3~+1 dpt.の範囲で視度補正が可能

ファインダー視野率 98%

ファインダー倍率 0.87倍 (70mmレンズ、∞、0 dpt.時)

ファインダースクリーン 交換可能、標準装備：Sシステムマイクロプリズムスクリーン

表示部

ファインダー 下部にバックライト付LCD表示

上面ディスプレイ LCD (自発光)

LCDモニター 3型TFT式LCDモニター 表示色：1600万色、ドット数：921,600ピクセル、画像面：ほぼ100%、視覚認識可能角度：最大170°、反射防止保護ガラス(Corning® Gorilla Glas®)、色空間：sRGB

ライブビューモード 露出シミュレーションの有無を選択可、スポットAEフレームを画像上のどこにも移動可 (スポットAEフレームの移動に伴ってAF測距枠も同様に自由移動可)、ヒストグラム表示とクリッピング表示の有無を必要に応じて選択可、被写体のピントを合わせた部分を強調表示(フォーカスピーキング)、グリッド線と水準器の表示、画像の詳細情報

動画モード

ファイル形式、解像度、フレームレート、色走査 MOV (Motion JPEG)、フルHD (解像度1080 x 1920、フレームレート24, 25または30B/秒) か4K(解像度2160 x 4096、フレームレート24B/秒) から選択可、4:2:2

露出制御 画像モードと同様

録音 48kHz / 16Bitステレオで内臓または外付けマイクを選択可、タイムコード

その他 設定した被写体のピント部分を強調表示 (フォーカスピーキング) の有無を選択可、HDMIポートを使用して外部機器での再生可フルHDの動画ストリーム、および4k動画のファイルはSDカードにのみ保存することができます。

シャッターとレリーズ

シャッター カメラ内ではメインスイッチで以下を選択可能：上下移動が可能なマイクロプロセッサ制御のメタルブレードフォーカルプレーンシャッター (対応するライカCSレンズ装着時) セントラルレンズシャッター

シャッター速度 マニュアル設定 (露出モードが**T**または**M**のとき)：60秒~ $\frac{1}{4000}$ 秒 1/2段ステップ(60- $\frac{1}{1000}$ 秒 セントラルレンズシャッター使用時)、B (バルブ撮影) 設定のとき：最大60秒、フラッシュ同調速度は $\frac{1}{125}$ 秒まで ($\frac{1}{1000}$ 秒 セントラルレンズシャッター使用時)

露出モードが「**P**」または「**A**」のとき：60秒~ $\frac{1}{4000}$ で自動設定 (連続的に変化)、セントラルレンズシャッター使用時は8秒~ $\frac{1}{1000}$ 秒

$\frac{1}{125}$ 秒より短い全てのシャッター速度でハイスピードシンクロ撮影が可能 (ハイスピードシンクロ対応SCA3002スタンダードのフラッシュユニットを適切に装備しているときのみ)

シリーズ撮影/インターバル撮影 シリーズ撮影：約3,5枚/秒、DNG形式で最大14枚連続、JPEG形式で無制限に撮影可能
インターバル撮影：撮影開始までの時間、撮影枚数、撮影間隔を選択可

シャッターレリーズボタン 2段階の操作ポイント：半押し：測距システムおよび測光システムをオンにしてAE/AF ロック 全押し：レリーズ

セルフタイマー 2秒、12秒 作動中は本体正面のLED が点滅、LCDモニターに残り時間をカウントダウン表示

ミラーアップ撮影 1回目のレリーズ：ミラーが上がり、絞りを設定値まで絞り込む 2回目のレリーズ：シャッターが作動

本体電源のオン/オフ 本体上面上のメインスイッチを使用 一定時間が経過したあとに自動的にスタンバイモードに移行する「オートパワーオフ」を設定可能 (移行までの時間は2分、5分、10分、オフから選択)

電源 充電式リチウムイオンバッテリー (定格電圧7.3V、容量2300 mAh) 上面ディスプレイにバッテリー残量を表示；、充電電流/充電電圧：DC 1250mA / 7.4V、型番：BP-PRO1；製造元：PT. VARTA Microbattery Indonesia；インドネシア製、電源ユニットによる連続出力が可能 (別売り)

バッテリーチャージャー 高速充電バッテリーチャージャー；定格入力：AC100~240V (50/60Hz、200mA、自動切替)、DC12/24 V (1A)； 定格出力：DC7.4V (1250mA)、最大8.25V (1265mA) 型番：9C94270；製造元：Ansmann；中国製

GPS 使用可能 (各国の法律に基づき利用可能地域は限定されず。使用が禁止されている地域では自動的かつ強制的にスイッチがオフになります) データは、画像ファイルのEXIFヘッダーに書き込まれます。

ワイヤレスLAN (802.11nスタンダード)、カメラ内蔵、スマートフォンまたはタブレットアプリでカメラ操作と画像操作が可能
水準器 加速度センサーによって測定 測定範囲：縦軸および横軸方向の傾き $\pm 90^\circ$ 測定精度/表示感度 1° 以下 (0-40° Cのとき) 表示はLCDモニターに

本体

材質 シャーシ：マグネシウムダイカストのフルメタル、すべりにくいラバー外装仕上げ ボトムカバー：アルミニウム、バヨネット：ステンレス鋼

三脚穴 $\frac{1}{4}$ (1/4 インチ) DIN および $\frac{3}{8}$ (3/8 インチ) DIN (金属製三脚)、DIN4503 準拠ロック機構付、レンズ光軸直下に三脚座を配置

動作環境 温度：0~+45°C 湿度：15~80%

インターフェース ISOアクセサリースュー (追加の制御接点とロックピン穴付)、HDMIポート (タイプC)、データ出力用 LEMO®プラグ(USB 3.0スタンダード)、アクセサリーのリモート制御/フラッシュのリモートレリーズ用9ピンLEMO®プラグ、オーディオアダプターによるオーディオ入出力が可能 (別売り)

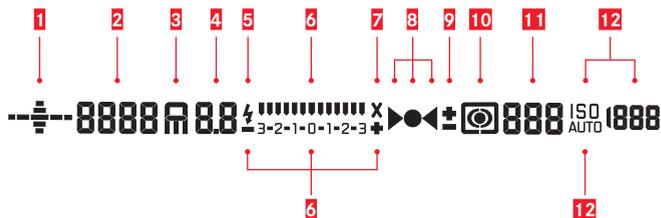
寸法 約160×120×80mm (幅×高さ×奥行)

質量 約1260g (バッテリー含む)

付属品 バッテリーチャージャー (100~240Vに対応、米国仕様) の電源プラグを装備、ヨーロッパ/UK/オーストラリア使用の着脱式電源プラグおよびカーバッテリーコードを付属)、充電式リチウムイオンバッテリー、キャリングストラップ、ボディキャップ、アイピースカバー、付属ソフトウェア (ライカカメラ株式会社のホームページでカメラを登録するとダウンロードできます。)

画面の表示

ビューファインダー



1 水準器

(縦軸での傾き/横軸での傾き；表示は、例として、時計回り方向の傾きを示しています；他の方向も同様に表示されます)

- 最大±0,5°
- 0,5~2,5°
- 2,5~5°
- 5~10°
- 点滅≥10°

2 シャッター速度/測光時間

- 露出モードが「**m**」および「**T**」では手動設定したシャッター速度が、「**A**」および「**P**」では自動設定されたシャッター速度が、1/2 段ステップで表示されます。
- 露出モードが「**A**」、「**P**」、「**T**」のときやフラッシュ撮影時に、露出オーバーの場合は「**HI**」が、露出アンダーの場合は「**LO**」が表示されます。また、測光範囲を下回る場合も「**LO**」が表示されます。
- **bulb** Bバルブ撮影時に表示されます。
- **[Err]** メモリーカードが一杯になったことの警告メッセージを表示しています。

3 露出モード

- **P** プログラムAEモード
- **A** 絞り優先AEモード
- **T** シャッター速度優先AEモード
- **m** マニュアルモード

4 絞り値

露出モードが「**m**」および「**A**」では手動設定した絞り値が、「**T**」および「**P**」では自動設定された絞り値が、1/2 段ステップで表示されます。

5 フラッシュマーク

- 点灯：充電完了
- 点滅：充電中およびフラッシュ使用不能時

6 露出インジケータ

(目盛：1/2 EV毎、最後の目盛/数が-3EV以下/+3EV以上のときに点滅します。)

- マニュアルモード時に表示されます。
- 露出モードが「**A**」、「**P**」、「**T**」のとき、露出補正を行うとその補正値が表示され、またAEロックを行うと点灯し、固定した露出値と新しい露出値の差を確認できます。
- 露出補正

7 フラッシュマーク

シャッター速度が同調速度範囲内に設定されているときに点灯します。(高速シンクロ時を除く)

8 フォーカスマーク

- マニュアルフォーカスおよびマニュアル優先オーバーライド：目的の被写体よりも奥にピントが合っているときに点灯します。AFs およびAFc：表示されません。
- マニュアルフォーカスおよびマニュアル優先オーバーライド：被写体にピントが合っているときは点灯します。ピント合わせができないときは点滅します。
 - **AFs**：被写体にピントが合っているときは点灯します。ピント合わせができないときは点滅します。
 - **AFc**：被写体にピントが合っているときは点灯します。再度ピント合わせを開始したときは消灯します。
- マニュアルフォーカスおよびマニュアル優先オーバーライド：目的の被写体よりも前にピントが合っているときに点灯します。AFs およびAFc：表示されません。

9 露出補正マーク/ストロボ調光補正マーク

10 測光モード

- 評価測光
- 中央重点測光
- スポット測光

11 画像カウンター

- **999** 撮影可能枚数 (CFとSDの合計；おおよそ)
- **USB** PCダイレクト撮影時
- **0** = (2Hzで点滅)：メモリーカード空き容量が足りません。
- **---** = (2Hzで点滅)：メモリーカードが入っていません。
- **L** = シリーズ撮影可能枚数 (おおよそ)
- **Err** エラーメッセージ

12 ISO表示

- **ISO** マニュアル設定時
- **ISO** ISOオート設定時
- **ISO** **HI 1** (ISO3200) / **HI 2** (ISO6400) / **HI 3** (ISO12500)=現在の設定感度

メモ

ファインダー内のLCD表示は本製品の電源を入れると点灯します。表示の明るさは、周囲の明るさに応じて見やすいように自動調整されます。

画面の表示

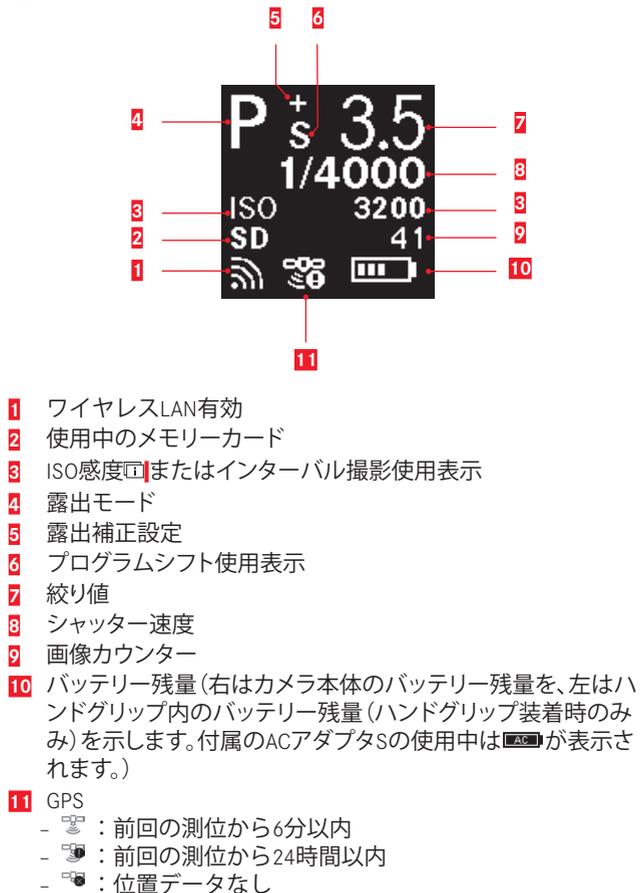
上面ディスプレイ

起動直後の画面

(カメラの電源を入れたあとに約5秒間表示されます。)

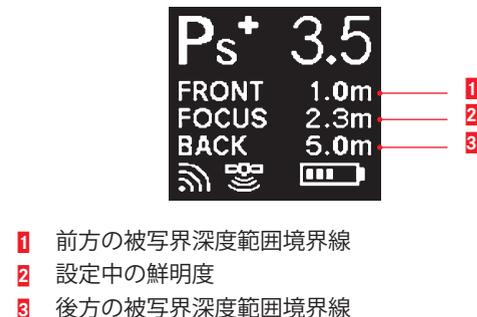


通常画面



被写界深度表示

(マニュアルピント合わせ時にシャッターレリーズボタンを半押しします)



露出モード設定時の表示

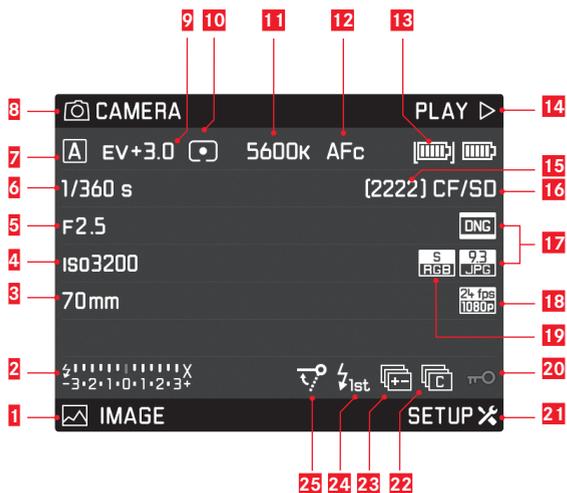
(クイックホイールを長押しした後、数秒間表示されます)



画面の表示

LCDモニター

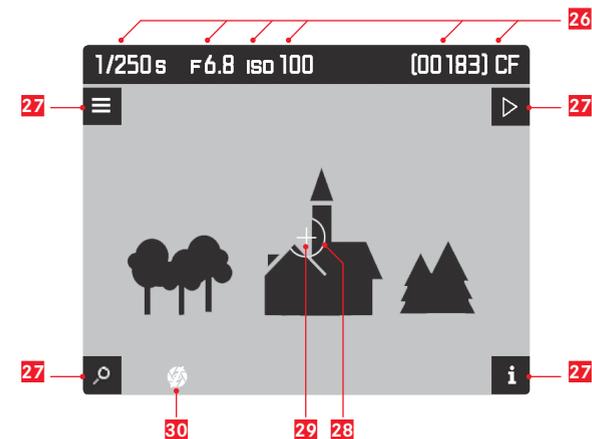
撮影情報表示



- 1 ボタン左下の機能
- 2 フラッシュ使用可能表示、露出インジケーター、フラッシュ同調速度表示
- 3 レンズの焦点距離
- 4 ISO感度/ISO設定
- 5 絞り値
- 6 シャッター速度
- 7 露出モード
- 8 ボタン左上の機能
- 9 露出補正值
- 10 測光モード
- 11 ホワイトバランス設定
- 12 オートフォーカスモード
- 13 バッテリー残量/ACアダプタ使用中表示
- 14 ボタン右上の機能
- 15 撮影画像枚数
- 16 使用中のメモリーカード
- 17 画像データ形式/JPEG解像度
- 18 動画解像度/動画フレームレート
- 19 色空間
- 20 キーロック設定
- 21 ボタン右下の機能
- 22 マーク
 - 個別撮影
 - シリーズ撮影
 - インターバル撮影
 - セルフタイマー操作
- 23 オートブラケットモード
- 24 フラッシュ同調のタイミング
- 25 ミラーアップモード

ライブビュー画像撮影モード

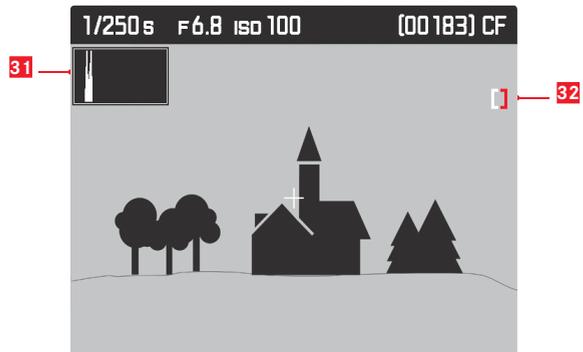
通常画像再生



- 26 6, 5, 4, 15, 16 を参照
- 27 ボタンの機能表示
(全てのライブビュー画面で次の4つのボタンのいずれかを押しすと表示。約3秒後に表示が消える)
 - 拡大機能
 - メニュー操作
 - 再生モード
 - 表示形式の切り替え
- 28 スポットAEフレーム
- 29 オートフォーカスAEフレーム
- 30 露光シミュレーション無効

画像再生と画像情報表示

A ヒストグラム表示とクリッピング表示



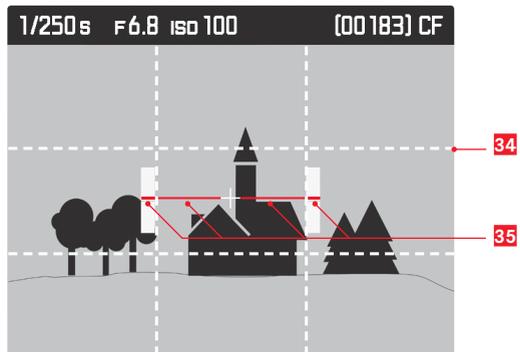
- 31 ヒストグラム
- 32 クリッピングマーク

B 縁を強調表示 (ピーキング)



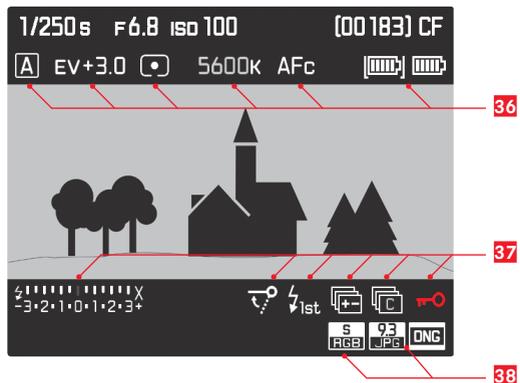
- 33 ピーキングマーク

C グリッドと水準器



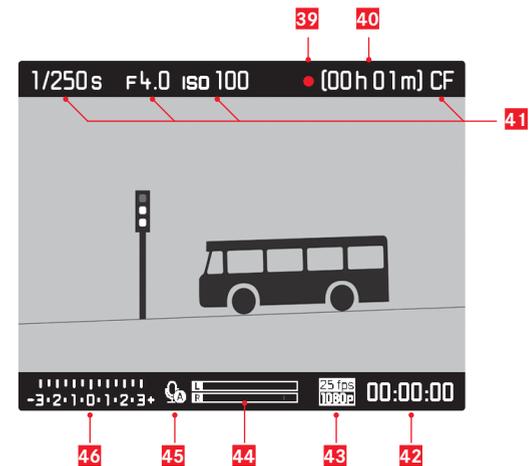
- 34 グリッド線
- 35 水準器

D 画像情報



- 36 7, 9, 10, 11, 12, 13 を参照
- 37 2, 25, 24, 23, 22, 20 を参照
- 38 19, 17 を参照

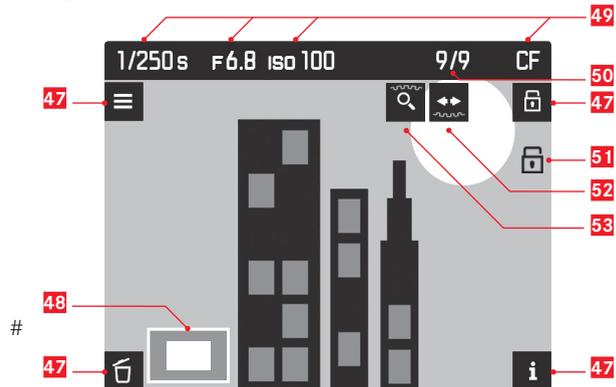
動画撮影モード



- 39 動画再生時の注意
- 40 連続録画可能時間
- 41 6, 5, 4, 16 を参照
- 42 実録画可能時間
- 43 動画解像度/動画フレームレート
- 44 音声ピークプログラムメーター
- 45 録音方法
 - オート調整
 - マニュアル調整
 - 録音機能無効
- 46 露出インジケター、およびヘッドホンのボリュームコントロール、の音量

画像再生モード

通常画像再生



47 ボタンの機能

(全ての画像、動画再生モード時に次の4つのボタンのいずれかを押し则表示。約3秒後に表示が消える)

- 画像削除メニュー
- メニュー操作
- 画像保護メニュー
- 表示形式の切り替え

48 拡大倍率と拡大位置

49 6, 5, 4, 16 を参照

50 表示中の画像番号 / 全画像の枚数

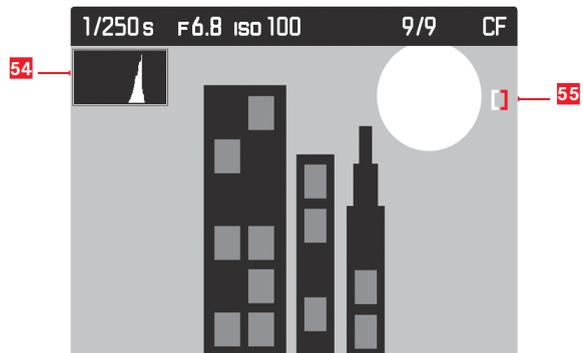
51 プロテクトマーク

52 音声再生機能に関する注意(シャッター速度ダイヤル)
(52と53は47と同時に表示/非表示されます)

53 拡大機能に関する注意(クリックホイール)

画像再生と画像情報表示

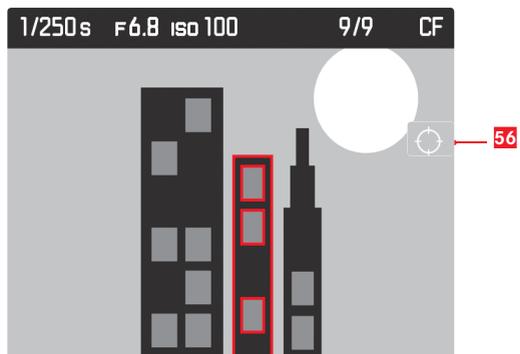
A ヒストグラム表示とクリッピング表示



54 ヒストグラム

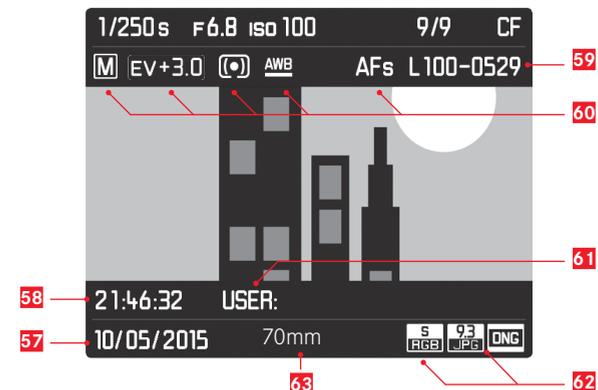
55 クリッピングマーク

B 縁を強調表示 (ピーキング)



56 ピーキングマーク

D 画像情報



57 撮影日付

58 撮影時刻

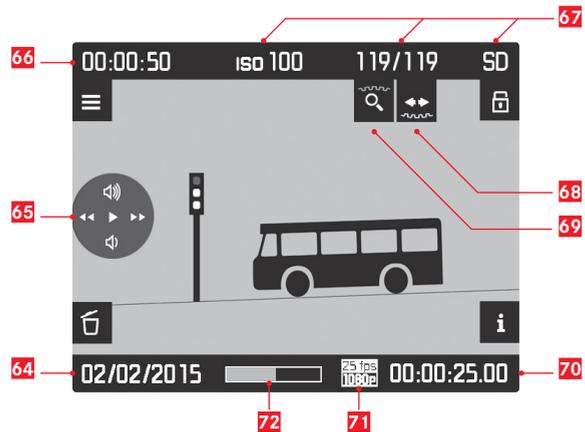
59 画像番号

60 7, 9, 10, 11, 12 を参照

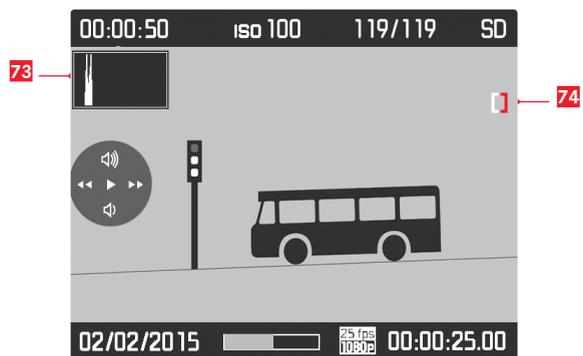
61 プロファイルの保存領域

62 19, 17 を参照

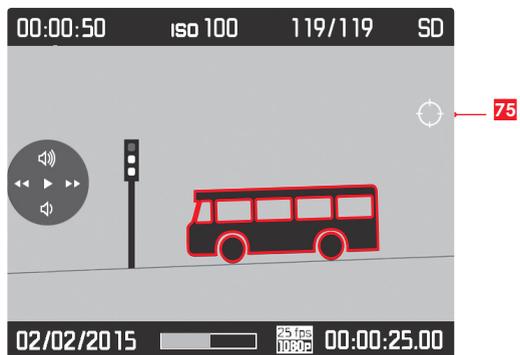
63 使用した焦点距離



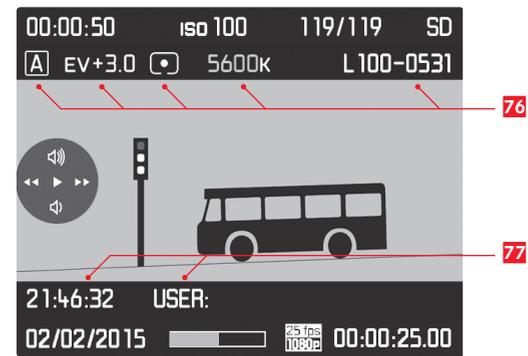
- 64** 撮影日付、音量設定 の音量設定、**65** も参照してください。
- 65** 動画操作マーク (ジョイスティック用)
 - 再生 (ジョイスティックを前へ押す)
 - 早送り (ジョイスティックを右へ押し、そのまま押し続ける)
 - 巻き戻し (ジョイスティックを左へ押し、そのまま押し続ける)
 - 音量を上げる (ジョイスティックを上へ押し、そのまま押し続ける)
 - 音量を下げる (ジョイスティックを下へ押し、そのまま押し続ける)
- 66** 全動画再生時間
- 67** **4, 50, 16** を参照
- 68** 音声再生機能に関する注意 (シャッター速度ダイヤル)
- 69** 拡大機能に関する注意 (クリックホイール)
- 70** 経過した再生時間
- 71** 動画解像度/動画フレームレート
- 72** シークバー (経過した再生時間を表示)



- 73** ヒストグラム
- 74** クリッピングマーク



- 75** ピーキングマーク



- 76** **7, 9, 10, 11, 59** を参照
- 77** **58, 61** を参照

メニュー項目一覧

メニューカテゴリ	メニュー項目	ページ
CAMERA	ドライブモード	26/34
	フォーカスモード	29
	測光モード	30
	露出補正	32
	露出ブラケット	33
	ミラーアップ	35
	最大シンクロ時間	40

メニューカテゴリ	メニュー項目	ページ
IMAGE	ISO	24
	ホワイトバランス	22
	静止画記録形式	22
	JPEG記録画素数	22
	JPEG設定	22
	動画画質	43
	動画設定	43/45

メニューカテゴリ	メニュー項目	ページ
SETUP	バックアップ(CF+SD)	25
	フォーマット	37
	画像番号	37
	オートレビュー	46
	キャプチャーアシスタント	27/28/29/47
	著作権情報	38
	ユーザープロフィール	36
	オートISO設定	24
	フラッシュ同調	40
	キーロック	30
	カスタマイズ	32
	ディスプレイの明るさ	21
	電子音	21
	オートパワーオフ	20
	WLAN	52
	GPS	38
	日付/時刻	20
Language	20	
設定リセット	36	
センサークリーニング	55	
カメラ情報	2/51	

ライカのホームページ

ライカのホームページでは、各種製品、イベント、ライカについての最新情報をご覧いただけます。

<http://www.leica-camera.co.jp>

ライカ Sシステムヘルプライン

<技術的なお問い合わせ窓口>

Tel: 03-6215-7033

電話受付時間:

火曜日—土曜日 10:00 - 18:00

祝祭日は受け付けておりません。

ライカ カスタマーケア

お手持ちの製品のメンテナンスや修理が必要な場合は、下記のカスタマーケア、またはお近くのライカ正規販売店までご相談ください。

ライカカメラジャパン株式会社

カスタマーケア

東京都中央区銀座6-4-1 ライカ銀座店内

Tel: 03-6215-7072

Fax: 03-6215-7073

E-mail: info@leica-camera.co.jp



my point of view

ライカカメラジャパン株式会社
東京都千代田区有楽町1-7-1
Tel 03-5221-9501 / Fax 03-5221-9502
info@leica-camera.co.jp
www.leica-camera.co.jp